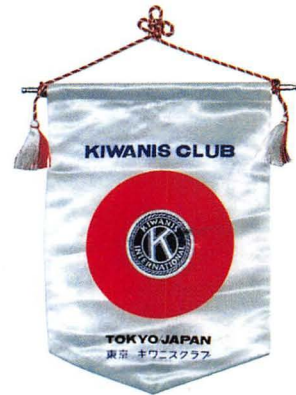
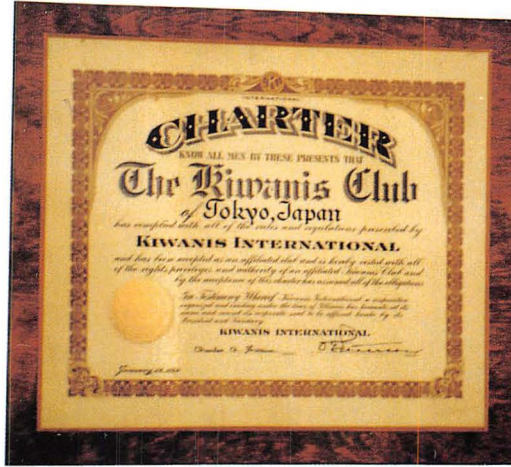


30年の歩み

(社)東京キワニスクラブ



「慰靈の泉」





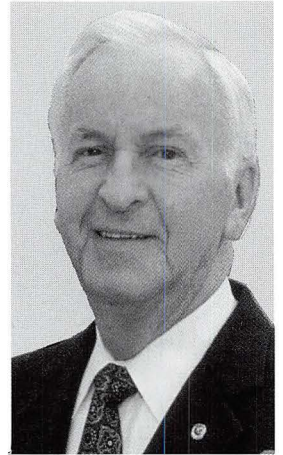
Young Children:
PRIORITY ONE

CONTENTS

目次

あいさつ	4
アーサー・スワンバーグ国際キワニス会長	
重崎伸矩キワニス日本地区会長	
小菅宇三治東京キワニスクラブ会長	
懐かしのアルバム	7
キワニスをつくった人びと	31
キワニスをつくった人びと 座談会	
回顧録	43
ACTIVITIES	57
30周年記念事業	
キワニス社会公益賞	
東京キワニスクラブ青少年教育賞	
リーダーシップトレーニングセミナー	
キワニス文化賞	
わたしの30	71
58人の随想	
トピックス	89
トラトラトラ秘話	
キワニスをめぐって	
第7回アジア太平洋会議	
キワニスごよみ	95
設立30年のあゆみ	
キワニスデータ	113
歴代会長とコンベンション	
会員名簿	
皆勤者一覧	
編集後記	119

December 15, 1993



Usaji Kosuga, President
Kiwanis Club of Tokyo
C/O Sankei Bldg
7-2 Ohtemachi
1-Chome Chiyoda-Ku
100 Tokyo
Japan

Dear Mr. Kosuga:

Congratulations to the Kiwanis Club of Tokyo upon your anniversary!


This must be a happy occasion for both your club and for the community which you serve. I hope many have benefited from your years of caring service.

You are to be recognized and thanked by your district for the leadership your club has provided over these years. Kiwanis is grateful, for the club is the heart and soul of our great organization.

I hope that your members will continue to share their talents and time with the less fortunate for years to come, and that your club becomes a greater and stronger influence in your community.

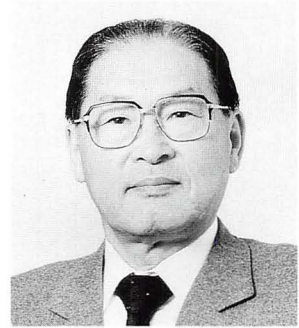
Please extend these best wishes to the membership, and I hope for continued success and fellowship in Kiwanis. And remember, we must SERVE TO GROW, AND GROW TO SERVE.

Most Sincerely,


Arthur D. Swanberg
International President

東京キワニスクラブ
設立三十年に寄せて

重崎伸矩
(キワニスインターナショナル日本地区会長)



東京クラブが設立されて30年。早いものです。私はチャーターメンバーの一人でありますし、幸か不幸か？この記念すべき年に日本地区会長を務めることになったのは、大変感慨深く思っております。過去30年を振り返ってみますと、日本人の生活はおおむね着実に向上してきましたし、私自身についても、一時的に激変はあったものの、何とかクリアーできてきたつもりです。

ただ、最近強く思いますのは、30年は本当にいろいろな意味で節目になるナンバーだということです。「企業30年説」がありますが、これは企業だけでなく、あらゆる組織、キワニスにも言えるのではないかと思うのです。それは「世代交代」という大きな問題です。この問題をうまく乗り切ることで、キワニスの将来像が浮かんでくるように思えるのです。

魅力あるボランティア活動の在り方、時代に合ったキワニアンはどうあるべきかを、皆さんと知恵をしぼり合いながら、より充実させることが出来たら幸いに思います。

ご協力をよろしくお願い申し上げます。

あいさつ

小菅宇三治
(東京キワニスクラブ会長)



東京キワニスクラブは、去る一月二十四日設立三十周年を迎え、ファミリーデーの今日記念式典を催すはこびとなりました。

設立以来チャーターメンバーを核として多くの方々から強い支持と信頼をもって迎えられ、今日の姿に成長発展いたしましたことは誠にご同慶の至りであります。

東京キワニスクラブは節目の三十周年に当り次の二面に更なる努力を重ねてゆかねばならないと存じます。

その第一面は、キワニス世界大会の決議事項を体した日本地区会長の方針と、日本リーダー格クラブとして具体的に実行に移す責任であります。

その一は会員増強その二はヤングチルドレン:プライオリティワンであります。

東京キワニスクラブは官民学識経験者三者のトップクラスより構成されている点では、世界一のクラブと自負して居ります。三十年と云う暦をはねのけて何時までも青年壮年の気でおられるメンバー達ですが、加うるに暦年の若いエクセレントメンバーを迎え名実共に若いクラブとすべく、会員増強は絶対に必要と考えます。

その二は世界的視野に立って次代を考えた時、世界の幼児の貧困と病気の問題であります。昨年はエイズ、本年は沃度不足であります。共にある機関が中心となって手をさしのべれば、五億十億の若き命が救われると云うこと。会員の軽ボラ（軽い気持で投ずるボランティア活動の意で今の若い人達の間で使われている流行語）の一投を期待する次第であります。

さて第二面は当クラブの活動をより若々しく且魅力あるものにする為の努力です。毎週金曜日の例会には、政治経済文化の三分野を調和よく取り入れて各界有名人に話題提供していただいております。火曜会ではビール、ワインを飲みながら会員同志の雑談を交わすことにより、夫々自己の専門分野外の知情根を吸収されていると思えます。

例会外の活動としては、ファミリーデー観劇、旅行、グルメ巡り等の他、同好会としてワイン観賞、ゴルフ、小唄等々があります。もっと、もっと楽しく有意義な催しを画すべく鋭意努力中であります。

以上の第一面、第二面は当クラブの骨子ですので要約すれば当クラブは社会奉仕的友好団体とでも云えましょう。

三十周年を機に各委員会は後世に残る何等かの企画を平成六年一年間の間に実行すべく画策中でもあります。

本日お配りします「三十年の歩み」は会員方々の寄せられた貴重な感想集であります。

三十年の歴史を糧として会員の皆様とご一緒に更に大きな発展を目指したいと存じます。より一層のご支援ご鞭撻をお願い致します。



KIWANIS CLUB OF
Ladies
NOV 12 FRIDAY 1

懐かしの アルバム



加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

JAPANESE



「慰霊の泉」

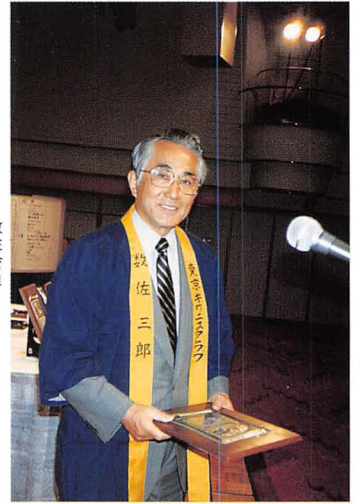




鈴木会員



清掃奉仕活動で感謝状を受ける岡部会員



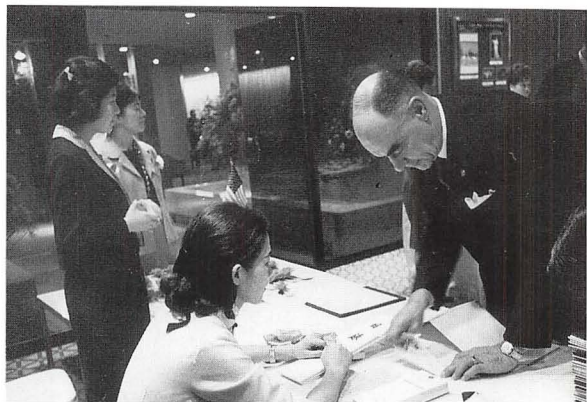
数佐会員



せいばつ式

チャーターパーティ

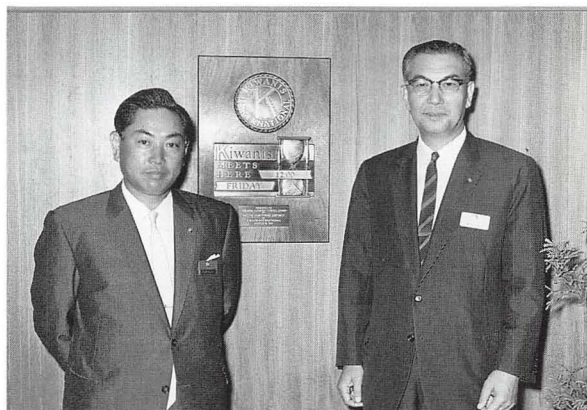
1964.3.8



ジャックデルフ国際理事



キウニスイインターナショナル・ハイパワ理事よりチャーターを受ける鹿内初代会長



鹿内初代会長

小幡事務局長

左
藤川
会員



チャーターパーティー

チャーターパーティー

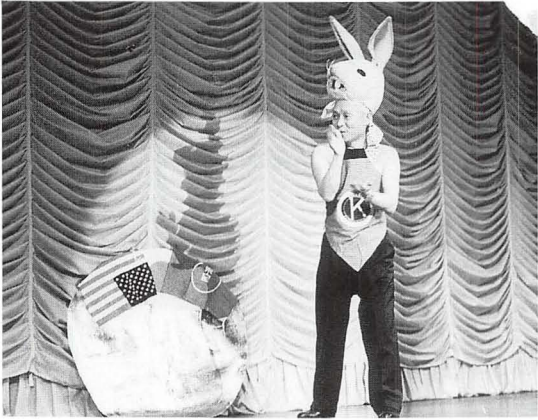


アニバーサリー



15周年

1周年



15周年



20周年



植樹記念特別例会 1991.2.1

「キワニスの森」



葛西臨海公園に大島さくら寄贈



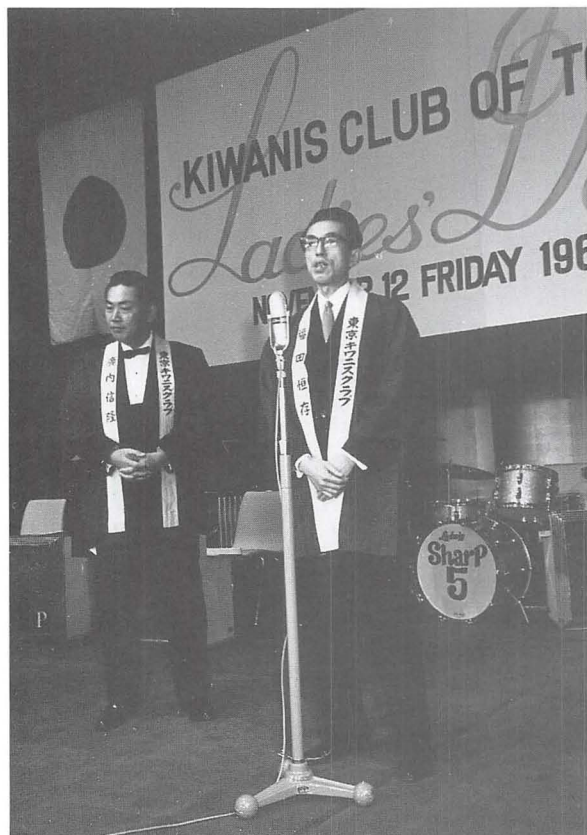


東京都より感謝状を受ける赤沢会長



お花見例会

第一回「キワニス文化賞」



福田恆存文化委員長

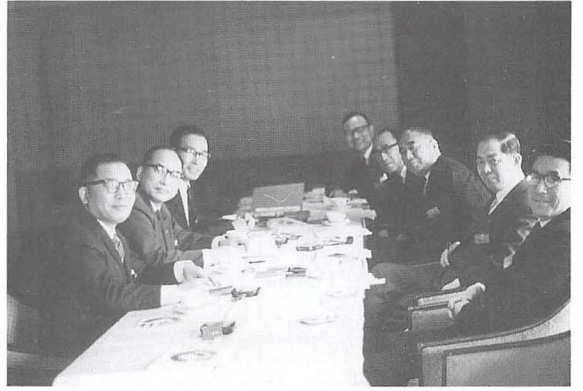


漆工蒔絵 高野、松山氏に

ミーティング



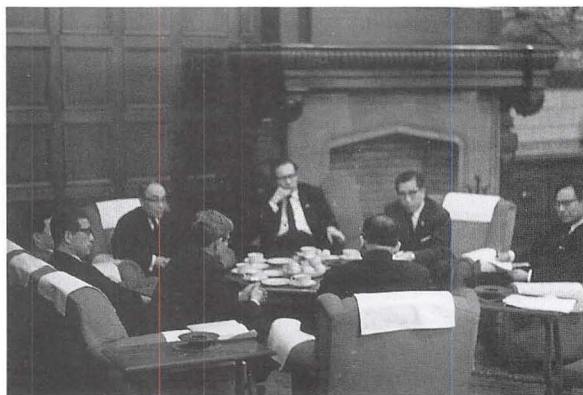
リーパー国際理事と会話の安部日本地区会長



例会風景



一〇〇〇回記念例会で泉会長





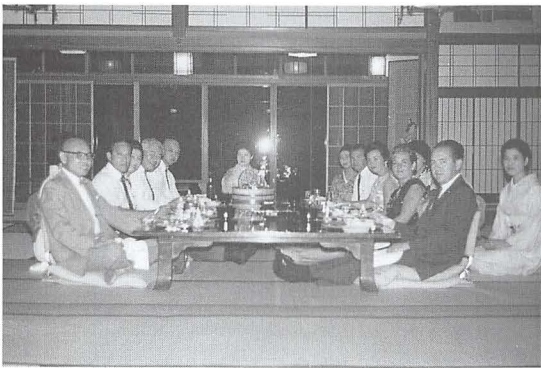
小坂徳三郎会員



IOCアベリーブランドエージ会長



鹿内初代会長 追悼例会



キワニス
 インターナショナル会長
 公式訪問



ジェームスモラー国際会長夫妻 美濃部都知事訪問

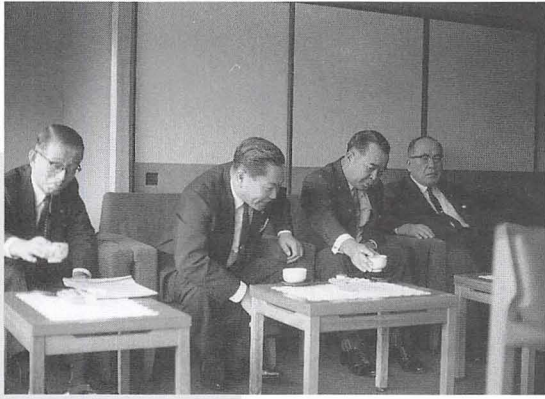




キワニス日本地区設立のあけぼの



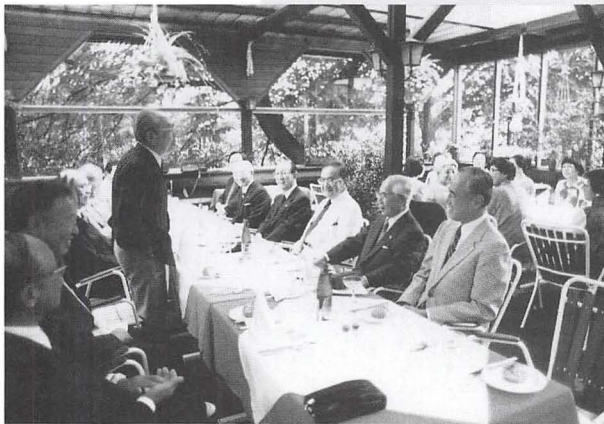
10
クラブ
設立
につ
いて
話す
円卓
会議



重崎日本地区会長ニース大会にて



キワニスインターナショナル 年次総会



岩田日本地区会長ウィーン大会にて



水島日本地区会長ニューオリンズにて



アジア太平洋会議



第7回東京大会で水島日本地区会長
エンスタット国際会長と



上田事務局長



安藤会長



荒井国際委員長 宮城マリ子さんと

安藤 善会長

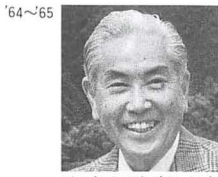


第24回キワニス文化賞受賞者(結城紬)外山ミヨさん



日本地区東京大会





'64~'65
鹿内信隆(物故)



'66
原文兵衛(退会)



'67
北裏喜一郎(物故)



'68
篠島秀雄(物故)



'69
上村健太郎(物故)



'69~'70
田坂輝敬(物故)



'70~'71
水島広雄



'71~'72
中山恒明(休会)



'72~'73
平野 赳(物故)



'73~'74
岩田式夫(物故)



'74~'75
杉浦敏介



'75~'76
大堀 弘(物故)



'76~'77
藤田一暁(物故)



'77~'78
熊野修一(物故)



'78~'79
鈴木俊一(退会)



'78~'79
'79~'80
泉美之松(物故)



'80~'81
安藤 蕃



'81~'82
上田英雄(物故)



'82~'83
片桐良雄



'83~'84
上田隆介



'84~'85
永井邦夫



'85~'86
安部 英



'86~'87
木戸孝彦



'87~'88
池辺乾治



'88~'89
重崎伸矩



'89~'90
安藤良夫



'90~'91
'91~'92
赤澤璋一



'92~'93
'93~'94
小菅宇三治



キワニスを つくれた人びと

キワニスつくれた人びと
座談会

加盟祝賀会名古屋キワニスクラブ

キワニスをつくった人びと



エピソード 創設の

1956年 当時、東都製鋼と車輪工業の社長をしていた藤川一秋氏がカイザースチールを見学のため渡米した際、ナショナルシチズン銀行のゴア頭取が、リバー

サイド地区の時のガバナーだった関係で、極東に初のキワニスクラブとして東京クラブを作ってもらえないかと依頼したが、藤川氏の多忙に紛れて1963年までそのままになっていた。当時車輪工業の営業担当常務であった小幡康吉氏が、直接フォード社との商談で、デトロイトに行くことになったその打ち合わせ中、突然藤川社長より、仕事を兼ねて、キワニスクラブ設立の用事も依頼された。同年7月20日のことであった。翌日、ロサンゼルス Hilton Hotel で、カリフォルニア・ネバダ・ハワイ地区のスロトングガバナー、ゴア氏、バベジ氏も含め、役員10名くらいと会談、キワニスとは？日本での設立の可能性などを話し、では、ど

んなクラブを作るのかとのゴア氏の質問に答えて、小幡氏が、ただ数だけ多くするのは、ロータリー、ライオンズ等の同種社会奉仕団体になってつまらない。特に選りすぐった人達のクラブにするためには、数多くのクラブを作ることは不可能である。東京、名古屋、大阪の3地区にしか作らない。又、出席率等の特別ルールを認めて貰いたいとの提案をしたが、すっきり受け容れてくれなかった。しかし半日の討論の後、日本の事情が解らないから、と、小幡氏一任となった。

7月26日、バベジ氏同行で、シカゴ本部に出向き、O.E.、ピーターソン事務局長他役員7～8名と討議、口約だが、東京、大阪、名古屋の3地区のみで、スタートすることとなった。翌日、デトロイトキワニスクラブで昼食会に招かれ、「日本で、クラブを作りたい」と挨拶すると大変嬉ばれた。帰国後、車輪工業に創立の事務局を作り、ハワイのマウイ島のバーデン氏にも手伝って貰った。この頃創立趣意書を作ったのも、小幡康吉氏である。

発起人は

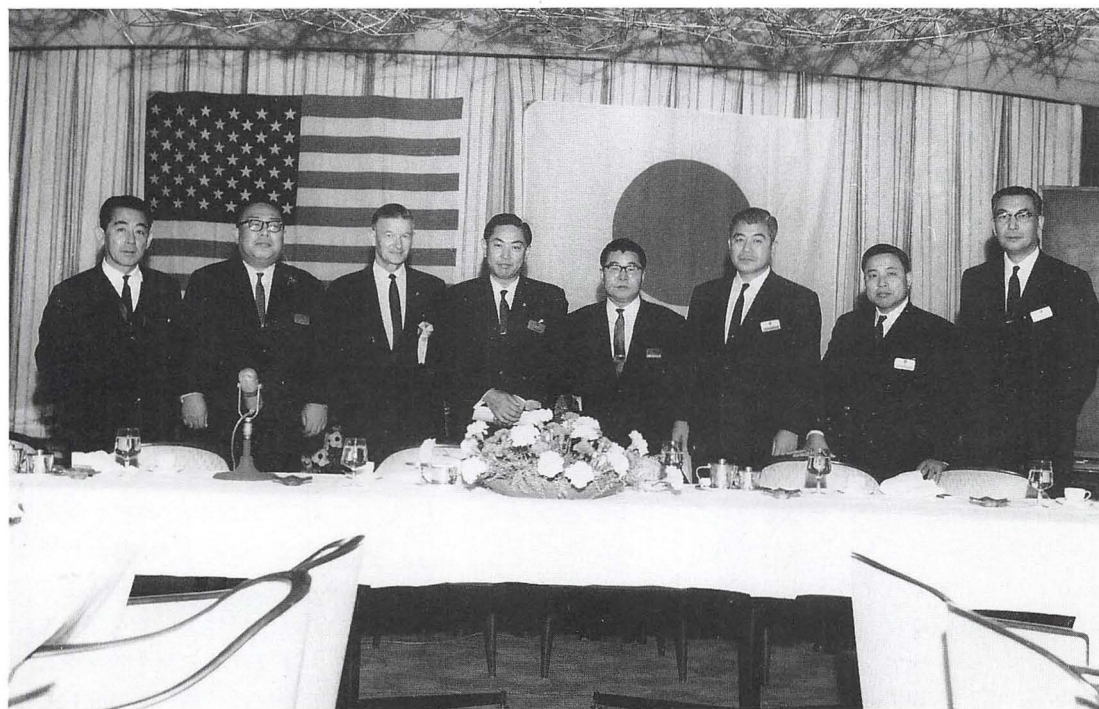
- 石川六郎 (鹿島建設副社長)
- 小幡康吉 (車輪工業常務取締役)
- 北裏喜一郎 (野村証券副社長)
- 小坂徳三郎 (信越化学工業社長)
- 五島 昇 (東急電鉄社長)
- 鹿内隆信 (サンケイ新聞副社長)
- 原文兵衛 (警視總監)
- 藤川一秋 (東都製鋼社長)

の八氏であった。日本にキワニスを作るにあたって、同年者でやっていた「いのしし会」のメンバーが、まず小幡氏の頭をよぎった。

鹿内氏が欠席ながら会長を引き受けてくれたことがキワニスクラブの運命を決めたと云われる。文字通り、極めて熱心に活動し会議には必ず出席し、積極的な発言をした。原文兵衛氏を発起人に願ったのも、役人を入れておこうという鹿内氏の意見だった。大阪クラブ設立の際、会長就任を厭がって逃げる永田敬生氏に、新橋「金田中」で、「お前もいいかげん男らしく返事をしろ」と脅迫、同じくいのしし会のメンバーだった永田氏を説き伏

せたという。東京クラブの例会は1963年10月から始められた。初代事務局長は小幡氏が引き受けた。

1964年1月24日、設立総会、同年3月、ヒルトンホテルで盛大なチャーターナイトが催された。チャーターメンバーの選考は、五島昇、小坂徳三郎両氏が、極めて熱心に、喧しくあたった。それ以前、鹿内氏は、キワニスインターナショナル本部のピーターソン事務局長の家に招かれ、キワニスクラブ日本設立の趣旨を確認している。ロータリーや、ライオンズが根を張っている中で、それと全く同じものを狭い日本に並列させることは無意味である。従って、日本に作るとすれば、極めて特色のあるものでなければ日本の社会で発展できない。ゆえにキワニス憲章通りのものはできない。その精神は生かすとしても、具体的運営方針その他については、大きく異例の取扱いをしてくれるなら日本でまとめてみましょうということ、例外規定を設けようということになった。帰国後、人選については、まず一つには、クラブとして社会的に影響を与えるものでなければならぬので、その意味で、これから10年ぐらい現役で働ける人





間を中心にセレクトしようじゃないかということ、第二には、地域社会との関わりということになれば、行政面も考慮しなければならぬというわけで、当時東京都副知事であった鈴木俊一氏とか、各役所の局長、次官クラスの人を入れようとした。次に学者、評論家、法律家を入れようということ、そしてこのへんの人的構成と、実業界の人的構成を50対50の比率で運営していこうではないかということでした。又、メンバー選考にあたっては、政治、宗教の対立をクラブに持ち込まれることを避けるため、この二つの分野に属する方には、遠慮願う方針が出来た。年齢制限は、55歳だった。

五島、昇氏の計らいで、最初だから各々あまりばかげた負担があってもいけないであろうということでヒルトンホテルを例会場に旗揚げをした。これも鹿内氏が決めた。

キワニスインターナショナルの活動や発展の経過から見れば、クラブ新設やメンバー増強に日本

は、怠けていることになる。又、对本部だけではなく、日本国内からも各地でキワニスクラブを作ろうという動きが出ている中で、非常なエリート意識だけが支配するようなことでは、会の将来を考えた時どうであろうという配慮もあって、それなら、主要10都市ぐらいには作ってもいいのではないということになった。初期の考え方から、現実に即した形に妥協をして今日に至っている。

鹿内氏は、初代会長を2期、日本地区初代ガバナーを2期務めた。キワニス国際憲章では 役員任期は一年なのでルール違反であると氏は云うが、ルール違反をやらなければ、もたなかったということが現実であった。

創設期にまずクラブのメンバーが非常に精選されていた。自衛隊から裁判所までの役人が入ってくれたこと、こういう構成のクラブは、他の同種社会奉仕団体にはないので、ある意味では、非常に広範な接触を持ち、しかも活動としては、福田恆存氏提唱の、キワニス社会公益賞、キワニス文化賞を生み出してきた。かなり高度なクラブ活動のイメージが高まった。福田恆存氏は、慰霊の泉の設計に井上武吉氏も推薦した。

日本は、クラブが存在しにくい社会であるという。即ち横断的な社会がなく、縦割り社会の中で、財界の人、官界の人、となりがちで、横のクラブ活動が育たない、こういう土壤に、曲がりなりにも、現在の東京クラブのような形のものが育ったのだから、非常に異なるものになったと思われる。

活躍
各委員会の

1964年11月6日、高橋幹夫初代メンバーシップ委員長は、全会員に総務委員会他七委員会の所属決定を“お知らせ”の形で発表した。

財務委員会は117万3千7円を資産の総額とし、以来、会費のみでクラブの台所を賄っている。上村健太郎初代委員長以来クラブの要として、クラブの風格を保ちながらなお緊縮を旨とし、健全財政維持に努力を傾けてい



る。

メンバーシップ委員会だけが、6名で構成された。赤澤副委員長の他、武田豊、水野惣平会員等で、この時から東京キワニスの質の高さを維持するための縁の下の力持ちを続けている。それが誇りでもある。1972年クラブ維持の方策「長期ビジョン計画」も立案されたが、実施に至らなかった。

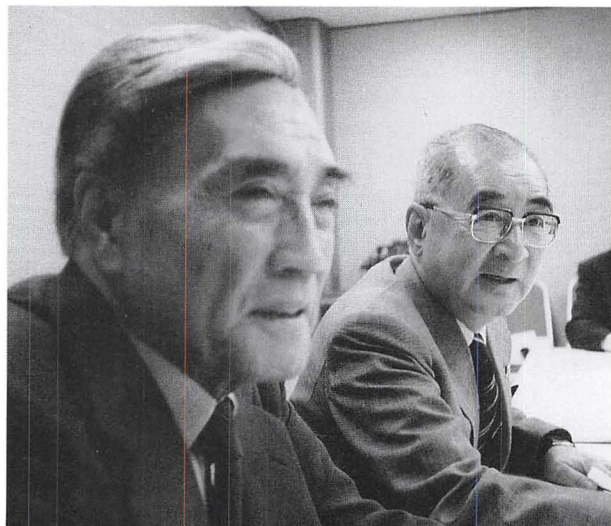
事業企画委員会のもう一つの任務は レディースデーの企画構成である。村上七郎芸能班長を中心に、会員家族の懇親の場として恒例の年中行事の一つに発展させた。鈴木貞男会場担当実行委員の協力に負うところが多い。

キワニス社会公益賞制定は吉村明社会公益委員長の1966年に実現した。以来クラブの最大のモットーである「We Build」を具現しつつ、明るい地域社会の建設に努力、クラブの活動の原動力になっている。

文化委員会は、初代福田恆存委員長を中心に外部権威を委嘱、専門委員とし「キワニス文化賞」を制定実施、名実共に、キワニスの活動にふさわしいものとした。

座談会

キワニスの旗印の下に



左から 安藤(蕃)元会長、木戸前会長

午前中に日本地区歴代会長会議開催。現存の現、元日本地区会長が、経団連会館「1101」に集結。昼食を挟んで、ここに近代の東京クラブ会長が加わり、賑やかな一時です。小島広報委員長が、奉仕と友好にしっかりと編み上げられた、キワニスの歴史の糸を、ゆつくり手繰り寄せ、一時間の中に凝縮された30年の思い出が、つい昨日のこのように思え、一瞬時が止まった錯覚を覚えたのでした。

過去から未来へより良い明日を目指して、キワニスの舵取りとなったリーダーは、今この様に元氣な姿で、今もなお「明るい社会の建設」に向かつて、意気軒昂です。

小島 30年歩んでまいりまして、その間、5周年、10周年、15周年、20周年と過ぎてまいりましたので、拡大発展の歩みにおける活動状況について、会長リーダーの仕事をされましたので、そのいろいろな側面からのお話をお聞きできればと思います。最後に、理念は「明るい社会の建設」ですが、地球環境の問題とか生じているわけですから、そういう中で、どうあるべきか、そんなことで、お話を承りたく存じます。

お座りになっている順で、水島さん、草創の頃の御苦労話とか、皆様方が考えられた理念とか、思い出話をしていただければ、結構です。

水島 ご指名により私が、勧められたのは、鹿内さん、東急の五島さん、リッカーの平木さんだっ

たと思います。その時分鹿内さんが、サンケイ新聞を持っておられて、五島さんは、副会長で、我々が頼み込んでも、会長にならなかったようです。一度調べてみて下さい。それで途中からやめちゃったんですね。設立の経緯があって、その辺のところは、坪内嘉雄君が一番良く知っています。次の会長は原文さんです。釣り友達の上村……生きているのは私だけですか。当時は一部上場の社長だけといって、非常に厳しく大変でした。

小島 最初は、何人だったんですか。

赤沢 最初は記録によると、94。ヒルトンでやりました。

水島 五島さんが提供してくださった。

木戸 前は良くでてこられてた。

赤沢 ある日何か書けて、五島さんから電話があって、鹿内さんがアメリカからキワニスクラブというのを持ってきて、東京でも作ろうというので、発起人会があるから出てこいと……まあ13、4人だったと思いますが役所の現役は、樽さん、大蔵省の佐竹さんそれに私の3人が入っていました。これ全部五島さんが勧めたんだと思います。その時議論になったのが二つで、当時ライオンズクラブが猛烈な勢いでやっていてロータリーは確固たる地盤がありました。エクセレントメンバーエクセレントジョブで行こう。特別だと。あの当時アメリカ本部の規約など見てみるとアメリカは何もそういうものはないんです。ライオンズと同



重崎元会長



安部元会長

じはいかん。日本独特のキワニスクラブで良いじゃないか。じゃ本部はどうする。鹿内さんが、日本のキワニスクラブの特異性を、本部に行っちゃんと説明して、了承を得てくるというんでこの件は、落着。やっぱり大議論になったのは、入会資格を55才で切るということでした。鹿内さんも55才以下、五島さんも55才以下、私も47、8才で、集まっている人が、55才以下だったので、これも満場一致で決めたと思います。設立時1月24日は59名でした。

後からずっと増えて、チャーターまでに94名になりました。

水島 赤ちゃん最初これを持ってきたのは、藤川一秋さんだったんじゃない。

赤沢 そうかもしれません。

木戸 藤川さんの命令で、小幡康吉さんがアメリカへ行ってやってきた初代の事務局長です。

赤沢 今でも最初入会した時のカードを持っているけど、小幡さんが署名してるね。

小島 当時の活動は、例会中心でしたか、他になにか。

片桐 クリスマスパティーなんかやってたね。

斎藤英四郎、井深大、皆会員で、グループ毎に別れて何かやったのを覚えているよ。

安藤 2年目3年目で、どっか舞台上、白波五人男をやるってことになって。サントリーの佐治を日本駄右衛門にしてね。僕は南郷(力丸)をやっているんで、昔のレコードを引っ張りだして、左団次だのがやっているやつを録音とって、役のセリフを渡したんだが、誰も覚えられなくて、あの川端の勢ぞろいのところで、傘もっているんで、その中に自分のセリフを張りつけてこうやってね。

小菅 私は貫一の役をやりました。お宮の役の方

が急に亡くなられて、それからかつらを借りて……昭和51、2年でした。

安藤 トラトラトラ事件がありました。

片桐 ヒルトンの時代だね。

水島 三輪君が張り切ったよね。

片桐 黒沢明がトラトラトラにキワニスのメンバーを使うというわけ、素人で、トラトラトラの真珠湾攻撃の事を知っていて自分で感じた人を使いたいと願っていて、いろいろ調べているうちにキワニスの名簿が手に入った。写真を見て、これは良いということになってキワニスクラブにドサットかぶってきたの、皆で役職を振り当てられて、撮影がはじまって間もなく、センチュリーフォックスと黒沢明とトラブルが起きて……三輪さん参謀長、小幡事務局長が野村大使、僕は、来栖全権大使、僕等は撮影した。

安藤 京都の撮影所に二週間缶詰になりました。

片桐 そうそう。

木戸 僕は親父に似ているから内大臣をやれって言われて、とうとう僕のところにもきた撮影まで呼びがなかった。

水島 文化功労者を表彰しようってのは北裏さんの前かしら。

安藤 最初その案が出て、第一回の文化委員長が福田恆存だった。二代目の文化委員長が僕だったので、毎年一件づつ選んで来たんだけど、これはキワニスの非常に大きな足跡だと思う。

「慰霊の泉」は、僕が文化委員長の時牧田さんが事務局長の時ね。明治100年を記念してと書いてある。

赤沢 牧田事務局長ですよ。社団法人になった時。

小島 設立当初関係された方で、これだけは言っておきたいということがあれば。杉浦さん如何ですか。

杉浦 55になる前55になると入れないから入れと弟(木戸)に言われて、今82ですから55才前にはいました。私は、委員長も何もしなかったんですが、鹿内、北裏と同じ歳で、いのしし会と言って今でもやっていますけど、岩田君も一つ年上だけれどこれも非常に親しかったが、会長をやって、これはお前、非常に大事な仕事だ社会奉仕だからと、何も知らないうちに会長になってしまいました。

私は、インディアナポリスにいきましたし、アトランタにも行きました。向こうは子供まで連れて来て、賑やかです。日本の選んだ人の集まりとどういふ風に調和していくのかと、思っている内に、アービー国際会長がきて、会員を増やせているんです。岩田君が協力してくれて、新宿に作るようになったという、とても喜んで帰って来ました。向こうのキワニスとこんなに違って、どうなるのかと、思っていました。国際年次総会では、日向が歩けないほどの暑いフェニックスに行きました。これも完全なお祭りでした。アービーは、いまだに手紙を寄っています。その後いろいろなことを克服して立派になりました。国際理事会のメンバーになると日本とは違って、エリート意識が強いね。社会に貢献するというのは、文化面でも良く出て、今は環境ね。これをだんだん取り上げていくのも時代に則している。

水島 80-81その時の一緒に合った連中の親交は、いまだに続いている。本当に大切にするね。日本人とはぜんぜん違う。

安藤 毎年手紙がくる。今度はニューオーリンズで集まろうとか。

重崎 向こうで、レクチャーを受けている間は、洗脳を受けて、そういうものかなと、これはやっぱり日本の土壌には慣れないなと。

木戸 僕は悪名高き弁護士ぶりをやって来たので

会議では、同じ様なことをいって来ました。

小島 片桐さん、上田さん、会長としておやりになったお仕事の中で、思い出深いものは。

片桐 ガバナーの研修に行きました。後はセントルイス、アトランタにも行きました。会員増強問題が非常に出て来るんだけど、安藤さんみたいにはっきりとしたことを言わず、のらりくらりと逃げ回った覚えがあります。最後の時問題になったのは、女性問題と会費の値上げです。15年前岩田さんがガバナーの時、ウイーンにも行きました。レディスデーは始めからありましたね。三輪さんが講談をされたり、永谷さんの歌とか。

小島 楽しいということは大事です。

小菅 あのぐらいやっていただくくらい、皆さんが頑張れるといいんですが。

上田 20周年の時、アリゾナのフェニックスでありました。増強委員長から最近、9名のクラブがあるなど、増強の問題に日本ももっとやらなければいけない等考えながら帰ってきて、それから10年、14クラブで1500名です。そういう状態ですが、日本もクラブを増やし、会員も増やさなければいけないんじゃないかと思えます。30周年ですから何らかの目標を立てるなり何らかの方策を立てていかなければ恐らく40周年を迎えても、同じ様な状況にあるような気がします。向こうから人が来て、懇親会で必ず会員増強の話が出ます。日本



上田(隆)元会長



杉浦元会長

はだめだと思われるんじゃないかと思います。心を合わせてやろうと思えば出来ないことはないと思います。40周年を迎える時は、倍増も可能だと思います。

池辺 それに関して私の会長の時、新宿にキワニスクラブができました。その時の記録をもらいましたので読んでみます。1983年新設委員会ができて、藤川一秋さんが始めの委員長になられ、新宿設立の委員長でした。61年初め病気で倒れられて61年2月東京キワニス役員会で新宿スポンサーが正式にきまり、63年9月設立が正式になりました。藤川さんの後は、徳永さんが引き受けられて、大部分の会員を勧誘されました。東京クラブからは、過渡的措置として9月までは移籍を認めるというものでしたが、結果的には、徳永さんが移られただけに留まりました。若い方が50名、新宿クラブの設立は、大部分徳永さんのお力に負います。大変幸いなことに、古川健次郎さんというBBS連盟の会長さんを、初代クラブ会長になっていただくことができました。

木戸 私の時、和歌山にクラブができました。姉妹都市ベーカーズフィールドからの一種の外圧というか、市が強力な核になりました。

小島 75周年記念事業をされましたが。

安藤 「キワニスの森」もその一つです。場所を探すのに、片桐さんが、都知事のご縁戚に当たられ、お願いに上がりました。「集まる」目的で続いています。「慰霊の泉」が出来て、20周年の時修理しました。これを機会に会員のボランティア活動のおそうじが始まりました。ある会員の方から、戦犯も一緒に祀ってあるので釈然としないなどの意見がありましたが、松平宮司のお話によれば、靖国としては言い訳はしない。政府の責任で裁判で亡くなられた方は、戦死者と同一に扱うというのが政府の方針でお祀りしてあるそうです。遠くから朝早く来られた方など昨年初めて、記念品をさしあげました。環太平洋学生キャンプに毎年話をしに行くキワニスリーダーシップトレーニングセミナーをやっています。ここに講師を派遣しています。第一回安部、内田 第二回川畑、第3回

坂部さんと私がいきました。明日を担う青少年に貢献する目的です。

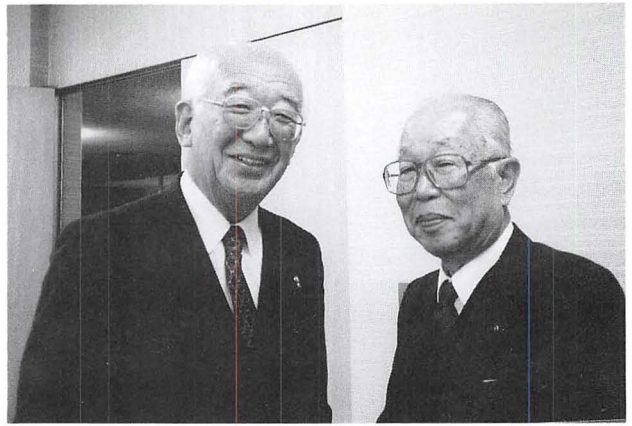
小島 安部先生は、今もエイズ問題でご指導をいただいておりますが。

安部 私自身は、キワニスの思い出は、何も彼も赤沢先生のお蔭でございました。おっしゃることは、はいはいと聞いてまいりましたが、かなり聞くのになかなか難しいことをおっしゃいます。キワニスに入って間もなく東京大学に騒動が起きてまいりました。私及び周りの人が研究室にも入れないのを切り抜けた。これはキワニスのお蔭。赤沢先生がしっかりやれというもんですから、やったと言うことかもしれません。東京クラブの会長にさせていただいて、これが人生にとって今まで目隠しをしていたようなのが、視野が広くなりました。私が内科学の教室を主宰しておりますその医者達にも私の経験とは違った修行時代が出来たと思っています。キワニスに入れて頂きましたことが大変な強みとして、皆様のお役に立っています。会長の時は、藤田ガバナーの相伴をしてヒューストンに参りました。私は留学時代ヒューストンに行ったことはありましたが、キワニスで行くというアメリカ人の評価が違ってきます。キワニアンとして、しかもプレジデントとして出席して、大変得をしました。そのとき女性を会員とするか会費を上げるということの議論でした。やがて日本でもこのようになっていくのではないかと感じ





片桐元会長



小菅会長

赤沢前会長

ておりました。

安部 安藤会長が、ボランティア委員会というのをどうしてもやれというので、青少年のパンパシフィック学生キャンプで、キワニスリーダーシップトレーニングセミナーというのをやったり、安藤先生の代から、赤沢会長に、引き継ぐ訳ですが、キワニスの森計画で、葛西臨海公園に桜を植えました。今魅力あるクラブ作りと言われていますが、会員自身が、考えると言うことが、魅力あると言うことになるのではないかと思います。話をする人が考えることは、勿論ですが、会員自身が、この会は、素晴らしいと言うことを、再確認していただく運動を起こして行かなければいけないんじゃないかと思います。例会のお話を聞いたり、皆様方にお目にかかったりすることが、魅力でございますから。

私は、只今の会の運営で、魅力あるということとで充分でないかと思って居ります。私は、この啓蒙をもう少しやるべきだと、思います。

小島 赤沢さんの時に委員会活動とか、組織的に活発に考えられたと思いますが。

赤沢 最初から20年位木戸さんと一緒なんです、メンバーシップをやっていました。委員長もやりました。メンバーシップにはうさぎ型が5名いる。それは、木戸、青山、高橋、赤沢、坪内。大分いわれましたが、クラブ新設、女性会員問題、全部メンバーシップ委員会にかかってくるので、なにしろキワニスクラブの、軍記風紀の中心であると思ひながらやってきたつもりです。今になって振り返ってみると、いくつかの問題がありました。

赤沢 やっぱり会員を増やさなければならん。10年後のキワニスの年齢構成をそのときの現会員で

分けて、圧倒的に60才以上が多く、いまからシニアクラブと言うのを作って、たまたま例会以外の後の行事は、全部一緒というのを箇条書きにして出したところ、大騒ぎになって、怪しからという話があって、年寄りを別扱いにするのは何事だと……中山恒明さんの会長の頃の話ではなかったかと思ひます。お叱りをうけてえらい怒られて早速引込めたんですが、例会出席の自由度を持ったクラブ、どっちでも出られるクラブの提案が、誤解されてしまいました。ただあれから10年以上経ってみると確かに想定通りで、キワニスの会員は圧倒的に60才以上の人が多く、分けてやれば、シニアクラブはどんどん60才以上の人を入れれば良いし、若い方は若い人を入れてやれば良いのです。聞いてみると若い人はどうも斯界の先輩がおられて小さくなって、意見を言うのもどうかという……空気が今でもあるんですね。当時も相当あった。若い人も集まって、どんどん発言してクラブを発展させたらよいという発想で、東京クラブは、二つになりますから当然会員は増えるということであったわけです。

安部 医学的な立場からたしかにシニアクラブとジュニアを決めるのは、カレンダーイヤーですが、構成する根拠はないわけです。木戸先生や私のように、年齢を重ねておりますが、木戸先生は、ご自分は年をとったとは認められない。私も然りです。これは若い方と接しているのが大事です。

赤沢 大分誤解があったようです。インターナショナルのことも気になりましたが、出来て25年以上経っているので、内部の見直しをすることもあって、規約改正委員会を作りました。いろいろ規約について議論がありましたが、社団法人の定款

を変えらるとなると今の役所は、重箱の隅をついたようなことを言いますので、あの時の定款を読みなおしてみると実に乱暴な、今ではとても許可なんかとれっこない。いろいろ議論があって、厚生省の山本正淑さんをお願いして超特急でやっていただきました。寄付の免税団体にするというので、大蔵省に3、4人いましたので、「よし分かった」と、免税団体指定も10日位で出来ちゃったんです。これは、和尚さんが、思い出に書くと言っておられます。これを改正するとなると全文改正することになるものですから、社団法人の定款というものの中で、運営上もうちょっと改正できることは、改正していこうと。大きな問題、総務委員会のことがありました。重要事項は全部総務委員会で決めることになっていたんです。じゃ役員会とか各委員会の委員の集まりは、どういう風にすれば良いのか、いろいろ議論がありましたが、今あるように、総務委員会を廃して、総務会に切替えることになったわけです。これは会長の最高諮問機関という位置づけになりました。これは非常に大きな改正になったと思います。もう一つは、会長、役員、委員長などの任期を一年ではどうかという気がして、他の法人並に2年に変えたらどうかということになりました。定款には一年ということになっていました。ただし重任は妨げないということに変えたらどうかということになって、ご賛成をいただいて、二年ということを進めております。東京クラブの会員の問題も当時メンバーシップを中心に関心な議論がございました。スリーピングメンバーと言われる方もある意味では、クラブに貢献していることになるので、財務委員に入れたらということでは財務委員会にお入りになっていると思います。そうやかましく言う必要もないので、出席不良の大部分の方は、財務委員会にお入りになっていると思います。40代50代の若手の方に入っていただいて50人前後の若手の方に入っていただいたと思います。

そういうことで、後、小菅さんをお願いして、やって来ているように思います。「キワニスの森」は、私が、会長の時に出来上がったので、毎年お花見

例会というのをやっています。こういうこともボランティア委員会の一つのモニュメントですから続けてやっていただきたいと思います。

小島 私は中国の老、壮、青三結合と言う言葉が好きで、やっぱり、別のもを作ってというよりは、老、壮、青お互いの力を合わせる方が良いと思います。私は知らない内に、壮のところに来ちゃったと思うんですが、40代50代の10年15年を考えますと、若い方々の参加が大事だし、若い方が魅力あるクラブということで積極的に出てこられるということを考えませんと、キワニスの将来はないと思います。最近、年賀状なんかにも、若い方がもう少し面白く出来ないものでしょうかねと書いておられる方が何人かおられました僕のところへ。これは執行部としてこれから考える時にやっぱり若い人ということを考えて行かなくてはと思います。記念のパーティーもありますし、30周年現会長として、年頭に「三十にして立つ」といわれました。小菅 ここにあってのキワニス、これからのキワニスをというお考えでしょうか。前向きの方をお願い致します。先輩の皆さんから有益なお話を伺いました。今やっていることも皆さんのやっていること良いことを踏襲しているに過ぎない。しかし、さっきから会員の増強の問題もあります。要するにこの会員であることが誇りであると思うような会でないといけない。私自身この会に入れていただいた時は非常に誇りで、この会こそ官民学識界の最高峰が入っていると。他のロータリー、ライオンズにはなくてこの会だけだと。特に東京



司会の小島広報委員長

クラブは、生活シンボルを自分で引き上げたというつもりでおります。官民学識経験者が入っているだけに、どの人も自分の属している以外のことを吸収できるということが良いと思います。このことを考えれば、例会なんか、政治、経済、文化が大体1/3づつになっていて非常にうまくやっています。しかも時代に合ったものですので、オピニオンリーダー的にもなれるし、この会が、例会を今のようにやって行き、外の活動もやって行けば、もっと魅力あるクラブになると思います。残念ながら、京都旅行会をやりましたところ、委員長と私と二人だけという……皆京都に行くという意欲を失っている。皆さんと一緒にいったら楽しいじゃないかと。安部先生が仰ったように、年齢のエイジじゃなくて、心のエイジを若くして、若く魅力ある会にしてもらいたいと思うんです。東京キワニスクラブは、日本の14あるキワニスクラブの、やはりリーダークラブでありますから、国際キワニスクラブの考えていることと日本地区の調整に苦勞されている……重崎さんなんか洗脳されてという言葉を使っておられますが、いろいろ教育を受けて持って帰って来た場合、それを受けにくい場合は、やはり東京クラブがある意味で、リーダーカンパニーとしての自覚をもってそれについていかなければいけないと思います。YOUNG CHILDREN：PRIORITY ONEとって昨年エイズの問題もありました。早速安部



水島元会長

先生にエイズ委員会を作っていただき、委員長になっていただきました。非常に内部的にも充実してきていると思います。もう一つ今年、降って湧いたように、ヨードの問題が出てきました。受け入れにくく、日本には直接関係のないものがありますが、キワニスクラブは、社会奉仕的なことをやらなくてはいけないので、拒否反応や意見はありましようが、キワニスがやろうというのですからこれに添った動きをしないとリーダークラブとしての活気がないじゃないかと思います。東京クラブには二つのことがあって、日本地区のことを受けて他の13クラブを引っ張っていく、又、東京キワニスクラブは今のように活動を魅力的なものにしていく。若い人が入ってきた時、古い人が若い人に出来るだけ声をかけて欲しい。火曜会が現に理想的なものとして動いているので、ああいう風に食事の前にもっと、もっと会話出来るように、一言も話さない人が居たら、話しかけて上げなければいけないんじゃないかと思います。30周年で赤沢さんから、何か残すものをやれと言うわけで、準備委員会を半年も前から、いろいろやっているのですが残念ながら、まだ残すようなものは見当たりません。「慰霊の泉」の横に木を植えるということなどが考えられて、可能であると良いと思うのですが、取り敢えず30周年のファミリーデーを企画しておりますので、是非とも古い人も出てきていただいて、我々を啓蒙していただきたいと思っています。

小島 丁度予定時間になりました。何とか収めることができました。ご協力有り難うございました。



池辺元会長



安藤元会長



KIWANIS CLUB OF
Ladies
12 FRIDAY 1



回顧録

「慰霊の泉」・明治100年事業など

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ



JAPANESE

「慰霊の泉」を柱とする 明治100年記念事業などの回想

三代事務局長
牧田喜義

ご存知の通り初代事務局長は、今は亡き小幡康吉さん、2代目が吉村一雄さん。私は3代目として創設翌年（1965年）の初秋に事務局長を命ぜられました。当時の会長は鹿内信隆さん（2期目）。次の'66年度から原文兵衛さん（公害防止事業団理事長、現参議院議長）。'67年が北裏喜一郎さん（野村証券副社長、後に社長、会長）、'68年に篠島秀雄さん（三菱化成社長）が会長になられ、私は'68年の秋に退任しましたので、満3年間4人の会長さんに仕えました。

1965年の初秋の宵です。当時のメンバーシップ委員会の高橋幹夫委員長（警察庁交通局長、後に同庁長官）。赤沢璋一副委員長（通産省重工業局次長、後に局長、日本貿易振興会理事長）、武田豊副委員長（富士製鉄取締役、後に新日鉄の社長、会長）の3人の侍に、私は赤坂の小料亭に招かれて、当クラブの会員としての資格があるか、事務局長の任に堪え得るかどうかの厳しい試問を受けました。その席で3人の侍から、このクラブ創設の由来とその在るべき姿を説かれ、3人の熱意と気迫に圧倒されました。そして、この時初代、2代の事務局長の立派な働きに劣らぬよう頑張らねば、と思いました。愚生時に49歳でした。

さて私が局長になって見ると、会長はもとよりわが国第一級の人物、会員数は発足時僅かに91名、

その後漸増して150名を超えていましたが、会員がすべて私を試問した侍に劣らず、元気潑刺、奇略縦横、実行力抜群の侍たちで、しかも官界、民間各界を代表する実力者ばかりの集団と知って驚嘆しました。そしてこのような得難い会員諸賢に事務局長として奉仕することの出来る幸運を痛感しました。

会創設後2年足らずですが、既に基礎が固まって来て、ロータリーやライオンズなどとは明確に異った、何かをやるという気運が横溢しているように感じました。

主題の明治100年記念事業は、このような会の潑刺とした雰囲気の中から自然に生まれて来たように回想します。

「慰霊の泉」の由来と施設の概要

当クラブが最も誇りとするこの施設が実現するまでの経緯は甚だ重要で、先ずこれを語るのが順序ですが、完成された記念碑がどんなものであるかを、はじめに提示し、創設の経緯は、その後でやや詳細に述べたいと存じます。

先ず1967年4月18日に举行されたこの記念碑の除幕献納式の際、出席者に差上げた資料の冒頭に、北裏喜一郎会長の〈慰霊の泉〉の由来と題する実に要領を得た明快な挨拶文が載っておりますので、これをここに掲げることとします。

〈慰霊の泉〉由来

社団法人 東京キワニスクラブ
会長 北裏喜一郎

東京キワニスクラブは、東南アジアにおける第一番目のクラブとして、去る昭和三十九年一月に設立された国際的社会奉仕団であります。

私どもが昨年、創立満二周年を迎えるに当たり、明治百年を記念して、将来末永く残る何か有意義な事業を興したい、との要望が期せずして会員の間に澎湃として起り、その具体策として、戦後二十年、ややもすれば一般国民から顧みられることの少い靖国神社に心の籠った記念施設を造って護

国の英霊を慰めよう、という気運が次第に高まって参りました。

丁度その頃、故大西海軍中將の未亡人淑恵さんが、私どもと同様な願いを持ち続けて居られることを、産経新聞会長の水野成夫氏より承わり、関係者相談の結果、大西夫人の宿望を当クラブが代って達成しよう、ということに意見が一致しました。

戦死者の多くは、死に臨んで「お母さん水を！」と叫んで息を引きとる、と聞いているのに、靖国神社境内にはこの「水」がない、豊かに汲んで飲むことのできる清らかな水を戦没者に、——これが大西未亡人の二十年間の悲願だったのです。

私どもは、大西夫人のお話を聞いて一様に深い感銘を受けました。そこで、われわれが造る施設も、大西夫人の宿望をそのまま実現するようなものにしたい、即ち「慈愛に溢れる母が、その子に清らかな水を注ぐ」そんなモチーフを具体化した、換言すれば、「水を捧げる母の像」を造りたいというのが最初の構想でした。その時の「母」は飽まで具象的な母でありました。

然し、その後、靖国神社当局のご意向を伺ってみると、「神社」の性格上、具象的な「母」の像は神社に相応しくない、ということが判り、われわれもこれを納得することができました。そこで、最初の構想を改め、飽まで当初のモチーフを貫きながら、「清らかな水」を主体とし、「母」は抽象的に表現して、記念施設全体が靖国神社の雰囲気と調和するような具体策を練り直すことになりました。

以上の経緯にもとづき、施設の設計は、抽象派彫刻家に依頼する方針を樹て、当クラブ会員の福田恆在君らの推薦により、彫刻家の井上武吉氏に一切を委嘱することになった次第です。

井上氏は、以上のような極めてむづかしい条件のもとで、如何に所期のイメージを抽象形態で造形するか、非常に苦心されたようであります。その結果、今日見るような、まことにユニークで親しみ易い、美しい作品をつくり上げてくれました。

次に、この記念施設のもう一つの重要な特色は、大東亜戦争当時の激戦地の戦跡の石を収集してこれを展示したことであります。

この戦跡の石の収集は、戦没者遺族並びに靖国神社当局の二十年來の宿望であり、殊に近年、激戦地の遺骨の収集が甚だ困難であることが判明するに及んで、遺骨が無理ならば、せめて戦場の石でも、との願望が極めて強くなって参りましたが、残念ながらごく一部を除いて現在まで殆ど実現しておりません。

われわれは、この事情を知って、何とかこの機会にわれわれの手でこれを実現し、遺族多年の宿望に応えたい、と決意しました。

この戦跡石の収集については、幸にして、防衛庁、運輸省、外務省、在日米軍等関係機関の絶大なご協力により、ブーゲンビル島、グアム島、フィリピン各地、硫黄島、沖縄各地などより五十一個が集まり、悉くこの施設に展示いたしました。必ず遺族の方々に喜んでいただけるものと確信いたします。

なお、この施設の所要資金の大半は当クラブの会員並びに会員所属の会社、団体のご寄付によって賄われましたが、この事業の趣旨に賛同された会員以外の個人の方々や会社からも多くの温かいご援助をいただきました。ここに、これらの方々に深く感謝の意を表します。

最後に、このささやかな施設が、いささかなりとも、二四〇万の英霊を慰めることができ、さらに国民の皆さまの靖国神社に対する崇敬と親愛の心が少しでも、高まるのに役立つば、まことに幸いです。

施設の概要

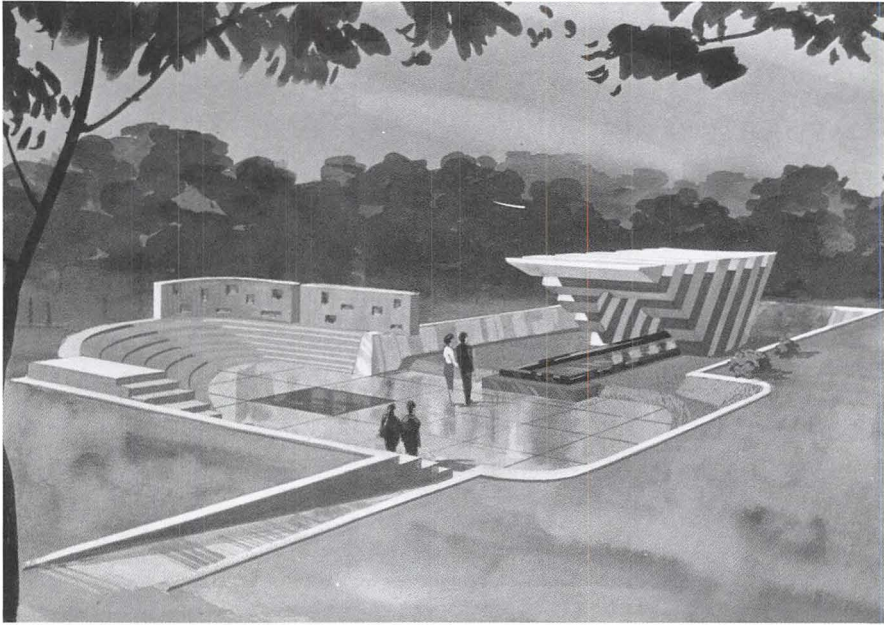
設置場所 靖国神社境内正面参道右側中央部(次ページの略図ご参照)左上のスケッチをご参照のこと。なお、Bの正面の床石の中央に、北裏会長(名筆家として高評価される)の揮毫により本記念碑の名称が彫み込んであります。

施設の説明

●慰霊の泉

この施設のモチーフは、もう一つの表現では「清らかな水」とこれを英霊に献ける「母」です。この施設では「母」を具象的な像として表現せず、抽象的な「母」として表現しています。

慰霊の泉を東南方から見たスケッチ



- ③ 1. 右前の七つの三角形が「母」のイメージ
2. 左側のパネルが戦跡石の展示場

この三角形の彫刻から直ちに「母」を連想することは困難かと思いますが、この内側を眺めれば、母の頭部と豊かな胸を表す優美な曲線

となっており、これが下の水に映えますので、プールサイドまで近づいてこれを見ると、恰かも母の体内から、清らかな、豊かな水が、泉の如く湧き出て来る感じを与えます。この水は断えずゆるやかに流れています。

●戦跡の石のパネル

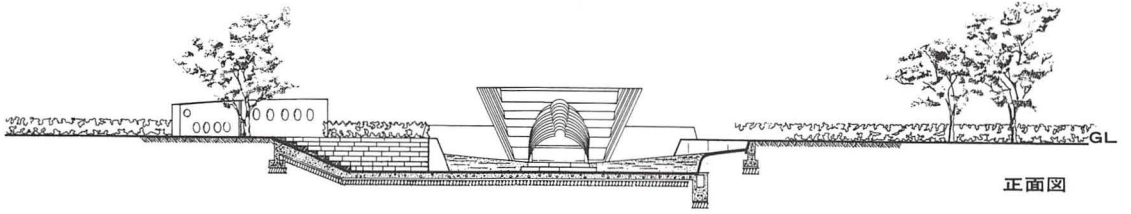
南太平洋はじめ旧戦場から集められた51個の戦跡の石は、設計図のCのパネルに展示してあります。(詳細は後述)

戦跡の石とその引渡式

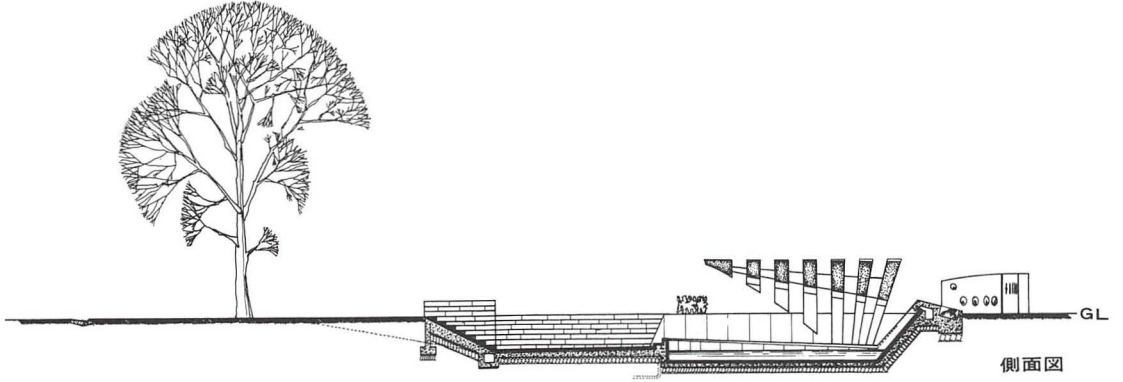
「慰霊の泉」に展示する大東亜戦争当時の激戦地の戦石の収集については、当クラブ会員の三輪良雄さん(防衛事務次官)をはじめ本件に関係する省庁に在籍する会員諸賢の斡旋で、在日米軍司令部、防衛庁、運輸省、外務省などの温かいご協力を得て1966年7月以来、努力を続けて来ましたが、同年8月26日には、プーゲンビル島の戦跡石10個を運輸省航海訓練所の練習船進徳丸より品川埠頭にて受領いたしました。

また、グアム島27個、フィリッピン9個(コ

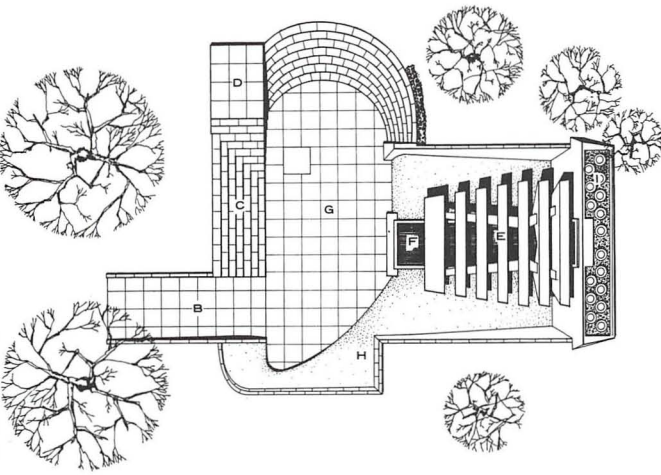
1. 全体の面積 約280 (約85坪)	間口 17m 奥行 24m (但し5.4mの通路を含む)
2. 彫刻 (母の抽象像) (A)	間口 6m 奥行 7m 高さ 3m } 形体はほぼ } 三角形 (鉄筋ホワイトセメント仕上げ)
3. 水 (母の彫刻の 下のプール) (B)	間口 2m 奥行 8m 深さ 約35cm 滝面 { 高さ 1m 幅 2m } 面積 16㎡
4. 戦跡石用 パネル (C)	幅 約4.5m 高さ 約1.3m 厚さ 約30cm (楕円型としセメント打放し仕上げ)



正面図

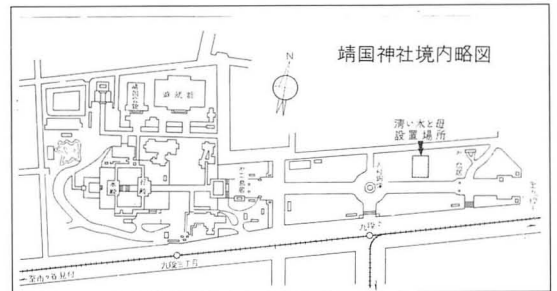
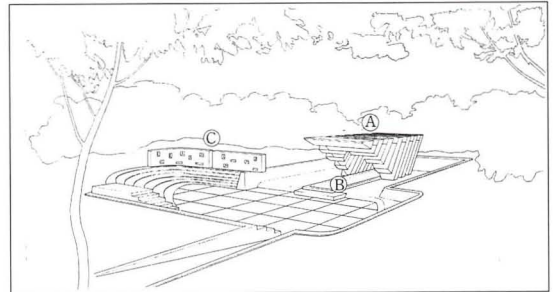


側面図



- A. 参道
- B. スロープ
- C. 階段
- D. ベンチ
- E. セメント打放し
- F. プール
- G. 広場
- H. 芝生
- I. 戦跡石

施設の配置図



平面図
S1: 200

レヒドール島、レイチ島、マニラ周辺) 計36個の戦跡石は、現地側関係機関の協力によって収集され、海上自衛隊練習艦隊に積載されて、同年10月11日横須賀港着、翌12日午後1時30分から、護衛艦あかづき甲板上において、防衛庁、靖国神社、当クラブ等の関係者列席の上、引渡式が挙行され、水谷練習艦隊司令官から、当クラブ原会長に引渡されました。ここに掲げた写真がこの引渡式の模様です。なお、この戦跡石は「慰霊の泉」着工まで、靖国神社の宝物館に保管されました。



慰霊碑作者讃

福田恆存 評論家・現代演劇協会会長

「慰霊の泉」の製作者井上武吉氏を紹介してくれたのは美術評論家の岡本謙次郎氏である。岡本氏との符合は彼がまだ中学生だった頃からの事で爾来三十余年に亘る。私は井上氏推薦の彼の言葉を全面的に信じ、キワニス・クラブ文化委員の一人として同委員会に井上氏起用についての賛同を求め、その経緯を會長に報告した。幸にして全クラブ員の受諾を得たが、そうしてみると、正直な話、一抹の不安が残った。

それは独り井上氏に対するものではない、今日藝術家と称する人種全体に対する日頃からの私の強い不信感に由来する。彼等が余りにも己れを主張し己れを表現する事に性急であって、社會の要求に応へ、實用に仕へる精神を失つてゐるからである。「慰霊の泉」は戦死者を慰め、日本人全体が彼等の孤独な最期を偲ぶ爲の記念碑であって、キワニス・クラブの存在を示す爲の記念碑でない事は忽論、ましてその製作者の業績を残す爲の記念碑ではない。

しかし、さういふ私の不安は井上氏との数回の会談で忽ち消滅した。設計図作製の段階において、氏は終始吾々の言葉に素直に耳を傾け、己れの中の藝術家を殺さうと努めた。それが出来たのは単に氏の人柄が穩厚篤実であるからだけではない。

幾ら己れを殺さうと努めても、いや、かへってさうすればするほど、自分のうちの藝術家が純粹に生き得るといふ強い自信があつたからに違ひ無い。それが私の独り合点でない証拠に、何よりも出来上がったものを見て頂きたい。

氏は己れを矯めて自然と傳統に仕へてゐる。流れの上に覆ひかぶさる純白の壁面は日本古来の宮や社に固有の簡素な美しさを想はせるばかりでなく、事実、千木、玉垣、鳥居の様式が取入れられ、それが見事に抽象化されてゐる。しかも、それが周囲の芝生の勾配と共に九つの複雑且つ緻密な遠近法によって構成され、實際は狭い面積にもかかわらず、その前に立つ者を深く懐に抱きこむ大いさを感じさせる。白の壁面を仰ぎ、その下の黒い石の上を流れる一條の清い水を眺める時、吾々の視線は当然その源に溯るであらうが、そこにも微妙な遠近法が働いてゐて、吾々はその泉が踏み分け難い深山から湧き出で來つたものの様に感じるに違ひ無い。あるいはそこに慈母の奥深い胎内への郷愁を覚える者もあらう。

これはもはや單なる彫刻ではない、建築である、いやそれ以上のものである。單なる記念碑でさへもない。それは風雨にさらされながら自然の一部と化し、神域に包まれ神域を包みながら、自然に還つた戦死者の靈を慰め續けるであらう。

自分の作つた物が自分を越え、自分の作品でもなくなつて、独り歩きし始め自然の効用を果し得る様な物を造り出した井上武吉氏に心からの讃辭を贈る。

井上武吉 (いのうえぶきち) 略歴

- 1930年 奈良県室生 生まれ
- 1962年 第5回現代美術展出品〔優秀賞受賞〕
- 1963年 第7回サンパウロビエンナーレ作品
- 1965年 第8回日本国際美術展招待出品
〔優秀賞受賞〕
- 1967年 靖国神社の英靈のための記念碑「慰霊の泉」制作

- 1968年 第1回神戸須磨離宮公園現代彫刻展招待
出品(大原美術館賞受賞)
- 1969年 彫刻の森美術館設計、完成武蔵野美術大
学助教授
- 1972年 アメリカ合衆国国務省の招待により渡米、
現代建築を視察
- 1975年 池田二十世紀美術館の設計、完成武蔵野
美術大学教授(76年に辞任)
75ドクメンタコレクションに出品
<カッセル芸術協会ギャラリー>
- 1978年 国立ベルリン美術学校客員教授
- 1979年 渡仏(84年まで)
- 1981年 『井上武吉 my sky hole』展開催
<ドイツアーヘン市ノイエギャラリー、
デンマークヘルニング市立美術館に巡回>
- 1983年 『宇宙時代』編に「my sky holeの内部空
間」を出品<パリ ポンピドーセンター>
- 1985年 イタリア ファットリア・デ・チェレに
「my sky hole 87」制作(90年に完成)
- 1987年 『井上武吉 my sky hole 87道-宇宙』
展開催<三重県立美術館、国立国際美術
館>
- 1991年 東京都新庁舎 都民広場のためのモニュ
メント「my sky hole 91-TOKYO」制作
マドリッド国際会議場公園に my sky
hole 91-MADRID」制作〔マドリッド市
文化功労賞受賞〕
伊丹市平和モニュメント及び地下めいそ
う空間「my sky hole 91-4 ITAMI」制
作
第22回中原悌二郎賞受賞
- 1992年 第17回吉田五十八賞受賞
このほか国内外で作品を発表

【著作】

- 「彫刻をつくる」を共著、美術出版社 1965年
- 「bukichi inoue my sky hole」ヴァンテアン 1989年
- 現住所 〒247鎌倉市山ノ内242-5
電話 0467-24-1274

●「慰霊の泉」除幕献納式の挙行

1967年(昭和42年)4月18日(火)午後2時30分
から4時30分まで、靖国神社において厳粛のうちに
盛大に行われました。この記念碑建立の契機とな
った大西海軍中將の未亡人淑恵さんはじめそのご
関係各位、戦跡石の収集にご協力下さった米軍及
び防衛庁、運輸省、外務省等の関係各位、靖国神
社関係各位、崇敬者総代、施設の設計者井上武吉
さん、建設を担当された北野建設の社長さん、当
クラブ会員全員。会員所属の会社、団体で特にお
世話になった方々、会社、団体でご寄付を願った
法人の代表者、新聞、雑誌、テレビ、ラジオ等の
報道関係者など併わせて約700名の方々をお招きし
たが、150余名の方々のご出席をいただきました。

先づ奉納奉告祭が靖国神社本殿で、池田権宮司
以下の奉仕により、当クラブ主要役員、大西夫人、
北野建設の北野社長さん、彫刻家井上武吉さんな
どの参列で行われました。

次いで除幕式が出席者全員にご参加願って、慰
霊の泉の現場で挙行されました。自衛隊の吹奏に
よる国家斉唱、参列者修祓、大西夫人及び北裏会
長令嬢による除幕、「国の鎮め」吹奏(自衛隊)、
清祓奏上、北裏会長 泉に水を滴す、「海征かば」
吹奏などで全員感動のうちに終了しました。

多くの関係者にとっても、私にとっても生涯忘
れ難い儀式でありました。

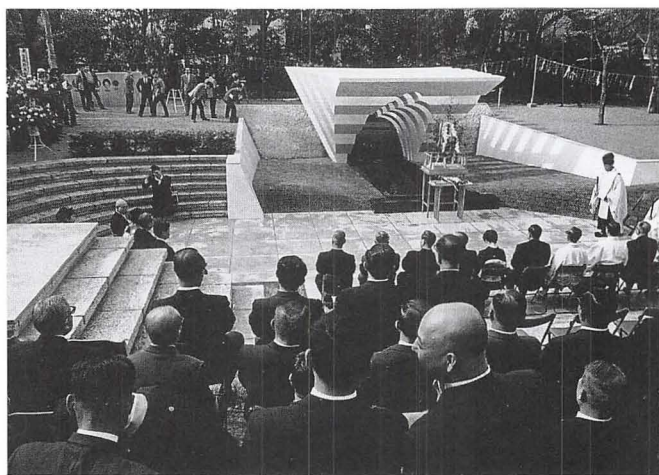
次いで同じ場所で献納式が行われました。

先づ北裏会長から筑波靖国神社宮司に対し献納
目録書贈呈、宮司より会長へ感謝状並びに記念品
贈呈、会長から井上武吉氏、北野次登氏、大西淑
恵夫人に感謝状並びに記念品贈呈が行われました。

最後に直会(なおらいー祝賀会の意)が慰霊の
泉の東側で、参列者全員によって賑やかに行われ、
施設の完成を祝い、午後4時30分に閉会しました。

なお、参列者全員に対し「慰霊の泉」記念碑の
パンフレットが配布されました。

慰霊の泉除幕献納式の実況



余話 設計を井上武吉さんに依頼した経緯、井上さんの着想の妙、作品のすばらしさ、などなど

井上さんの人物や作品については、私が最も尊敬する芸術評論家の福田恆存先生が既に、慰霊の泉作者讃で、明晰で格調の高い名文で激称されておりますので多くを触れる必要はありません。

当初当クラブとしては、1965年10月に設立された明治100年記念事業委員会を中心に、この碑の作者を誰に依頼すべきか議論があったとき、当時木彫の大家で佛像彫刻の第一人者と言われた沢田政廣さんをお願いしよう、ということで意見がほぼ一致していました。ところが肝心の靖国神社当局のご意向では、神社のご神体との関係で、具象的な形は困ることが判明したため、急遽、抽象彫刻家井上武吉氏に委嘱することになったのは、北裏会長の挨拶でお分りの通りです。

その時井上さんを推せんして下さったのが福田恆存さんで、当時優れた抽象彫刻家にどんな方が居られるのか担当委員の方々も私も知らなかったため、福田さんのご推せんにより、すんなり井上さんに決まったわけです。(勿論会長以下全会員の快諾を得て)

さて最初に私が井上さんに会って驚いたのは、

次のようなことです。

サンパウロビエンナーレ（このブラジルの大都市サンパウロで2年に1回づつ開催される権威高く有名な美術の世界的祭典）に若冠34歳の井上さんが日本代表に選ばれて作品を出品して大へんな好評を得たのですが、当時の文化先進国の政治的な圧力で大賞を逸したということを知りました。

これだけ承れば、成程と納得するのですが、お目にかかった時の印象は、何しろ35歳の青年です。失礼ながら、こんな若僧がわれわれの期待にやってくれるのか、と私は秘かに疑い心配しました。(沢田政廣先生とは正に対照的ですから)

しかし井上さんと会談を重ねて行くうちに、いわゆる芸術家らしい独得な嫌みが少しもなく、謙虚で清冽で研究熱心で、好感の持てる青年芸術家という印象を得るようになり、これなら井上さんと労苦を共にして立派なものが出来るという予感を持つようになりました。

井上さんのそれからの勉強は大へんでした。われわれの求めるものは、常識的な記念碑ではありません。「母の献げる清い水」、「慰霊の泉」の抽象的表現という精神性の高いものですから、井上さんが設計に着手して暫くしてから試作品の設計図や見取図が何点か出来ました。それらは従来の記念碑の常識であるピラミッド型で、外形をどう工夫しても、仰ぎ見る型となり満足できるものではありませんでした。

その後井上さんは、日本の代表的な神社建築、即ち伊勢神宮、出雲大社等々を詳細に調査し、苦心惨憺の結果得た結論は、常識的な記念碑の型を取らず、逆ピラミッドにすることでした。

英霊は今や靖国神社という母なる大地に抱かれておわす、その母なる大地から清い水が湧き出て英霊に献げられる。このようなイメージを実現化するためには、記念碑は大地に根をおろさなければならない。即ち逆ピラミッドの型にならざるを得ない。これが井上さんが到達した記念碑の絶妙

なイメージだったのです。

私は井上さんからこのイメージを知らされて感動しました。当クラブの皆さんも、靖国神社の方々も皆喜んでくれました。

何しろ着工してから半年足らずの施工ですから、井上さんもこれを施工された北野建設さん（社長は当クラブの有力メンバーで、井上さんの強力な推せん者の1人）も正に犠牲的な苦勞をされました。井上さんは自分の仕事には極めて厳しい、時には怖い人ですから、施工された現場の方々はしばしば泣かされた、と聞いています。私は週に一回は現場に行って激励しました。

竣工した姿を見て予想以上の出来栄えに、私と井上さんはともに感泣しました。

この作品が如何に優れたものかは、現場をよく見、福田恆存先生の作者讚を読んで下さればご納得いただけるかと存じます。なお、この記念碑は、一般公開後俄かに内外の評価が高まり、彫刻界や建築界では大きな話題となり、その後井上さんが空間造形作家として活躍する際の大きな飛躍台となりました。それは井上さんのその後の経歴が如実に証明しております。

この記念碑は、作者の名を越えて靖国神社と一体となり、英霊を慰め続けると信じます。

「慰霊の泉」実現までの経緯

1967年(昭和42年)は明治100年に当たるので、これを記念して、将来末永く残る何か有意義な事業を興したいとの気運は、当クラブ創設後、毎週の例会や各種委員会の会合などで漸次高まって来ましたが、65年10月、原文兵衛さんが、二代目会長に就任されてから、その声は急速に高まり、この気運を具体化するため、当クラブの総会において、当クラブに「明治100年記念事業委員会」なる特別委員会が設置され、高木昇副会長が委員長に、北野次登さん、牛山善政さん、有田一寿さんが副委員長に、有田通元さんほか14人が委員に委嘱され、この委員会が本格的な立案が行われることになりました。

この委員会で最初に取りあげられたのが慰霊の泉でした。私どもはこの委員会が設立される以前に、特攻の生みの親と言われ、終戦日の翌早朝、最も過酷な方法で壮烈な自刃をとげた故大西滝治郎海軍中将の未亡人淑恵夫人の宿望は、産経新聞の水野会長から拝聴しておりました。委員会が発足してからは、淑恵夫人に委員会に出席していただいて、大西中将の夫人宛の遺言のこと、靖国神社の英霊への熱き思い入れなどを詳細に聴き、われわれは深く感動するとともに、当クラブの明治100年記念事業は、慰霊の泉の建設が最適である、との確信を得ました。

その後、当委員会が中心になって、何回も真摯な協議を重ねた結果、北裏会長が67年4月18日の記念碑除幕献納式で述べた〈慰霊の泉〉由来(前述)や私が前に〈余話〉として補足的に述べたものに結実して行った次第です。(詳細は省略)

さて、以上の経過により、どのような施設を造るかが固まって来ると、建設費は幾らになるか、これをどのように調達するかが問題になります。

また設計者は井上武吉さんに決っても、施設全体の工事をどの社にお願いするかを決めなければなりません。そこで工事については、鹿島建設、藤田組、戸田建設、飛鳥建設、北野建設の5建設会社に属する当クラブ会員が協議の結果、北野建設が施工に当たり、他はこれに協力することに決まりました。

この結果を受けて、井上武吉さん、北野次登さん(明治100年記念事業委員会副委員長)の両者が検討協議の結果、建築費(設計料を含む)の総額の概算は1,500万円となりました。

明治100年記念事業資金委員会の設置と活動

この資金委員会は、北裏会長になって間もなく1966年(昭和41年)10月に、当クラブ総会の議決によって設立されました。何しろ1,500万円という巨額な資金を、社会奉仕事業のために調達するわけですから、当クラブとしては、最強力なメンバーが委嘱されました。以下の通りです。

会長 鹿内信隆
委員長 原文兵衛

副委員長 五島 昇 北裏喜一郎 高木 昇
幹事長 加藤武彦
幹事 飛鳥 齋 北野次登 有田一寿
委員 小坂徳三郎 ほか22名

さて所要資金1,500万円の調達方法については、当委員会が協議の結果、一般公募は行わず、会員からの寄附並びに会員所属の法人・団体からの寄附により賄うことに決まり、1967年1月6日付をもって、当委員会の鹿内会長、北裏委員長、加藤幹事長の連名で、全会員に対し、明治百年記念施設「清い水と母」(後に慰霊の泉と改称)の建設資金に関しお願いの件の文書が発送されました。

なお、この文書においては、寄附の要領として、所要資金の大半を、会員所属各社よりのご寄附に依存することとし、各社より寄附額を一口拾万円とし、各社の規模その他のご事情を勘案のうえ、最低一口より最高拾口までの段階を設け、ご寄附を願う際の目安として当クラブがご寄附を願いたい金額を各社毎に明記しました。

また記念施設の献納式は、本年4月18日を予定しているため、1月末までに各社のご内意をいただき、ご承諾の場合は、2月末日までにお支払い願うことにしました。なお、会員個人からのご寄附は一口2000円とし、できる限り多くご寄附願うよう、毎週の例会や委員会でお願ひして来ました。

さて以上のような方針が決まるのに前後して当クラブとして大きな問題となって来ましたが、会社や団体が寄附を行う場合、各社に決められた法令枠を超えて寄附を行うと、その額はその社の損金に算入されず、利益と見做して税金の対象となりますので、高額な寄附は容易でないことです。当クラブへの寄附が、大蔵省の許可を得て、損金算入ができれば、寄附がやりやすくなります。そのためには当クラブが大蔵省に申請して、寄附金の指定通知を受けなければなりません。

ところが困ったことに、当クラブは任意の団体で法人格が与えられておらず、このような団体が申請を出しても大蔵省で受理してくれません。

そこで当クラブは先ず早急に社団法人になる必

要があるわけで、寄附金の免税問題はその次の仕事になるわけです。

当クラブの社団法人成立許可申請

当クラブが実力を発揮するのはこれからです。慰霊の泉の除幕披露は4月18日と決まっています。僅か3カ月の間に、社団法人になり、寄附金の指定通知を貰い、1,500万円を調達しなければならないのです。

先ず社団法人の労から……

当クラブは社会奉仕団体ですから、主務官庁を求めるとすれば、先ず第一に厚生省です。そこで当時しばしば相談相手になっていただいた赤沢璋一会員などの推挙もあり、当時当クラブ会員で、厚生省社会保険庁長官の山本正淑さん(後に同省事務次官、現日本赤十字社社長)に相談したところ、早速私のところでやりましょう。との返事をいただきました。私は早速、山本さんのご指導により設立許可申請書を作成して'67年2月10日付で、社団法人東京キワニスクラブ成立代表者北裏喜一郎名で厚生大臣坊秀男殿宛に提出しました。

社団法人の設立許可につきましては、勿論山本さんが中心になって強引に進めてくれましたが、関係官庁である文部省所属の天城勲会員(当時管理局長、後、文部次官)や会員で当時東京都の副知事の鈴木俊一さん、法務省の特捜部長の河井信太郎会員などのお世話になったと記憶しています。当クラブの社団法人設立は、2月27日付で厚生大臣から許可されました。申請してから2週間余りで許可されたのです。正に異例の早さです。これも山本会員を中心とする関係会員の尽力の賜ものと深謝せざるを得ません。

特定寄附金及び指定寄附金に関する指定申請について

次は各社からいただく寄附金の課税を免除して貰うための手続きが必要です。

本件の主務官庁は大蔵省ですが、同省には幸い佐藤一郎さん(当時事務次官、後、経済企画庁長官)、鳩山威一郎さん(当時主計局次長、後に、同省次官、外務大臣)、泉美之松さん(当時国税庁長官)などな

ど同省の代表的人士が当クラブの会員になっておりますので、これらの方々のご配慮を得て、慰霊の泉の建設費用に充てるための寄附金は指定寄附金として告示するよう、1967年(昭和42年)3月1日付で社団法人東京キワニスクラブ会長北裏喜一郎から大蔵大臣水田三喜男殿宛に申請を提出し、同年3月13日付をもって指定の告示(大蔵省告示第35号)がありました。これによって当該寄附金の課税が免除となったわけです。これも申請して僅か2週間という異例の早さで、佐藤一郎さんを中心とする大蔵省の所属会員のご尽力によるものですが、同時に当クラブの実力を如実に示したものと思います。

さて以上のようにして会員所属各社からの寄附がかなり容易になったわけですが、それにしても自社の利益には殆ど結びつかない社会奉仕団体への寄附は決して容易ではありません。毎週の例会においても訴え、文書でも重ねてお願いしましたが、3月を過ぎ指定寄附の告示があっても、なかなか1,500万円には達しません。4月18日の除幕献納式が刻々と迫ってまいります。

そこで私は勇気を出して、事業資金委員会幹事長の加藤武彦さんに(当時三菱銀行専務取締役)を三菱銀行に訪ね窮状を訴えました。加藤さんは多忙にも拘らず私の現況報告を詳細に聴取されると、その場でまだ寄附承諾のご返事のない重要各社所属の会員に電話されて協力を要請されました。確か大口寄附が期待される10社ほどに電話されたと記憶しますが、加藤さんの要請に対し恣く快諾されました。私は驚嘆の念を禁じ得ませんでした。加藤幹事長の慰霊の泉への思い入れの強さ、加藤さんの人望と卓越した行動力、それと三菱銀行の威光も加わって、予想外の成果が得られたと思います。

加藤幹事長のほかでも、鹿内会長、原委員長、寄附金募集については陰に陽に積極的に尽力して下さいました。その結果4月18日の除幕献納式までに目標の1,500万円の寄附金を頂戴することに成功した次第です。

「慰霊の泉」建設資金収支 (1967年5月11日現在) 寄付金収入

会員所属会社 13,800,000円

会員及び個人	1,217,519円
その他入金予定(会員社以外の会社からの寄附を含む)	1,150,000円
収入計	16,167,519円
施設設計建築費支出	14,000,000円
井上武吉氏と北野建設への 支払いの合計額	
靖国神社へ寄附	2,000,000円
雑費充当	167,519円
支出計	16,167,519円

●会員有志による「慰霊の泉」の清掃奉仕について

慰霊の泉献納当時は全く予想しなかったことで、暫くしてから会員の岡部弘さん、鈴木義雄さん、数佐三郎さんが正に自発的に率先してそれぞれが経営される会社の社員とともに、施設の清掃作業を実施されることになり、この奉仕活動が長く続けられました。1990年の国際キワニス75周年国際キワニス基金50周年記念に当たり、東京キワニスクラブの奉仕活動の一つとして、全会員が輪番で、火曜日と木曜日の朝、この清掃奉仕に当たることとなり、今日に及んでいます。当クラブの最も誇りとする社会奉仕活動の一つと言えらると思います。このクラブが満30を迎えるに当たり、この清冽な奉仕活動を最初に始められた、岡部、鈴木、数佐の3会員とその会社各社の社員の方々に改めて深甚な感謝を献けたいと思います。

明治100年記念講演

明治100年記念事業の一つとして特筆する要があるのは、この記念講演だと思います。

毎週金曜日に行われる例会講演のうち、約半数を「明治100年記念講演」

に充当することとし、100年の間に活躍した人物や、重要な事件を回想することにより、「日本人とは何か」、「日本人は如何に生きるべきか」、「日本の今後の方向はどうあるべきか」を探究しようとするのがこの事業の趣旨です。

このため1966年のはじめ、原会長の時、従来例

会講演の講師選考を行って来た事業企画委員会とは別に「明治100年記念講演講師選考委員会」が設置され、次の5氏が委員に委嘱されました。

中央公論社	笹原金次郎(当クラブ会員)
(株)文芸春秋	田川博一 (")
財界研究所	山口比呂志(後に当クラブ会員となる)
東急エージェンシー	鳥居達也 (当クラブ会員)
当クラブ事務局	牧田喜義 (")

さて講演の主題や講師の選び方ですが、100年にわたって重要人物や事件を、凡ゆる分野に亘って、系統的、網羅的に取り上げることは、講演の回数及び時間等の制約で、とても不可能なので、限られた特定の人物や事件を取上げ、その人物や事件の背景、その時代の実相を浮彫りすることが適当であり、かつ興味深いと考えました。

この方針のもとに講師の候補として約40人の方が選ばれ、5人の委員が分担を決めて講演の受諾方をお願いした結果、28人の方にご承諾をいただきました。

前記の通り、この講演は1か月2回の割合で毎週金曜日の例会講演の時間に実施するわけですが、1回30分では短かすぎるので、この講演に限り、1回40分とし午後1時5分前に開始し、1時35分に終了するようにしました。またこの講演は、1966年4月1日から始め'67年3月末日までに終了することとしました。

この記念講演をしていただいた先生方は以下の通りです。

1. 新撰組の経済的背景	司馬遼太郎
2. 江戸から東京へ	池田弥三郎
3. 国粋主義の系譜	児玉誉士夫
4. 二・二六事件の思い出	和田日出吉
5. 東條英機とその時代	矢次 一夫
6. 山本五十六「死の暗号電報」	阿川 弘之
7. 終戦始末秘話	木戸 幸一
8. 戦後二十年の内幕	大宅 壮一
9. 明治の軍人・昭和の軍人	高木 惣吉
10. 三代宮廷秘話	入江 相政
11. 三代宰相論	御手洗辰雄
12. 三代蔵相外伝	小汀 利得
13. 三代疑獄史	河井信太郎
14. 三代財界人かたぎ	三鬼陽之助

15. 思い出の相場師たち	遠山 元一
16. 誇り高き資本家たち	野田 一夫
17. 三代男の花道	小島 直記
18. サラリーマン三代	坂本 藤良
19. 官僚主義いと昔	細川 隆元
20. 三代文士かたぎ	今 東光
21. 日本の大学三代	永井 道雄
22. 明治「二百年」への期待	松永安左衛門

以上の22編を「秘話・日本の百年」として出版する(詳細後記)

23. 女形からカブキ女優へ	戸板 康二
24. 亡国病との闘い	菅原 通済
25. 日本共産党のゆくえ	神山 茂夫
26. 三代を生きたわが母	林 謙一
27. 三代役人かたぎの変遷	後藤 文夫
28. 三代謀略秘話	岩畔 豪雄

以上の先生方にご登場願ひ大好評裡に当初の企画通り記念講演を終了しました。

願れば、私を除く4人の委員はこのような事業の専門家であったので、それぞれが本企画のため実力を発揮していただいて成功を取めたのであります。また、委員以外の会員の方々からも多大なご援助をいただきました。厚く御礼申し上げます。

「秘話・日本の百年」の刊行

前記の記念講演の企画に当たっては、講演の終了後、全講演内容を集大成し、講師の諒解を得て適当な出版社から「東京キワニスクラブ」の名において出版し、一般に発売する方針を樹たておりました。記念講演が終了してから早速、講師選考委員会においてその実現方法を検討した結果、以下の要領で出版することになりました。

先ず出版することになれば、講師のご承諾が必要です。講演依頼の際出版の構想は概略申しあげご内諾はいただいているものの、著作権の使用につき正式のご承諾を願うべく1968年1月22日付で当クラブ篠島秀雄会長名を以って講師の先生方へお願いの書翰を差上げるとともに、選考委員の方々も個々にお願ひした結果、前記22名の方々のご承諾をいただくことができました。残る6人の先生方については、ご講演の内容や出版書籍の紙数の問題などで、当クラブ側の判断で出版に採録しな

いことになりましたので、著作権使用のお願いはしていません。なお編集の最終段階で司馬遼太郎先生が収録を辞退されたので、池田弥三郎先生以下21名の先生方の講演を収録しました。

出版の書名は前掲の通りに決まりました。

また、出版社、本の体裁、販売方法などは、次の通り決まりました。

1. 出版社 大和書房
2. 本の体裁 B 6 変形判 本文272頁、ペーパーバッグス並装 四色刷ビニール貼カバー付 売価 340円

3. 販売方法

A. 大和書房取引の取次店を通じて全国小売店で販売する。

B. キワニスクラブ会員の推せんを得て会員関係に直売する。

この出版計画にもとづき1968年3月10日付で本書が発行され販売が始まりました。

計画によれば、初版8,000~10,000とありますが、何冊製本されたか、残念ながら私の記憶にも、事務局の資料の中にもありません。ただ当初大和書房との契約で、定価の8%に発行部数を乗じた額を寄附金として当クラブが受取ることになっており、当クラブの1968年度上半期の決算報告で、大和書房より236,000円の寄附金が入金になっておりますので、これで逆算しますと発行部数は8,676冊と相成ります。大体当初の計画通りだったと存じます。これ以上の詳しいことは判りませんのでご勘弁いただきたいと存じます。

キワニス文化賞の創設

慰霊の泉に代表される明治100年記念事業とは異なりますが、同じ時期に当クラブの事業として最も相応しいものが、相前後して二つ創設されました。

最初がキワニス文化賞

で翌年度が社会公益賞です。ご存知の通り、この二つの賞は、当クラブの重要行事として 後毎年実施されて今日に及んでおります。

さて、文化賞の方は鹿内初代会長時代に設置された文化委員会において福田恆存委員長のもとで協議されましたが、同委員長の意見に皆賛同して

方針が決まりました。

福田委員長の意見によれば、現在芸術家と称するものが不当に尊重され、職人が不当に軽視される傾向にあるのは誤りである。古来日本でも外国でも、作者不明の秀れた芸術品、文化遺産は沢山ある。芸術家と称する者が必ずしも秀れた作品を造るわけではない。名利を求めない匿名の優れた職人の作品に芸術家以上の名作がある。そのような優れた職人を発掘して賞を差上げ、職人芸に一層励んでいただく、ということです。

このような職人の選考に当たっては、福田委員長のほかに、わが国の代表的美術評論家の今泉篤男先生、評論家で月刊誌「室内」の編集長の山本夏彦先生などの専門家をお願いして、蒔絵漆工の第一人者高野松山さんを選んでいただき、1965年に第一回のキワニス文化賞を贈呈しました。

キワニス社会公益賞の創設

この賞の実施方針は、1965年の社会公益委員会で決定され、1966年吉村明委員長の時に、第一回目の賞が、彦根学園(重度盲精薄児施設)の園長西原正則さんに贈呈されま

した。

なお、受賞者選考に当たっては、厚生省の山本正淑会員はじめ、文部省の天城勲会員などの各位に大へんお世話になりました。

以上のほかに名古屋キワニスクラブ、大阪キワニスクラブの創設について若干触れさせていただきたいと存じます。丁度明治100年記念事業実施の最中に相前後して創設され、愚生も精一杯お手伝いさせていただいたからです。

このクラブの創設が固まるまでには、1965年の春以来幾多の曲折がありましたが、'66年のはじめ

名古屋キワニスクラブの創設

までの長期間、前高橋幹夫メンバーシップ委員長、前赤沢璋一副委員長、小幡会計監事、吉村一雄前事務局長等の会員各位の並々ならぬご尽力があり、野淵三治さんの会長ご就

任については鹿内前会長の特別のご配慮がありま

した。これら当会員挙げてのご協力によって、名古屋クラブが誕生したのです。

同クラブのチャーターナイトは、'66年9月1日に名古屋国際ホテルで盛大に挙行政され、わが国第二番目のキワニスが創立されたわけです。当日は当クラブから原会長、鹿内前会長ほか会員が出席しました。

創設
大阪
キワ
ニス
クラブ
の

このクラブの設立準備は、'66年のはじめ頃から大阪市大島助役などを中心に進められ、当クラブからは、鹿内前会長、赤沢前メンバーシップ副委員長、坪内嘉雄会員（全

国文化団体連盟専務理事）などが現地に赴き、大島助役、石丸大阪通産局長、近藤大阪国税局長等の各氏を訪ねて設立を熱心に勧めて来ました。事務局長である私も、北裏会長、鹿内前会長の命を受けて再三大阪に出向して関係各位の説得に当たらせていただきました。

これら関係者の努力の結果をうけて、'67年1月末に、北裏会長、鹿内前会長が、日立造船の永田敬生社長に同クラブ会長になっていただくべく強引に口説き落として、同クラブが創設されることになりました。これも当クラブ会員諸賢と大阪側有力者の尽力によって誕生することができたわけです。

同クラブのチャーターナイトは'67年11月18日に新大阪ホテルで開催され、鹿内前会長ご夫妻以下11名の会員、役員が出席しました。

会員の皆様にお詫びと感謝と

実は最初に、当クラブ事務局の塚本敦子君から当クラブの30周年に当たり「慰霊の泉」を中心に回

お
わ
り
に

想を書け、と言われた時、3、4枚の原稿を書けば済むと気楽に引受けましたが、さて、始めて見ると慰霊の泉の建設の経緯は決して簡単ではなく、これに関係して多くの明

治100年記念事業にも触れなければならず、私が事務局長を勤めさせていただいた間に深く係わらせていただいた重要行事については、すべて私が書

きとどめなければ、と思うようになり、ついに図らずもこんな長文の回想録になりました。往時茫々と申しますか、30年近くも前のことで、もうすっかり忘れてしまったことも多く、事務局に残されていた資料を数時間漁ってもなお不明な点が多く苦勞しました。老骨に鞭打って漸くまとめた見ましたが記憶違いのことも多く、間違った記述もあるかと存じます。長文に過ぎた点と併せてお許し下さいませ。

私は生来愚鈍で諸事経験に貧しく能力の乏しい者ですが、これをご承知のうえで、私を教え導いて下さった当クラブの会長以下役員、会員のご愛顧とご寛容に対しては、脱帽して感謝とお詫びを申しあげます。お陰さまで3年間の事務局長時代は、私の今までの生涯でも、最も充実した楽しい歳月でした。

鹿内信隆会員とその関係各社に感謝

鹿内さんという方はご存知の通り抜群の能力を持ち、一代で驚嘆すべき事業を行った方ですが、極めて個性の強い方で、時に奇異に感じる言動があって、人に不快の気持ちを与えることもあったと思われれます。しかしキワニスクラブに取っては、大の恩人だったと思います。私は事務局長の時、所属していたフジテレビの身分給与はそのままで、事務局長の仕事に100%打込むことができました。事務局の部屋の使用についても格別な配慮をして下さいましたし、陰に陽に長い期間、当クラブの発展のために寄与されました。改めて今は亡き鹿内さんに感謝を献げたいと存じます。

事務局の従業員諸君に感謝

当クラブが30周年を迎えるに当たっては、事務局の従業員の精励ぶりに感謝したいと存じます。殊に創立当時からの高橋順子君（現結婚して増田に変わりロサンゼルスに在住、2女の母）、私が事務局長になってから現在も勤務している塚本敦子君（私が局長を辞めて数年間専業主婦となったが再び入局して、今や事務局の主のようになる）、それから塚本君との2度目のご奉公以来勤務している宇田川晶子君・創設当時から数年勤務した大熊優子君などです。

東京キワニスクラブの一層のご発展を祈ります。



KIWANIS CLUB OF
Ladies
FRIDAY 1

ACTIVITIES

30周年記念事業
キワニス社会公益賞
キワニス青少年教育賞
キワニス文化賞

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

JAPAN

設立30周年記念事業

- 1) KI世界奉仕活動「ヨード欠乏症撲滅活動」へ寄付
- 2) 会員大増強
- 3) シリーズ記念講演
- 4) 記念植樹
- 5) 継続事業
 - 「エイズ撲滅活動」
- 6) 記念スタート
 - レインボープロジェクト
 - ホームホスピタリティープログラム
 - 国際交流プログラム
- 7) 記念誌「30年の歩み」の発行

メルシーボックス基金

上記事業にあたり、メルシーボックス基金より1000万円が充当される。

新規事業 キワニスレインボープロジェクト

発展途上国（中国、フィリピン、カンボジア等）に文房具、スポーツ用品等を送る運動について

予てより、国際委員会で、各家庭に眠っているもう使わなくなった文房具、スポーツ用品などを、有効に活用する方法はないものかと摸索してきたが、(財)ケアジャパンの、子供国際レインボー便がその趣旨をよく伝えたものであることを知り、これに協賛していくことが決まった。折しも今年は、当クラブ30周年記念年にあたり、他の新規にスタートする事業と軌を一にし、途上国の子供たちの援助、そして最終的にはその国の自立を助けることを目的とするこの奉仕プログラムは、国際

的な拮かりを持ち、キワニスの目的にもよく合致する。

会員の皆様はもとより、会社の方々、ご家族の皆様の温かなご支援をいただき、本年2月寄せられた沢山の文房具は、仕分され、中国語に翻訳したメッセージを入れ、荷造りされ、箱には、大きなキワニスのマークが付けられ3月8日、横浜港より中国に搬出された。5個が努力目標であったが、ファイルカバー200個の寄贈により、ペリカン便の箱（中）27個となった。改めて、この紙面をお借りして深謝申しあげる次第です。キワニスの目的「明るい社会の建設」のため皆様がたと一緒に、今後も頑張っていきたいと存じますので、この運動を周囲に広めていただき、ご理解、ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。



「キワニス社会公益賞」の創設

社会公益委員長

吉村 明
(ダイキン工業取締役)

当クラブは、昨秋「キワニス賞」を創設し、日本の伝統工芸の伝承に当り、特に功績のあった工芸家や職人を毎年一人ずつ選んで表彰することとしたが、当クラブの社会奉仕団体としての機能を一層発揮するため、秋に対比する春の年中行事の一つとして、今年から「キワニス社会公益賞」を制定することとなり、この新しい賞の創設に伴い秋の「キワニス賞」「キワニス文化賞」と改称し、毎秋実施することとなった。

「キワニス社会公益賞」制定の趣旨は、社会公益のため、世間に知られず、酬いられることも少なく、長い間、献身的労苦を続けている人たちを広く探し求め、これに賞を贈り、その功績に敬意を表するとともに、その尊い存在を広く世間に紹介しようとするにあるが、一口に「社会公益」といっても、その範囲は極めて広く、賞実施の基準や方法を定めることが極めてむずかしいので、当クラブとしては、社会公益委員会において、慎重審議の結果、授賞の対象を、当分の間、心身障害者対策に特に功績のあった人たちに限定することとした。これは「キワニス文化賞」が、日本の伝統工芸の伝承に当り、特に功績のあった人たちに限定したのに対比するものである。

即ち、「キワニス社会公益賞」は、心身障害者対策に、長い間労苦を傾け、世間に知られず、酬いられることを求めず、尊い事業に営々と献身的努

力をされている人たちを、広く探し求め、その中から、毎年一人ずつ選んで、賞を贈り、そのご辛苦に敬意を表するとともに、それを契機として、心身障害者対策が、政府においても、民間においても、更に積極的に取り上げられ、満足な施策が講ぜられるよう、できる限りの運動を展開しようとするものである。

心身障害者対策の必要が叫ばれてから、既に久しく、最近漸く、国会や政府においても、地方自治体や民間においても、可成り積極的な対策が講ぜられつつあり、世論も強くこれを支持しつつあることは、同慶に堪えないところであるが、心身障害者の現実には意外に深刻であり、満足な施策が講ぜられるまでには、なお、長期間に亘り、幾多の難関を越えなければならないと思われる。

現在、各種の社会奉仕或いは慈善団体が、それぞれの方法により、心身障害者の援助や救済に貢献しているが、心身障害者問題は、その範囲が極めて広く、かつ複雑困難であり、その対策も、問題の性質により、幾多の異なった角度から、異なった方法によって進めても差し障りはなく、また、その方が問題の解決に効果的と考える。

当クラブにおいては、以上の観点から、今後、毎春「キワニス社会公益賞」という方法を通して、心身障害者対策にできる限りアプローチしようと決意した次第である。

(1966年6月発行Tokyo Kiwanis創刊号掲載)



「キワニス社会公益賞」

当クラブの社会奉仕団体としての機能を一層発揮するため、昭和41年設定。日本地区主要行事「日本キワニス文化賞」受賞者の顕彰に対比するものである。その趣旨は、社会公益のために世間に知られず酬いられることも少なく、長い間献身的労苦を続けている人達を広く探し求め、毎年1件ずつ選んで賞を贈りその功績に敬意を表するとともに、その尊い存在を世間に紹介しようとするものである。又、これを契機として広い意味の社会福祉対策が政府においても民間においても積極的に取り上げられ、満足な施策が講ぜられるよう、出来る限りの運動を展開しようとするものである。

歴代受賞者

- 第1回 昭和41年 彦根学園園長 西原正則（重度盲精薄）
- 第2回 昭和42年 秋津療育園理事長 草野熊吉（重度身心障害）
- 第3回 昭和43年 多摩藤倉学園園長 川田はな（精薄）
- 第4回 昭和44年 日本聾啞学校校長 大嶋 功（聾）
- 第5回 昭和45年 島田療育園総婦長 中沢千代子（重度身心障害）
- 第6回 昭和46年 浴風園寮母 菅谷キヨ（養護老人ホーム）
- 第7回 昭和47年 本木隣保館主任 種田あい（セツルメント）
- 第8回 昭和48年 ベテスタ奉仕女母の家いずみ寮指導員 天羽道子
（奉仕女婦人保護施設）
- 第9回 昭和49年 宇都宮地区BBS会（ともだち活動）
- 第10回 昭和50年 健康普及会会長 及川裸観（にこにこ裸運動）
- 第11回 昭和51年 聖明園園長 本間昭雄（盲老人ホーム）
- 第12回 昭和52年 財小田原少年園補導主任 横川積治（更生補導）
昭和53年 財小田原少年園火災のためお見舞い
* このため第13回社会公益賞表彰は見送り
- 第13回 昭和54年 日本盲人職能開発センター常務理事 松井新二郎
（盲人の録音タイプ速記）

「キワニス社会公益賞」

歴代受賞者

- 第14回 昭和55年 よこいとグループ(在宅障害児に対するボランティア)
- 第15回 昭和56年 「香蘭」店主 林 景東(精薄児雇用促進)
- 第16回 昭和57年 東京ヘレン・ケラー協会点字出版局長 井上 淳
(盲人福祉)
- 第17回 昭和58年 ベタニヤホーム本所ベタニヤ母子寮長 長畦すめる
(母子福祉)
- 第18回 昭和59年 (社福)日本キリスト教奉仕団
アガペ身体障害者作業所センター所長 武間謙太郎
(重度障害者授産)
- 第19回 昭和60年 城北福祉センター健康相談室医師 楯取正彦
(長年に亙るボランティア山谷の医療福祉活動)
- 第20回 昭和61年 タカラクラブ会長 澁沢多歌子
(長年に亙るボランティア福祉活動)
- 第21回 昭和62年 手話通訳 飯塚千代子
(視覚障害者の福祉に寄与手話の発展に貢献)
- 第22回 昭和63年 映画のおじさん 岡本勝美
(長年に亙るボランティア地域福祉に貢献)
- 第23回 昭和64年 少年補導委託 秋田葉津枝
(夫を助け1,200名の非行少女を善導)
- 第24回 平成2年 在宅重症心身障害児訪問 関 敏子
(保健婦として標記事業のパイオニアとして貢献、同時に後輩の指導にもあたり模範的存在)
- 第25回 平成3年 身障者自立運動 渡辺啓二他2名
(自ら障害を持ちながらヒューマンケアセンターを設立
障害者を含む弱者の自立に多大に貢献)
- 第26回 平成4年 精神障害者社会復帰施設 やどかりの里 仲谷輝雄
- 第27回 平成5年 精神障害者の社会復帰 JHC板橋 寺谷隆子



「東京キワニスクラブ青少年教育賞」とは

1. 東京キワニスクラブの恒例の事業として、昭和60年に設定され、青少年教育委員会が担当。年一回受賞者を選考、5月～6月末に表彰を行う（平成4年度は7月）。
2. 授賞の対象は、東京キワニスクラブの「キワニス社会公益賞」と範囲を区分し、国際的な活動も含む青少年の健全な育成に努めた個人又は団体を表彰するものとする（範囲は関東甲信越）。
3. 表彰場所は例会場とし、表彰状又は表彰楯（KI本部製）を副賞（金一封）と共に贈呈する。
4. 上記に対する広報活動をする。

歴代受賞者

第1回	昭和60年度	非行	東京少年補導員連絡協議会	(本部と支部7)
第2回	昭和61年度	青少年の健全育成	(財)修養団 (社)日本青年奉仕協会 全日本鼓笛バンド連盟	(団体3)
第3回	昭和62年度	青少年の健全育成	(財)ハーモニイセンター (社)青少年交友協会 (財)育てる会	(団体3)
第4回	昭和63年度	難民児童の相談活動	(社福)日本国際社会事業団 伊東よね	(個人1)
第5回	昭和64年度	里親	(社)埼玉里親会 横堀ホーム代表者 横堀哲夫	(団体1、個人1)
第6回	平成2年度	麻薬	メリノール宣教会 神父ロイ・アッセンハイマー(薬物依存症 リハビリセンター“DARC”ディレクター)	(個人1)
第7回	平成3年度	青少年ボランティア	全国VYS連絡協議会会長 三好清隆	(個人1)
第8回	平成4年度	留学生の相談活動	ボランティアグループ留学生相談室 桜井博子	(団体1)
第9回	平成5年度	青少年の健全育成	羽根木プレイパーク 関戸まゆみ	(団体1)

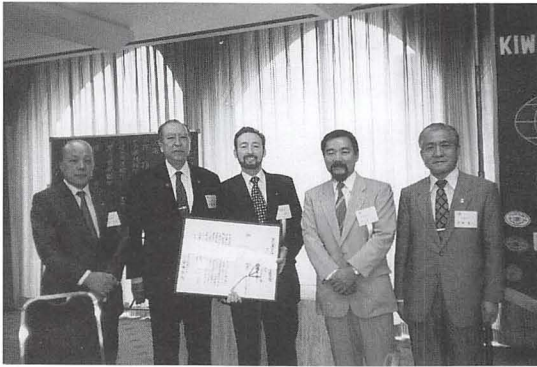


第9回東京キワニスクラブ青少年教育賞 受賞者：羽根木プレイパークの会

代表 関戸まゆみ氏より受賞の言葉
世田谷区代田4-38-52 羽根木公園内

本日は誠に有り難うございました。このような席でお話するのは初めてですので、緊張しております。ご報告をさせていただいて、ご挨拶にかえさせていただきます。

私は二人の子供の母親です。上の娘を幼稚園に送り迎えをしている時、下の息子をバギーに乗せて通って行く道に、羽根木プレイパークがありました。自分の責任で自由に遊ぶという看板を見て、面白そうだと思いました。幼稚園の送り迎えの間に、下の子を遊ばせていたこともありました。遊んでいると、色々な人が集まって来て、時には、大きな子供と一緒に、小さい子供が遊んでいるのを見ていました。狭いアパートに住んでいると、家の中で遊んで、大きな音を出すと、下の人に迷惑だと思ったり、道路で遊んでいると、危ないと思っていました。このプレイパークで遊んでいると、子供にやめなさいと言わなくてすみ、うれしく思いました。また、子供は毎日遊んでいると、自然と覚えて行くことが多いことも判りました。子供を見ていると、決して無理しないで、自分の分を弁えて遊べると実感致しました。工具は自由に使えるようになっているので、大きな子供が使っているのを見て、自然と使えるようになりました。危ないと言いきなりになりますが、危ないと言わない方がよいと思うようなことが多くありました。そこに連れて来さえすれば、子供は自由に遊ばせていて、私は見ない方がよいと気が付きました。そうこうするうちに、プレイパークの会がその遊び場を運営していることを知り、その活動に参加するようになりました。遊び場に子供を連れて来れば、後は暇になるので、何かお手伝いすることがあればという感じで、活動に入ってきました。色々な人が集まっていて、都市計画の専門家や映画監督や先輩のお母さんがいて、世話人会の活動が魅力的に思えて、毎日のように出入りするようになりました。何年か経って、祥



文社から「冒険遊び場がやって来た」を出版致しました。プレイパークがつくりたいという希望が多く、見学に来る方が多くいらっしゃいますが、言葉が足りず、上手く説明出来ないで、本にまとめることになりました。本に纏めることは、私にとっては面白い作業でした。だんだん深入りして、現在、会長をさせていただいております。私はただ面白くてやって来ました。遊び場を運営することは、一つの遊びのようなものです。遊びは本来、人から言われるものではなく、自由にやりたいことをやれる場が、遊び場であり、そういう場は絶対に必要なものだと思います。公園や砂場は幾つもありますが、ボール遊びや焚き火は駄目という遊び場が多い。本をつくる時、色々な人の話を聞いて、このプレイパークのような所は大変貴重な場所だということが判りました。都市の中で子供達が遊ぶためには、こういう形でプレイパークを支えて行かなければ、子供達に遊び場を提供出来ないことを痛感しております。本当は誰でも何時でも何処でも遊べる場所があれば良いのですが、東京のように、密集していると、そういう場所を住民が支えてこそ実現出来ると思いました。プレイパークの会は母親や色々な人が加わって、世話人会を構成して、運営しています。プレイリーダーをアルバイトでおける程度の子算を区からいただいています。公園の一角ということで、場所にも恵まれています。

最近、ベエゴマが流行っています。今は川口でしか作っていないようです。そこから取り寄せて、プレイパークで原価で売っています。流行ると、凄いパワーになります。休日には、父親が来て、ゆったりしています。そういうことに子供が触れることが出来るのも、こういう場所ならではの思ひます。負ければ、独楽を取られてしまいます。そういう勝負はどんなもんだらうという意見もあります。そういう時は、世話人の間で考え、賭けるからこそ、あれだけ盛り上がるので、意見を言うお母さんに判って欲しいと思ひました。そして、今日お配りさせていただいた私達が出している新聞「遊気流」にも載せました。中には、プレイパ

ークは汚くて、危なくて近寄れないというお母さんもいます。私達はどの子にも遊びに来て欲しいし、お母さん達にも理解して貰ひたいと思ひます。「遊気流」は近くの小学校10校や図書館、児童館に置いてもらって、広めています。色々なことを世話人会で考えて、対処しています。私はこの活動に興味があり、話し合って決めることが私にとっては面白く遊びのようなものでした。大人が集える場所もそんなになく、大人が外で遊ぶ場所も大事だと思ひます。好きだからやらせていただひますが、一方では、こういう場所は今は必要だと痛感しています。そういう気持ちで微力ながら続けております。こんな場所はというような声がある時に、本日このような賞をいただひて、こういう場所は必要だと認めていただひたという思ひを新たに、頑張っで行けると思ひます。こういう所で、プレイパークを取り上げていただひたことを本当にうれしく思ひます。これからも頑張っで行きたいと思ひます。本日は本当に有り難うございました。



キワニスリーダーシップ トレーニングセミナー

始めに：国際キワニスが毎年テーマにそって出す MAJOR EMPHASIS PROGRAM（重点施策）はクラブならびに会員の日常生活の中に具体的な奉仕活動を実践することによって、キワニスの目的を明確にしようとするものである。

1989～90年の重点施策 “ENCOURAGE EXCELLENCE” は、永遠のキワニスのテーマ、青少年～明日を担う健全な青少年～に照準するものである。殊に、青少年の特性、教育、経歴を培い、指導者としての養成を重視、これに力を注ぐなど、青少年にとって社会的に必要なものに対処しようとする。

東京キワニスクラブは、国際キワニス設立75周年記念にちなんで新たに、標記セミナーを企画、継続的な事業として実行している。

対象：青少年（勤労青少年を含む）

目的：明日を担う優秀な青少年の育成に、キワニス会員が、彼らの長所を伸ばし、彼らに、先輩としての助言や指針を与える。

①上記をバラエティに富んだ講演の形をとって実行する。

②上記を継続したクラブの事業とする。

理由：外的には1) 青少年の社会的な要請
内的には2) 会員がキワニスのモットー～WE BUILD～明るい社会の建設、および、キワニスという言葉の持つ意味の解釈、WE GATHER TOGETHER～自己のもつ職域で、最大社会に奉仕する～を具現するのに、これ以上適切な、奉仕活動はないのではないか、東京キワニスクラブの会員を意識しての企画である。



第一回キワニスリーダーシップトレーニングセミナー

1990. 7/28～8/3、第6回環太平洋学生キャンプ（福島県「国立那須甲子少年自然の家」において開催の席上、キワニスセミナーは、7/30午後ならびに7/31日午前）

講師：内田宏東京キワニスクラブ会員

演題：「現下の世界情勢と近代日本の発展経過の回顧」

(TODAY'S WORLD SITUATIONS AND A HISTORICAL LOOKBACK OF DEVELOPMENT OF MODERN JAPAN)

講師：安部英東京キワニスクラブ会員

演題：「脳のしくみとところ」

(CONSTRUCTION OF BRAIN AND ITS FUNCTION AS SOUL)

第二回キワニスリーダーシップトレーニングセミナー

1991. 7/28～8/3、第7回環太平洋学生キャンプ（PRIC/長野県「国立高遠少年自然の家」において開催の席上、キワニスセミナーは7/29午後ならびに7/30午後）

講師：川畑正大東京キワニスクラブ会員

演題：「未来の人間とコミュニケーション」

(FUTURE HUMAN COMMUNICATIONS)

講師：安部英東京キワニスクラブ会員

演題：「環境汚染について」

(ENVIRONMENTAL POLLUTION)

第三回キワニスリーダーシップトレーニングセミナー

1993、8/8～11、第8回環太平洋学生キャンプ
(PRIC長野県高遠少年自然の家にて開催の席上)

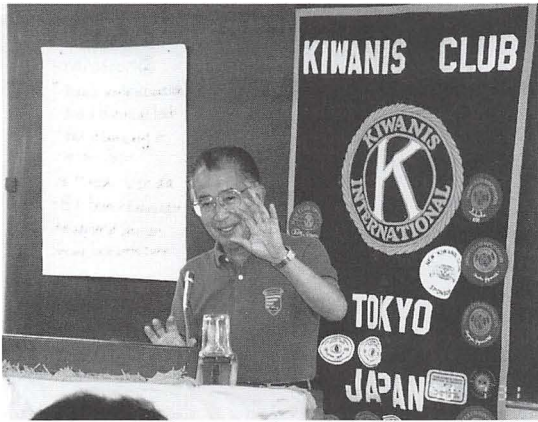
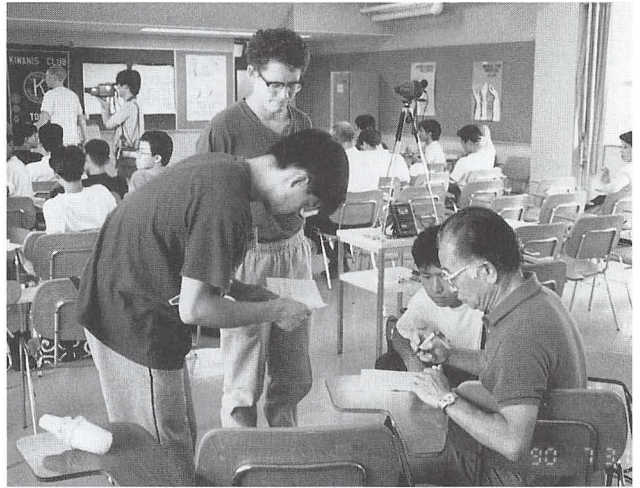
講師：安藤良夫東京キワニスクラブ会員

演題：「環境とエネルギー」

講師：坂部三次郎東京キワニスクラブ会員

演題：「星の話」

終了後いずれも、質疑応答の後、参会者と親しく
歓談



●上から内田会員
川畑会員
●左ページPRICで講演の安部会員

●上から内田会員
安部会員・内田会員
安藤会員

キワニス文化賞とは

日本の伝統工芸の伝承にあたり、特に功績のあった工芸家や職人で、比較的世間に知られず酬いられることも少なく苦勞を重ねている人々を広く探し求めその中から毎年1件を選んで表彰し、その勞をねぎらうと共にその存在を広く紹介し、日本の優れた伝統工芸の保持発展に貢献することを目的とする。いわば職人賞と名づけてよい性格のもので、その製作者の職人魂を賞揚すると共に民族的伝統工芸に対する一般の関心呼び起こし伝統文化に対する誇りを、又ひいては愛国心を喚起したいという祈りから設定されたものである。

昭和40年制定第13回までは、東京クラブの独自の事業として、第14回からは他クラブとの合同事業として、更に日本地区設立後は、日本地区の主要事業に発展名称を「日本キワニス文化賞」として授賞現在に至っている。

歴代受賞者

第1回	昭和40年	漆工	高野松山(蒔絵)
第2回	昭和41年	唐組み	深見重助(唐組み平緒)
第3回	昭和42年	江戸木工	稲木東千里(磨出象嵌)
第4回	昭和43年	羅・有職織物	喜多川平朗(色) 山本熊太郎(織) 佐々木ぬい(糸)
第5回	昭和44年	七宝	早川義一(釉薬施薬焼成) 菱田光治(素地) 栗田栄三郎(金銀線筋)
第6回	昭和45年	宮大工	古田秋治郎(規矩術)
第7回	昭和46年	和楽器	宮田勝男(箏)
第8回	昭和47年	和紙	坂東清馬ほか5名(土佐典具帖紙手漉)
第9回	昭和48年	工	根来実三(釜)
第10回	昭和49年	面・首	大江己之助(文楽首)
第11回	昭和50年	木工轆轤	槌谷藤太郎(輪島漆器はつり) 北浜保(輪島漆器椀木地)
第12回	昭和51年	緋	角良正(弓浜緋藍染)
第13回	昭和52年	金箔	谷口栄吉(金沢金箔打)
第14回	昭和53年	膠	妻屋弘(鹿膠)
第15回	昭和54年以降	は日本地区総会開催地が持回りで選考を担当	



わがいの30

58人の随想

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

JAPANESE

マッカーサー元帥に会ったこと

小林忠雄（財団法人日本不動産研究所会長）

私は昭和二十五年（1950年）5月満30才にして結婚した。当時私は建設省の大臣官房文書課の事務官で、文書課長は有名な小林與三次さんだった。戦後のマッカーサー旋風の最中であって、文書課は法律製造工場の様を呈していた。独身のエリート内務官僚として先輩から色々と縁談があった。一二回見合いしたこともあるが、当方から断ったり逆に断られたりで後味の悪い想いをした。そこで叔母が一計を案じて双方とも見合いと分からないようにして相手を観察することとし、昭和三十四年の晩秋、私は田舎の母と連れ立って銀座の三越の一階の化粧品売場でこれも母と連れ立った今の家内を観察して、ウエストの細い所に惚れ込んで結婚を決意した。その後、母と二人して日比谷のお堀端を散歩して、たまたま第一生命ビルの正面にさしかかったら、一台の高級車が横付けして中から連合軍最高司令官ダグラス・マッカーサー元帥その人が副官を随えて降り立った。母はすっかり仰天して柱のかげに坐り込んで手を合わせる仕末だった。おかげで私は世界史上の有名な英雄を咫尺の間に観察するチャンスを得たのであるが、家内は自分の知らない間に私に観察されたことを今でも恨んでいる。

キワニスと私

安部 英（帝京大学副学長）

東京キワニス倶楽部の30年は、私の人生のなかで最も重要な30年でありました。本倶楽部の誕生に参加を誘われました時は、その内容も、また30年後の現在の状況の想定なども全くなくて、すぐに入会を承諾しました。それは第一に誘ってくださった、友人達が平素から尊敬し、信頼していた方々であったからであります。当時東京大学がいわゆる“学生運動(?)”で混乱してしまい、私自身何ともやる瀬ない気持ち一杯であったこともこの決心を助けてくれました。こんな時、私は、このキワニス倶楽部によって、東京大学医学部とは別の世界を見せて貰いました。私とは全く異なる世界で活躍しておられる方々のお話を聞き、ご活躍をみま

して、大きな感動を覚え、また多くの疑問が生まれました。丁度子供の時に経験しました“何故”“何のために”“どのようにして”“どういう結果に”などの問いが次々と出て参りまして、例会にでますのが、実に楽しく、また励みになりました。そして学生運動が終りましてからは、毎年皆勤致しました。今年は26年皆勤の表彰を頂き、齢も喜寿を超えましたが、まだ例会には大きな魅力を感じております。

30の節目に

小島 章伸（株式会社QUICK社長）

3カ月、半年、1年、3年、5年、10年——いろいろな意味で人生のフシ目を作る年月である。その10年を3つ重ねた30年ともなれば一そう重い。30年の一時代、組織（企業）の寿命は30年……、いや応なく変化を迫られる。しかし私は「三十而立」という論語のこたばの方が好きだ。単なる変化でなく、前を向いた積極姿勢があるからである。私にとっての30もこれまでにいつも積極的な意味をもってきた。30才を越したとき日経ニューヨーク特派員を命ぜられ初の海外勤務に就いた“国際派”人生への転機といえる。ジャーナリスト生活30年、編集局長5年余の任を終えてラジオ（日本短波放送）の経営に携わることとなった。

新聞編集の仕事はいうならば左脳の世界、此れに対し放送は右脳、感性の世界である。180度違う世界に足を踏み入れ、わが人生の一大転機であった。そして迎えた「ラジオたんぱ開局30周年記念」縁に恵まれて30年を祝った。

さてキワニスに入って11年こんどは東京キワニスクラブ設立30周年にめぐり合った。QUICKに移った私にとっても新しい転機の年次なる30に向かって明るい未来を開きたいものである。

御成婚と伊勢湾台風

山中 茂（中央信託銀行顧問）

皇太子殿下（現天皇）御成婚の日、私達、岩手県警本部の幹部は家族と共に、テレビが置かれていた本部長室に集まっていた。

盛岡でテレビが放映されるようになったのは、その数カ月前であり、まだ各家庭にテレビは普及

していなかったのである、一才の長女がテレビを見て時々手を叩くのが、画面の進行にマッチすることがあり、皆で大いに笑ったものである。

私は、警務部長（人事・予算担当）であったが当時、東京地方の全県が赤字財政で財政再建団体に指定されており、県警職員（約1500名）の待遇改善に苦慮したものである。

30才も終わりに近い、9月、三重県警本部へ転任、その赴任途中、戦後最大の犠牲者を出した伊勢湾台風が来襲する。翌日、やっと動いた東海道線の一本の列車に飛び乗り名古屋で下車、それから先は道路の不通か所も多く、車で大垣を迂回し、大渋滞の中を8時間かけて津に到着した。

早速、正式参拝した伊勢神宮の境内では、樹齢5～600年のものも含め数多くの神木が無残にもなぎ倒されていた。

私の30才は、強烈な印象の残った年であった。

キワニスの基盤に

赤澤璋一（財機産業記念事業財団会長）

今は亡き五島昇さんから鹿内さんがキワニスクラブを作るから君も参加しろという電話、行ってみると発起人会のようなものだったが、今では、どんな人が居たかはっきりと憶えていない。ただ今でも記憶にあるのは次の二つの点である。その一つは鹿内さんの言われる“日本らしいクラブを、つくろう”には、全員賛成したが、それでキワニス本部が認証してくれるのかという問題。然しこの点は発起人代表の鹿内さんが向こうと話をつけるということで一応ケリ。その二は入会資格の問題。政治家、芸人、宗教人はダメ、年齢は55歳未満、一応秘書と車のある人という線引きが決まった。

私は、当時通産省の経済協力部長で45才の若僧だったが、五島さんも鹿内さんも50才前後でお互い歯に衣きせずに話し合ったものである。

あれから30年、キワニス東京の平均年齢も今や65歳とそれなりに成熟した感じだが、あの入会55歳未満の制限をはずしたのはいつ頃だったろうか。

30年の歴史の重みを感じながらも、やはり若々しいキワニスでありたい。55歳以下のメンバーが

委員会活動を中心に引っ張ってゆくようなキワニスがいいなと思うこの頃である。

かけがえのない年月

横川 端（㈱すかいら一く会長）

今から三十年前というと、丁度私が独立した年である。

信州の諏訪精工舎（現在セイコーエプソン）に勤めて十八年、将来性のあった職をあえて捨てて上京した年に当たる。そして兄弟四人で開いたちいさな食料品店“ことぶき食品”へ身を投じたのである。

平凡な一生を終わりとくなく、この世に生をうけた証を残したい。最初から家業ではなく、事業として成功を目指した船出であった。

素人商法ではあったが、執念が実って店は繁盛店となった。しかしうかつにも時流を読み誤り、この食品店は七年目にして行き詰まってしまった。日本に流通革命の時代がやってきたからである。

凡そ二年苦しみ抜いた末に、再び一大決意をして、フードサービスに転業、ファミリーレストランすかいら一くを創設し、今日に至った。

振り返ってみると、この三十年は、私にとってかけがえのない年月であり、激動の半生であった。

キワニスクラブが三十歳という節目を迎えて創設にたずさわった先輩メンバーの方々の想いは、つきないものがあると思うのである。

「30年前の私」

森田正典（㈱日本タイムシェア顧問）

今から30年前、1964年頃私はNECの無線通信事業部長として、マイクロ波通信・衛星通信の技術開発と事業発展に全力投球していた。

当時私達が世界に先駆けて開発した数々の新方式が、現在開花して、この分野での納入先が、126カ国とNECはこの分野で世界最高の累計納入実績を持つまで発展してきた。

例えば、真空管を全く使用しないマイクロ波中継機を世界最初に開発して、警察庁の大阪一広島間に納入したのが1964年であり、この新方式の信頼性と経済性を武器としてNECの世界各国へのマイクロ波通信機の輸出が始まったのである。

1964年の東京オリンピックの衛星中継の成功は、ヒューズ社とNECの共同研究として、同期衛星シンコムIIIの打ち上げ成功の1年前から私達が準備してきたのが丁度間に合ったのであった。

また現在常識となっているPSK-PCMデジタルマイクロ波通信方式を世界で最初に私達が国際学界で発表したのも1964年だった。

その頃を思い出すと正に感慨無量である。

30の皆勤賞を前に

松本龍二

私は戦時中3回の召集令状を受けた。1回目は24才の夏、いきなり神戸港から貨物船に乗せられた。

海水の色が変わってきたと気付いたときはもう揚子江を遡っていた。南京に上陸、城壁にへばりついて一夜を明かす、大別山脈を越えて漢口近くで本隊においつく。それから2年余、作戦中は命令受領、陣中日誌をまとめるのが任務だった。

ある夕暮れ、命令を伝達すべく1人山道を急ぐ山腹に入ると急に暗く、方向も目標地も見失う。

麓からカネや太鼓をたたいて近づく一団がある敵襲だ。道なき道の傍らの草むらに身を潜めやり過ごす。闇の中、見上げれば満天の星。孤独感、無力感が全身を包む。「ああ！30まで生きたい」「無理だ」青春なき日々だった。

30才は終戦前に使い果たし、今や80才の大台はどう考えても出来すぎである。

波乱の人生は回想すれば面白いが、老人にとっては刺激的すぎる。私は今ひそかに希う。「せめて30の皆勤賞までは健康でありたい」と。

可能であれば、遺言代わりに随想なり、回顧録のようなものを断片的にとり纏めて残しておきたい。資料は散逸し、記憶はすっかり薄れてはいるが。

国鉄からJR時代へ

尾関雅則（財団法人鉄道総合技術研究所理事長）

私の30という題を与えられて、昭和39年を振り返ってみた。東京オリンピックの開催、東海道新幹線、首都高速道路の開通と多くのイベントが思い出されます。「もはや、戦後ではない」といわれたから、その言葉がはじめて日本国民に実感を持って受け入れられたのは、この年だったのではな

いでしょうか。その後、大阪の万博までの約10年間は、敗戦後の日本の歩みの中で最も輝かしい黄金の10年であったと思われます。

国鉄にとっても、この10年は戦後はじめられた電化、自動化など近代化施策の華がいっせいに開いた時期であり、もはや鉄道は、午後3時の産業であると言われていた世論を見事に跳ね返して、世界の鉄道事業に再び自信を与えるよすがとなった新幹線がデビューした時期でもありました。

しかしながら、成功の頂上を極めたということはそこから下り坂が始まるという事であり、特に田中内閣の時代に行われた30%におよぶ、ベースアップによって、決定的なダメージを受け急速にカタストロフィーにむかい、国鉄は115年の幕を閉じてJR時代が始まったのであります。ここに思いを致す時歴史の必然を感じざるを得ません。

若さと希望に充ちたあの頃

長岡 實（東京証券取引所理事長）

昭和29年(1954年)5月16日、三重県の津市で30才の誕生日を迎えた。前年に長男が生まれどうやら一人前の社会人になったような気分だった。

三重県での30才の生活は2カ月で終わり7月には3年半の地方生活を経て東京にもどったので、30才の大半は大蔵省主計局の主査として過ごしたことになる。この年の暮れに吉田内閣から鳩山内閣に代わり、私の仕事の守備範囲だった住宅対策が脚光を浴びることになったため、徹夜が続くような忙しさだった。ちなみに、この年の予算編成作業のなかから生まれたのが「住宅公団」（いまの住都公団の前身）である。

当時を思い出すと、仕事の辛さもさることながら、家計のやりくりの辛さはいまの若いひとには想像もつかないようなものだった。「もはや戦後ではない」といわれた昭和30年も、公務員の生活白書の上ではそのような実感からは遥かに遠いものだった。私が30才から31才になる昭和30年は、わが家に次男が生まれ、日本の政界に1955年体制が生まれた、豊かではなかったが、世の中全体が若さと希望に充ちた時代であった。

キワニス文化賞の創設期に 長谷川滋彦（中越バルブ工業㈱監査役）

東京キワニスクラブに入会して17年になるが、この間殆ど文化委員会に属してきた。当初キワニスの看板になっていた「キワニス文化賞」の銚衡は、専ら東京クラブがおこなっていた。委員が夕刻集まって長時間討議したものである。処が、東京だけではだんだん銚衡難に陥ってきたこと地方のクラブから熱心に移譲の要請がでてきたこと等により、最終的には、昭54年より各クラブ持廻りとし、東京は日本クラブの代表の資格で参加することになった。このシステムは地方のクラブの活性化に寄与する処大であったが、反面当クラブの大きな文化活動の柱が失われ、未だに新しい柱がでないのは関係者の一人として残念に思う。

なお、例会では3回喋らせて頂いた。何れも、趣味の音楽に関するもので、「音楽の楽しみ——モーツアルトの食卓音楽」「第9交響曲によせて」「新音楽事情」と題する。また昭56年東京でアジア大会が開かれたとき、上田事務総長からオリジナルなものをという要請を受けて、パーティー用のBGMテープを編集したことも思い出となっている。

一人は皆のために、皆は一人のために

安藤太郎（住友不動産㈱会長）

私は時折テレビでスポーツ観戦を楽しむことがあるが、先日ラグビーの日本選手権を見た。ラグビーは1チーム15人ずつの合計30人で行う団体競技である。以前ラグビーについては「屈強な若者が体力にものを言わせて勝負するスポーツ」程度の認識しか持たなかったが、実際には全く異なるようだ。体力自慢を多く集めれば試合に勝ると言う訳ではなく、チーム全員が1つの戦略の下、助け合いながら攻撃・防御を行ったか、換言すれば「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」（一人は皆のために、皆は一人のために）の精神を実践できたかどうか勝敗を左右するのである。また、ノーサイド（試合終了）とともに敵・味方の区別なく30人全員が互いにその健闘を讃え合うことも実に清々しいことだ。

このように、ラグビーは一人一人の体力に加え

て精神力をも鍛え、社会生活に必要な人格を陶冶するスポーツなのである。そこで培われる精神は奉仕の精神とでも言うべきものあり、キワニスクラブの目的にも通じるものだと思う。このような素晴らしい面に気づき、ラグビーについての認識を新たにした次第である。

世の中のために

高木 勇（(社福)日本キリスト教奉仕団理事長）

袖触れ合うも他生の縁と言うが、もう30年近くもキワニスに御世話になっているのだから御縁の深さをつくづく感ぜずには居られない。

この30年は世界にとっても日本にとっても、忘れることの出来ない大変革期であったが、私個人にとっても熟年期から老年期にかけての極めて変化に富んだ重要な時期であった。40～60才代には、体力気力共に充実していた丈に、モリモリ仕事もし、大いに飲み、世界中隈なく飛び廻り、悔のない活躍も出来た。

さて人生の終章を迎えて気にかかることが二つある。一つは人様に迷惑をかける様な老人病にはなりたくないということと、最後には平静な心でサヨナラを言いたいということである。

先の方は、医術の発達である程度叶えられると思うが、後の方は心の問題丈に、些か焦りを感じずには居られない。だが結局これらの問題は、各々の信ずる絶対者に凡てを委ねて行くより他に道はない様に思われる。

ともあれ私もまだ大変元気である。手相も可なり長命の様なので、「私の40」を目指して世の中の為少しでも役に立つよう努力する所存である。

キワニスの歴史の中に

中村広忠（好美屋社長）

私はYPOの方々がキワニスクラブに入会したとうかがい、ご紹介もいただきましたので昭和40年に入会させていただきました。その頃は若い方でしたので、故南出他十郎様や故松平乗光様などとレクリエーション方面で色々とお働きいただきました。そして鈴木俊一様が都知事に成られた時から、3年間副会長の職に就かせていただきました。また、昭和49年の好美屋創立25周年の折りは、

平素より可愛がっていただいております鹿内信隆様に財界代表のご挨拶をいただき感激したものでございます。

私も昨年9月に古稀を迎え、旧い友人の森重久弥様から「喜んで悲しんでも歳月は流れゆくものです。」という言葉をいただき同感いたしました。もう花も咲かない年齢になりましたが、菜の花のように、臺が立ってから黄色の花が美しく咲くような人生を送り、そして23年間皆勤しておりますので、あと2年はなんとか皆勤を続けたいと思っております。

キワニスクラブ30年の歴史の中で、私にも色々な思い出がくれたことを、今改めてありがたいことと感謝しております。

献血30回に思う

北原 卓（日本障害者雇用促進協会常務理事）

一昨年私の献血活動は、30回に達し、表彰楯を貰いました。その後も続け今年38回を越えることとなります。

献血を始めた切っ掛けは今亡き父の手術でした。「輸血量に見合う献血回数がないと手術はできません」と病院から冷たく言われ、献血手帳を集めるのに一苦勞したのです。他人の世話になるのは出来るだけ少なくしようとの考えからその時から、自分で献血することにしました。

輸血に使う献血義務は、その後廃止になったようですが、地域での献血ルームの医療関係者の態度の違いや雰囲気の違いそして成人病検診の一部としての効果もあって半ば惰性で私の献血は続いています。

出張のたびに各地の献血ルームに寄るのも楽しみの一つですが、岡山市表町の献血ルームであった接遇態度の良い実直で素直な若い看護婦さんはそのルームの老婦長も認める優秀な人でした。献血が結ぶ思い出の一日です。

「キワニスの森と慰霊の泉の清掃」

安藤 良夫（東京大学名誉教授）

今年東京クラブは設立30周年を迎えますが、私が入会したのは昭和52年ですから半分以上在籍したこととなります。平成元年には、はからず

も会長に推され、キワニスでは辞退できないとのことで、不適任と思いつつ務めることになりました。なってみますと、1990年は国際キワニス創立75周年記念の年に当り、東京クラブでも特別の事業を行うことが討議され、いくつかの事業が発足しました。

キワニスの森について多くの検討の後、元会長の鈴木都知事のお部屋に片桐ガバナー、事務局とご一緒をお願いに伺い、葛西臨海公園に作る許可を頂き、完成は翌年になりましたが、以後会員も都民も毎春大島桜のお花見をたのしんでおります。明治100年を記念してキワニス発足後3年目に靖国神社に奉納した「慰霊の泉」の老朽化がすすんだため神社と協賛で改修しました。平成2年6月清拔式が行われ、以後会員が手分けし、自ら清掃作業を行う方式が採用され、今日に及んでおりますが、ご熱心な方々には頭が下がります。

セントルイスで行われた75回国際年次総会にはガバナーのお伴で参り国際雰囲気勉強しました。

キワニス遍歴の記

酒井 吉郎（住友不動産㈱社友）

昭和51年5月福岡キワニスの発足に際し、同地の吉永検事正、納田サンケイ支局長旧制五高OBの猛者達に説得されてチャーターの一員に。福岡は国粹主義発祥の地。発起人会の席上、川辺会長が「アメリカ本部が無理難題を言ってくれば福岡キワニスを解散して「玄界クラブ」と改称し再発足する」と言明されたのは印象的だった。

毎月の「博多のうまい物を食べる会」はハカチヨンの私にとって有り難かった。昭和53年11月転勤とともに名古屋キワニスに移籍。松本省吾氏故田中雄平氏ワシントンホテル社長らの知遇を得た。御当地、丸八会の多彩な活動に圧されながらも名古屋キワニスは善戦をしていた。昭和55年4月松平メンバーシップ委員長、吉見事務局長（ともに故人）による面接テストを受け東京キワニスクラブに移籍を認められる。わがチャーターメンバーに対して失礼なりとの声も福岡から聞えてきたが、意に介することはない。なにしろエクセレントメンバーを選考するのだから。今は火曜例会でのワ

インを飲みながらのサロンの雑談を楽しんでいる。
以上キワニスクラブ遍歴の記。

国際キワニス世界奉仕活動「ヨード欠乏症撲滅」に寄せて
須藤博忠（中央学院大学講師）

私は、今から40年以上も前、エンゲルスの著作「革命と反革命」の第15章中の「議会主義的クレティン病という不治の病い」と言う語に接しとき、クレティンとはどのような病気なのかわからなかった。当時調べたところでは、「アルプス山地に見られる流行性または遺伝性の白痴病」ということであつた。ドイツ語の原名Kretinismus から派生したKretin（クレティン病患者の意味）は、軽べつ的に、うすのろ、ばか、白痴という意味にも使用されていることが判明した。しかし、クレティン病そのものについては、依然わからなかった。平成5年10月29日の当クラブ例会講演での入江實会員の説明に接し、この多年の疑問が氷解した。この病気がヨード欠乏によるものでありスイスがヨード欠乏地域であつたということであつた。エンゲルスのこの文章は、1852年に執筆されたものであり、当時スイスその他アルプス山地にかなりの数のクレティン病患者が居たものと想像される。キワニスクラブが、ヨード欠乏症撲滅活動に取り組むことは、誠に喜ばしいことと存ずる次第である。

我がスクーバダイビングライフに
森田啓司

わが人生と30という数のかかわりを色々と考えてみたが、なななか思い当たるものがない。

いっそ遊びの中に求めてはと思ったが、いかに下手なゴルフでバンカーで30叩いた覚えはないが、ハーフ30は、夢の又夢。テニスではサーティという得点が必ず出てくるが、これとて大逆転勝ちの契機となった記憶もなく、ジュースも30回繰り返した武勇伝もない。

最後に辿り着いたのが、やはりスクーバダイビング。30は関係大なり。最大水深30Mは、スポーツダイバーの鉄則。これを越えると潜水病の危険大。肝に銘じて潜る要あり。ついでに19年間850回の我が潜水歴中30回目はいかに。記録を調べると昭和51年7月17日潜水地点、佐渡ヶ島二つ亀岩と

ある。之は当時潜水サービスのほとんどなかった日本海側へ平常太平洋側しか潜っていないダイバーが挑戦したことで、我々仲間内では画期的な出来事だつたことを想い出す。「太平洋はブルーだが日本海はグリーンだ」というのが私の感想だつた。

以上潜水に関係のない方にとっては、面白くもなんともない事を書いて責を果たすこととする。

なつかしいあの頃

阪野正明（佐藤工業㈱常任顧問）

キワニスクラブ創立30周年に因み、30年前のことについて記事に致しますと、昭和39年は、オリンピックのあつた年だという記憶があります。

当時、私は、防衛庁陸上幕僚監部第二部別室長であり、防衛情報を担当する責任者として、市ヶ谷駐とん地に約2年半勤務していた。

そして、翌40年4月に大分県の県警本部長として赴任した。久し振りの地方勤務でもあり、楽しい思い出が多い。当時の大分は、別府から熊本の阿蘇に向かって「やまなみハイウエー」が開通した直後であつた。したがって観光客が多く神戸から瀬戸内を船で大分に上り、別府を経て、城島高原、久住高原を通つて阿蘇に至る風光を賞でる人の多い時でもあつた。

当時を回想すると、大分から上京するのに特急で18時間半もかかり、空路もプロペラ機で東京へ約2時間半、大阪でB727に乗りかえたりという時代であつた。仕事としては、暴力団石井組の取締りをしたのをはじめ、別府タワー事件、後藤巡查殺害事件の捜査、また、国体が開催され、天皇の行幸に伴う警衛警備などで、忙しい思いをした当時がなつかしい。

思わぬ30

野中 庸

昨年春自分で求めたこととはいえ、30という数で或るショッキングな事があつた。私の所属するゴルフクラブからグランドシニアの資格が出来たという通知があつた。およそクラブコンペとは縁がなく、ぶらりと出かけて、見知らぬ人と半日を楽しむのが常の私にとって、グランドシニアの懇親ゴルフは、懇親とはいえノータッチの正式ゴル

フになり、いささかの緊張がある。そこで問題はハンディである。長年気楽に、やって来たので15年位、カードを出していない。ハンディは18から20になったままである。近頃の100が切れない実力とは甚だしく違ってしまった。そこで、恥をしのんでカードをせせせと出した。まあ25位には下げられるかなと「自己診断」していた。しかるにある日届いたのは「20」から「30」にするというハンディキャップ委員会の通知であった。正直ガックリとした。年甲斐もなくフォームを、改造中で、ひどいスコアを出したから、委員会の判断は当然と言う思いと、10も落とすとはひどいと言う思いが交錯している。それではこれから頑張って少しずつハンディを上げるぞと決心をした次第。これが私の30である。

原文兵衛さんにすすめられて

富田朝彦（国家公安委員会委員）

入会させて戴いたのが43年7月。当時まだ国会議員が会員としておられたのか、原文兵衛さんより「なかなかいいミーチングだ、君にすすめた今一つと君の考えで」とのお言葉に入会を申し入れて今日に至っている。

今日まで会員として23年になる。この間のあれこれは思い出深い。しかしこの間私のズボラで、今だにキワニス会員章にプラスがついていないことを恥ずかしいことだと思っている。

しかし、いいミーチングだ。例会や新年ミーチングでお目にかかる人々と話すことに大局な意見やらを耳に出来ることには。

例会のお話も充実し、又世界の子供達への努力も、大変なものだと思います。

インドネシアに長く関わるきっかけに

鈴木義夫（日本インドネシア・エル・エヌ・ジー常務取締役）

昭和38年の暮、私は上司（前事務局長の橋本信夫氏）から、北スマトラの油田実査を命ぜられて初めての地ジャカルタを訪問した。

ナショナリズムの意気に燃えながら、しかし経済の舵取りに悩む新興国の姿が溢れていた。夜間の中に浮かぶ新しいホテル・インドネシアの前を散策する青年のワイシャツの襟の上からネクタイ

を締めた奇妙な服装も先進国に追いつきたいという強い願望の表れと思えて笑えなかった。日本の鹿鳴館時代を見ているような気が一瞬した。石油会社のストウ総裁はきびきびした軍人の印象だった。油田を視察して半年後再びジャカルタに戻ったとき、駐在の日本人からスカルノが尊敬している偉い人に会うようお誘いを受け、あまり広くない邸宅を訪問した。丁度水浴をしておられたその方は、無造作に更紗を腰に巻いて私の前に現れた。どういう方かよく理解できないまま挨拶をして辞去した。後年この方がインドネシア独立の陰の立役者として有名な前田精海軍大佐であったことを知り、不勉強を改めて恥ずかしく思った。

30年前のことである。その後この国に長くかかわることになろうとは夢想だにしていなかった。

ボーダレス経済に合わせて

足立原明文（トビー工業株式会社会長）

30年前と言えば、オリンピック東京大会と東海道新幹線の開通が思い出される。当時は本社資金部次長の職にあつて5階執務室の窓を通して代々木国立競技場の聖火が薄暮の杜に映えているのを眺めつつ戦後復興もここまで辿りついたかの感を深くしたものだ。

その後の不況、一転して「いざなぎ」景気到来等々それ以降好・不況を繰り返しながら概ね右肩上がりの経過を踏み更に昨今の驚天動地とも言うべき世界規模での激動変革は正に我々が現代史を形作っている当事者であるからここに記述する要はないと思う。この間における仕事を通じての個人的特記事項と言えば昭和58年社長就任以後ボーダレス経済に合わせて米・英・台湾に逐次工場建設を進めたことである。一方、オフビジネスとしては学生時代から続けていた観世流謡曲を昭和40年喉の病気で稽古不能となり観たり聴いたりの方に転向せざるを得なくなったが、その後春日流小唄に親しむようになり昭和51年名取をいただき新橋演舞場や国立小劇場その他に師匠に、薦められて出演したことがあったが、師匠他界後は専ら往時を偲び口吟む程度である。終わりにキワニス栄れと祈る。

昭和天皇とのスナップ

野村一彦（海事産業研究所長）

キワニスクラブに入会してわずか5年余りなので、クラブの各種の事業活動では、先人諸氏の麒尾に附してきただけで何も格別お役に立っていないが、往時30年の私個人の思い出を振り返ってみると感慨深く、今でも時折見るたびに感激を新たにすものであり、家族に対してももちろん友人知己に対して大いに誇り且つ自慢している写真である。これは、20年前私が海上保安庁長官在任中に昭和天皇皇后両陛下が宮崎県で開催され全国植樹祭に、行幸啓された帰路、日向港より当時随一の豪華フェリー「セントポーリヤ」に乗船され日向灘一土佐沖一東海地方沖を経て川崎港まで24時間海上警備の任に当たった当時のスナップである。伊豆半島爪木崎ちかくでそろそろ東京湾が近づいた時、警備の巡視船の登舷礼に対して答礼される陛下の側で御説明し、御質問にお答えした際の一齣の写真であるが、見るとおり全く1対1で陛下とお話できた光栄と誇りは、私にとって最大の宝でもある。

次世代の日本に提言

岩崎英雄（合同石油開発㈱社長）

30という文字を見ると、私は何よりも昭和30年代を思い起こす。興銀の駐在員として昭和34年から38年までニューヨークで勤務したが、当時の米国は、国威隆々、見るもの聞くものすべてが珍しく又、驚きの的であった。その後、今日までの日本の経済的躍進と世界史の大きなうねりを思うと誠に感慨無量なのもある。更にこの30年を終章として、わが国が辿った過去100年の歴史を顧みると、誠に波瀾万丈の道のりであったとしか言いようがない。そしてこれからの30年日本は果たしてどのような進路を辿るのであろうか。

全ての分野で否応なしに国際化が更に進むものと思われるが、その為にも学校教育においては、歴史、就中、アジア地域の歴史に焦点を当てた過去200年間の世界の歴史を教えることが、日本のおかれている世界の実相を見誤らないために特に大切であるように思えてならない。難しい英文学な

どではなく、もっと平易な、実生活ですぐに役立つ英文や英会話中心に、授業内容を改めるべきではないかと思われる。次世代の日本、21世紀の日本に幸多かれと祈るや切である。

当クラブと共に歩んで

菊岡平八郎（副日本道路交通情報センター副理事長）

私は、1985年に千葉クラブに入会して以来キワニアンとしてスタートし2年後に横浜クラブへ移り当クラブへは、1989年に移籍入会させていただきました。

わずか9年間に3箇所のキワニスクラブを転籍してまいりましたので、当クラブ会員としてはまだ5年目の末輩ですが、設立30周年という意義深い年にめぐり合い、記念事業準備委員会の一員として記念諸事業の企画、実施に参加させていただきましたことを光栄に存じております。

常設委員会では、入会以来社会公益委員会に所属して先輩諸賢の御指導を受けておりますが、どういう風の吹き廻しか一昨年秋から委員長を仰せつかり、伝統ある「社会公益賞」授賞候補者の発掘と選考に毎回頭を悩ませております。

昨年の皆勤賞で27年という松本龍二様を筆頭に16名の大先輩が20年以上皆勤の偉業を達成しておりますが、そこまではとても及びませんので、まず本年度で5年皆勤に到達し、次のステップとして10年皆勤を目標に、例会、火曜昼食会出席と諸行事参加に務め、微力ながら当クラブと共に歩んでいきたいと思っております。

皆勤賞に程遠くても

大月 高（日本ハウジングローン㈱特別顧問）

昭和39年当時、キワニスクラブの創設の話が、鹿内信隆氏を中心に持ち上がり、私にも会員にならないかとお誘いを受けました。しかしこの種の集まりでは、定例の開催日には欠席は許されないという厳しい規律があり、折角の機会でもありましたが、残念ながらご辞退いたしました。遇々その時の大阪キワニスクラブの事務局長が、関西電力副社長の加治木俊道氏であり、「出席のことは他のクラブと違ってそんなに喧しく言わないから入会したらどうか」と奨められ、お言葉に甘えて

入会させて頂きました。その後同会の会長も勤めさせて頂き私なりに一所懸命にやったつもりですが、昭和51年、東京への転勤を機会に東京キワニスクラブに転籍させて頂き現在に至っております。ただ、出席について言えば、「出席恒ならず」ということで、メンバーとして長年に亘るにかかわらず、皆勤者に頂戴するキワニスのバッジには無縁の俣です。ただ、お蔭様で、明朗且つ親切な多数の会員諸兄との親しいお付き合いに恵まれ、楽しい会員生活を今後ともエンジョイさせて頂きたいと念願している次第です。

例会、そして委員会の価値

関野直輔（積水化学㈱社長）

1. 例会の出欠

大阪キワニスクラブの会員だった上司の勧めで49年6月に入会した。入会后20年近くになるが前半は精勤賞を1回貰っただけだった。新宿の高層ビルに勤務していると、11時には出席するかどうか決めなければならなかった。ところが神田に勤務することになったら、12時に出欠をきめても間に合うことになり、後半は13年皆勤を続けている。銀座の昼食会が出来たことは、有難かったが、出欠状況は、仕事の繁閑・勤務場所・健康に大きく左右されることを痛感している。

2. 委員会の価値

入会してからは長い間社会公益委員会に所属した。その後暫く総務委員をして、現在は青少年教育委員会に所属している。毎年社会公益賞と青少年教育賞の表彰者の選考に関係したが、それ迄仕事と趣味に関係する社会しか知らなかった私にとり全く違った社会を垣間見る事が出来るのは非常に有難い。これだけでもキワニスクラブに、入った価値があると思う。ある表彰対象施設の食堂に椅子が一つもないので尋ねたところ、車椅子の人達には椅子は要らないと言われた事などを思い出す。

30の節目を大切に

小菅 宇三治（プリマハム㈱相談役）

論語に「吾十有五にして学を志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る」とあるは孔子が自分の生涯を要約した言葉と言わ

れている。私は学生時代テニスの選手だったから点数を15、30、40ゲームと呼称するのと奇しくも同じ。人生にしろテニスにしろ30は極めて重要なポイントと思われる。東京キワニスクラブは創立30年を迎えるが、この節目を大切に更に若々しく魅力あるクラブへ発展し度いものだ。

論語は更に「六十にして耳順う、七十にして心の欲する所に従い矩を越えず」と続く。私も幸い健康でゴルフ、清元、小唄と欲望のまま楽しんでいるが、人間の規範を逸脱しないように自戒している。吾が人生を振り返ると30代が一番活動的だった。伊藤忠時代30代にジャカルタへ一年半ロスアンゼルスへ6年駐在し両支店を開設した生涯永住したのは此の二国と日本だが、私の宇三治(USAJI)なる名はUSA(米国)J(ジャパン)I(インドネシア)の三国のイニシャルから構成されており不思議だ。清元の名取名は清元宇三寿、小唄は柳恵三治と共に3に縁がある。キワニスの30周年に幸あれ。

元祖キワニアン

須藤幹雄（㈱新潟口シア村社長）

今から30年昔のこと。昭和39年7月15日に私は一人でキワニス国際本部を訪問した。その頃本部はシカゴ市東エリエ通101番に在る3階建のビルディング全館を占有していた。本部を訪問すると各キワニスクラブ会員に対して、来訪の記念に証摺として登録手帳を授与する慣しだ。

自宅のアメリカ在勤中の資料棚から、30年前に手渡された登録手帳を探し出し懐かしく眺めた。第1頁には本部建物の全景カラー写真が載っており、続いて1918年シカゴに本部が設置されて以後市内を転々と移動したが1959年にこの新築の事務所ビルをエリエ通に所有するに至った経緯が説明されている。最後の頁に「シカゴキワニスクラブ会員須藤幹雄を1964年7月15日に年初以来1148番目の来所会員として登録する。クラブ数は5237会員数は270000」とある。キワニスは1915年デトロイト(ミシガン)1916年ハミルトン(オンタリオ)に創始された。以後もアメリカとカナダにのみ設立が続いたので、キワニアンは北米の市民と見做さ

れ、私も在米中は各地でキワニアンより声をかけられ親しく言葉を交わし心強かった思い出がある。

私の30話

関口欽也（日本短波放送欄社長）

“私の30”話は二つある。

〈その一〉「このお子さんは長生きできない。よくて30歳まで」小学生の頃、私は医者からそう宣告を受けたらしい。心臓に欠陥がある——ということと母親に“覚悟”を促したようだ。「どうにかして」母は医者に懇願し、その結果私は一年間一日も休まずに注射に通うことになった。

その結果か、あるいは誤診だったか、私は生き延び30才も越えたら母親は私に打ち明けた。大体わが父は36才の若さで米国で客死した経緯があり、母も私も“若死の家系”に怯えた。私は何事でも過度にのめり込む所がある。“命との競争”を感じていたのかも知れない。

しかし30才も36才も意識はしたものの無事通過、その後30年近くお釣りのような人生、馬齢を重ねている。

〈その二〉私が30年間務めた日本経済新聞から系列の日本短波放送へ移ったのは昭和59年、会社は丁度30周年を迎えていた。社長はほかならぬこの記念誌を推進した小島章伸広報委員長。そのころだったか「会社の寿命は30年」ということが言われそんな題名の本もでていた。私の社員への挨拶は“ニューたんばを創ろう”今年当社は40周年だ。

釣り大会で30位

北村廣太郎（地域振興整備公団副総裁）

それこそ30年ほど前の事である。ある日乗合の釣船でキスを釣ろうと金沢八景へ出かけた。駅から一番手近な船宿はキスの乗合が満船で、隣をのぞくと、あるスポーツ紙主催のキス釣り大会でまだ席があるとのこと、それも面白いと、船賃のほか参加会費を払って乗船した。いざ釣場に到着してみると、海上には同紙協定の釣船が集合している。時間がきて競技開始となった。ぼつりぼつりの釣れ具合だが、くじで当たった胴の間の釣座にしては調子がいい。競技終了の合図で港へ帰り数えると40数尾、周りの釣れ具合からこれでも入賞かと

おもったが好調の船があつて、優勝者は90尾台、私達の船でも60数尾の人がいて、入賞などとてもとてもということがわかった。帰り支度をしていると10位、20位という区切のいい順位に飛び賞が出るとのこと、しばらく待っていたら30位ですということと同順位の他の人と一緒に賞品の釣り針と糸を貰った。その後、仲間うちのものは別としてスポーツ紙主催など大きな釣り大会には一度も参加していないので、これが私の唯一の記録である。

東京キワニスクラブとの御縁

木戸孝彦（木戸池田法律事務所長）

三十年前の或る日、我が家の郵便受けに分厚い封書が入って居た。封筒にはキワニス・クラブ発起人会と書いてあったと思うがキワニスクラブという名はそれ迄見たことも誰からも聞いたことがなかったので多分当時流行していた銀座のメンバーズクラブバーの勧誘状であらうと思ひ屑籠に捨てようとしたが何か違うのではないかと云う勘が働いたので開封した所之が東京キワニスクラブへのチャータードメンバーとしての入会勧誘書類であった。発起人には子供の頃から存じ上げて居た大先輩の五島昇氏・小坂徳三郎氏や小幡康吉氏が居られうっかりお断りすると何を云はれるか判らないし入会金や会費などもそこそ負担出来そうなので入会承諾書を送ることとした。之がキワニスクラブと御縁の出来た発端でありそれ以来三十年多くの先輩、会員の方々の御世話になり今日に及んで居る。銀座のクラブと早合点し屑籠に捨ててしまつて居たら此の様な思い出も書けなかったことになる。

三原時代の思い出

安原 正（農林漁業金融公庫副総裁）

30年前の30才の頃だ。広島県三原市に転勤となった。東京とは異なり、住居は、まずまずのペースはあったものの、隙間だらけの古びた木造平屋建てで時折「やもり」までが出没するには閉口した。また、昔風の五衛門風呂を薪で沸かすのは一仕事であった。妻の不慣れを見るに見兼ねて、昔ボーイスカウトで習得した野営のコツを思い出

しながら手助けをした。これが自慢にもならないが、数少ない家事手伝いの貴重な事例である。三原の名産品は、瀬戸内海の島々を中心として穫れる広島みかんと10数軒の醸造元で造られる日本酒であった。なかでも「酔心」の銘柄が全国的に可成り知られていたように思う。「酔心」は酒仙とも称され横山大観画伯が、米飯代わりに好んで飲んだとのことであり、酒代がわりの数多くの名作が酔心の醸造元に所蔵されていた。秋に蔵から出して虫干しされる際、鑑賞の機会を得たが、誠に圧巻であった記憶が今も鮮明である、ともあれ、わが家にとっての三原での最大の収穫は、長男の誕生であった。のびのびとした地方勤務の三原時代を時々なつかしく思い出すが、残念ながら三原を訪れる機会がない。

名古屋のキワニスクラブを作って

内海 倫（人事院法律顧問）

東京キワニスクラブが誕生して間もない頃、多分、昭和三十九年頃だったと思うが、今は亡き小幡さんから電話が有り名古屋で、キワニスクラブの設立準備をして欲しいとのこと、突然であり、キワニスという名称も馴染みのないことばなのでその名の由来から学ばねばならなかった。大蔵省の細見卓、通産省の三上君と三人で話合って、設立の準備をはじめた。名古屋の場合、地元の名士は大部分ロータリークラブの会員なので基幹となる人を得ることが、実に難しかった。当時日本碍子（現日本ガイシ）の社長だった野淵さんを口説きおとして、設立の責任者になってもらった。その後、私たちは三人とも充足する前に名古屋を離れてしまった。その後トヨタの豊田章一郎氏なども入会し、順調に発展しているが、思い出の多いクラブである。

縁と言うべきか、実はキワニスクラブには、ずっと前に、ほんの少しのかかわりが合ったことを思い出した。

昭和32年、私は、アメリカへ長期出張し、その間のある日、ナイヤガラシテーを訪ねたときその地のクラブにゲストとして招かれ、楽しい昼食をその地の人達と共にした。そのクラブがキワニス

クラブだったのである。記憶を蘇らせると、そのとき、キワニスとは、インディアンのことばであり、ナイヤガラを滝をはさんで、アメリカとカナダのインターナショナルなクラブであるという説明のあったことを思い出した。

私も東京の会員になって、二十九年になる。（この頃は少々サボり過ぎているが）

更に、その十年近く前に、いささかの縁のあったことをこの際、ご披露しておきたい。

30年毎の青春

長富祐一郎（QUICK総合研究所理事長）

私が社会人になったのは、昭和33年。従って30より33の数字の方が好きだ。大学を出て入った大蔵省の同期会は「三三会」。電話番号も5033や5133を選ぶ。自宅のFAXは、5707-5133。ところで今日は「私の30」。

昭和30年は、日本が戦後復興からそろそろ高度経済成長に移行しようか、という時代だった。30を二つに分けての15年周期説がある。1916年から1930年まで大正文化の花開いた文化の時代。次いで1945年（昭和20年）までが戦争の混乱の時代。1960年までが吉田内閣に代表される政治の時代。1975年までが池田内閣に代表される経済の時代。1990年までが大平首相が指摘した文化の時代。

1991年から混乱の時代に入った。ベルリンの壁・ソ連邦の崩壊、湾岸戦争、バブル経済の崩壊と大不況。先の政治の時代に構築された55年体制の崩壊。2006年からの政治の時代に入る。日本は明治維新以降、政治の時代に新憲法を制定したが、今度はどのような政治体制を造るのか。

さて今年、私は30の二倍の60歳になる。青春は30年毎に回ってくる。第三の青春時代を迎えると思うと、新春から心も弾み体も張り切ってくる。混乱の時代に、不況を早く克服し、新しい発展に向かって、皆さん、大いに頑張ろう。

「結婚30年で始めたスキー」

依田智治（野村証券㈱顧問）

私は30才で婚約し、翌年結婚したが、昨年満30年を迎えた。その記念に、妻と共に楽しめるスポーツとして、遅まきながら、スキーをはじめた。

30年前の新婚の頃ならいざ知らず、この年になってと若干躊躇したが、親しい先輩の勧めもあり、思い切って決断した。早速、紹介された神田の店で、用具一式を見繕ってもらい、ガーラ湯沢に出掛けた。そこのスクールで、初心というコースにのり、靴の履き方から特訓を受けたのを皮切りに、これまでに7か所に行き、何とかプレークボーゲンはこなせるようになった。先日、再びガーラを訪れ、昨年は止まれず林に飛び込んでしまったスロープを、今年はストックで加速して滑れたのには感激した。冬嫌いも解消した。樹氷も素晴らし。是非、続けたいと思う。

それにつけても重要なのは、健康と体力だ。

30代から太り出し、学生の頃より一時は30キロ近く増えた体重の減量のため、30年来続けているジョギングも適度に続けたいと思う。

また、若い頃入ったゴルフクラブで最初に貰ったハンディは依然30のままなので、そろそろ抜本的に改訂しなければと思っている。

30歳に開けた運勢

本間 崇(本間法律特許事務所長)

私が、形ばかり一人前になったのは、30歳になった年のことでした。昭和10年2月生まれですから、満30歳を迎えた昭和40年が私にとって、何とか一人前になった年であったという意味で、最も忘れ難い年でした。私は、この年、弁護士の登録をし、社会的にはプロとして初めての第一歩を踏み出したのです。スタート時には、つてを頼って特許法の大家の先生の許に弟子入りを志願し5年後に恩師が亡くなる迄、牛込弁天町にあった恩師の自宅兼事務所で“雑巾がけ”をしました。そこには、国の内外を問わず、当時の高度成長に支えられた大企業が、未だハシリであった特許紛争を、群るようにして持ち込んでいたのです。

その時から今日迄、知的所有権(当時は未だこの言葉はありませんでしたが)の分野一筋の道を歩んで来ました。私はまた、その年の秋に30歳で結婚しました。幸いにして(?)その時の結婚相手が、1男2女を儲けた今の家内です。このようにして社会的一人立ちが1年遅くとも2年早くても

2つのめぐり合いはなかったでしょう。最近、ある占いのプロの女性がいきました。「貴方の運勢は30歳になって開けました」とさ。

南アに見た大きな世界の変化

市田 洋(清水建設(株)常任顧問)

1973年の春、世界最大の鉱業会社アングロアメリカの招待により、南アに行きました。鉱山開発のパートナーにならないかということでした。当時この会社は世界の産出量で、ダイヤモンドは85%金は55%銅は40%という数字を誇っていました。日本では、超高層ビルは霞が関ビルだけでしたのに、ヨハネスブルグには既に4本の超高層ビルがあり、街は美しく治安はよく、この世の天国のように見えました。まして我々は招待客というのでホテルには日の丸が掲っていて気分爽快でした。しかし1週間経って判ったことは、これはすべてアパートメントで成立しているということでありました。ヨハネスブルグの黒人労働者は夕暮のベルで99%がバスで強制輸送で帰るのでした。後に残る黒人は特別許可の保安要員とボーイ等の必要従業員でした。南アの鉱山では黒人の賃金は白人の1%でしたが、日本人だけが白人待遇といわれ「白人の1%の賃金の黒人も黒人国の局長級の給料だ」と説明されると、なんだか判ったような気になりました。この数年の南アの話を書くにつけ感無量であり、世界の大きな変化を身にひしひしと感じるのであります。

共に歩んで30年

坂部三次郎(ダイニツク(株)会長)

昭和三十九年七月入会の私は、キワニスクラブの三十年をほとんど共に歩んできたことになる。例会では、何よりも異分野の諸賢による講話を楽しむにしてきた。とくに官界ご出身の会員諸氏との出会いは貴重。民間企業人ゆえに、新しい世界に触れる思いがするのである。

私も数回、卓話を担当させていただいた。演題は〈ハレー彗星の話〉にはじまり〈天体の美しさ〉〈地球環境〉など、いずれも天文にまつわるテーマであった。それは私自身が、天文愛好家を自認し、小社の滋賀工場の中に天文台を造ったからだろう。

工場の中にある天文台「アストロパーク天究館」は社会貢献の一環として創設。二十一世紀を担う青少年のための施設として位置づけている。

昨年八月、長野県高遠で開催された「環太平洋学生キャンプ」でも〈星の美しさ〉について講演させていただいた。学生諸君は興味深げに聴いてくれ、「面白かった」と感想をよせてくれた。星の誕生の神秘を語るたびに〈かけがえのない地球環境〉を破壊してはならないと痛感する。

キワニスの活動のなかで、私のライフワークである〈天文・地球環境〉問題を語る機会をあたえられ、深く感謝している。

ヨコ社会の代表

山下静一（㈱経済同友会終身幹事）

戦後日本に明るい光をもたらした、東京オリンピックの年の初めに、東京キワニスクラブが産ぶ声をあげたので、本年は30周年になる。在来のクラブとは趣きを異にするのをうたいあげ、それに賛同する55才以下の経営者、公務員、文化人など96名がチャーターメンバーに名を列ねて参加したのであった。それから30年を経た今日、いちじるしく若返ったなかに、なお元気な在籍者が私をも含めて24名を数える。この数字自体、クラブの発展史の一面を示すもので、絶えず新しいエネルギーとして新会員が入り、しかも創立当時の精神が固く守られているのは喜ばしい。

本来クラブというものは、個人が組織単位であり、従ってクラブのなかでは職業とか、地位とかいうものがものを言っただけならず純粹の人間関係を深めるところであるべきなのである。とくに日本のようなタテ社会といわれる社会では、むしろヨコ社会として、クラブを大切にすることがあると、私は日ごろ考えている。言うなれば人間関係の増進、他社会との交流、友情の源泉として、わがクラブを高く評価するのである。

ヨーロッパと宇宙と

中山迪夫（宇宙通信㈱顧問）

私の30才代は 海外体験一外国との出会いの10年であった。1959年秋、日本輸出入銀行の融資に関する当時としては大型の海外直接投資計画の帰趨を見極めるべくメキシコに飛んだ。ジェット旅客

機が初めて太平洋を横断し始めた頃である。約1ヶ月かけてその計画の挫折の経緯を具に調べ海外での企業経営の難しさを勉強した。数年後、輸銀の古澤総裁に随行して、ワシントン（世銀総会）・南米諸国歴訪・ブラジルでの借款交渉に参加と一挙にラテンアメリカと親しくなった。

東京オリンピックが終り、我国がOECDに加盟し先進国の仲間入りをした翌年、森永総裁に欧州事務所の開設を命じられ3年余りパリに駐在した。街の市場では未だ旧フラン単位で値段が呼び立てられて居た。1968年にはブレトンウッズ体制崩壊の予兆が見え始めた。欧州の国々を訪れて多くの知己を得ると同時に、日々の生活の中に在る歴史や文化に接した。「ヨーロッパ」が心の中に深く沁み込んで来た。この10年の経験は、その後人生に少なからぬ影響を及ぼした。

あれから30年を経て今度は「宇宙」に関する仕事に携わり乍ら、私は還暦の年を迎えた。

「国際化と私のPKO」

高橋 清（昭和シエル石油㈱取締役相談役）

私の30年を振り返ると、仕事の関係で外国とのかわり合いが多かった。そこで、私の経験から国際的な対応について「私のPKO」として、Personality（人柄）Knowledge（知識）Originality（独創性）の三つの重要性を指摘したい。

異文化間の人間関係で特に必要な人柄は、相手の立場をより良く理解しようとする寛容の精神とパワー・ポリティックスに耐えうる強靱な精神の持主だ。次に、相互理解の増進のためには、自国のみならず相手国の事情、特に歴史や文化などに深い知識を持つことが有益である。さらに彼我の双方を同じ年代比較ができるボーダーレスの歴史感覚を身につけることが出来れば申し分無い。30年前の日本の国際対応は、一方通行で、欧米諸国からの吸収に主眼があった。日本の国際的地位が変わるのに伴い、例えば私レベルの話でも会議に出れば、建設的で、オリジナルな見解を求められるようになってきた。いわゆる、日本的なものは共通に理解できる普遍的な面をとり上げなければ、国際的にはオリジナルなものとして評価されないものが多い。今後も私は「私のPKO」をふまえて、

さらなる努力を続けたいと考えている。

「よい社会をつくる」エネルギーに

寄木正敏（月島機械㈱会長）

キワニスクラブと私の接点は、昭和48年三和銀行名古屋支店長になった時から始まる。たしか10周年を迎えて勢いがついていた名古屋クラブのメンバーであった、豊田章一郎さんから勧められた当時トヨタ自動車工業㈱の副社長をしておられ、大事な取引先でもあり、公私親しくして頂いたこともあって早速入会員にして頂いた。そのときの「ロータリーやライオンズと異なりクラブは大変少ないが、気の合った人達で明るくよい社会をつくりあげたい」とのお言葉が耳に残っている。

それから本店に戻ったが、石油ショックの後始末、月島機械㈱の再建等でメンバーを辞退することになった。その後徳永さんや亡くなられた鹿内さんの助言で、東京クラブの末席に加えて、頂いた。丁度私にとっては中抜きであるが二十周年ということになる。実際のスポンサーは、増沢であるが、あとの二人青山さんと、藤田さんはすでに故人となられた。まことに残念でしみじみ思い出される。ついてはクラブも30年になる青年期である。新しい若くて立派な会員をどんどん増やして「よい社会をつくる」エネルギーとなって今後へ発展することを心から祈ってやまない。

アメリカの広さと多様性に魅せられて

川畑正大（㈱富士通システム総研取締役）

30年前を振り返ってみると、奇しくも私のある意味での人生の転換期となった、東京オリンピックの年ということになる。当時は、東大大学院の学生であったが、開会式の日快晴の空に、鮮やかに書き出された五輪のマークを、本郷の研究室の屋上で眺め、何かしらワクワクする気持を抑えきれない若者であったなと今でもなつかしく思い出す。このオリンピックを契機として、子供の頃から夢見ていた世界を相手に何かやりたいという漠然とした思いが、急に具体性を帯びたのであった。東京大学より無事博士号を授与された後、縁あって、米国IBM開発研究所に就職した。当時IBMは、世界100ヶ国に現地法人を持つ超優良企業で、全世界で約30万人の従業員をようして居た。採用は通

常現地採用であったが約30人位のアメリカ人以外の外人が、米国本社で採用されるという事で運よくニューヨーク本社採用となった。IBM時代は機会ある毎に米国内を出張させてもらった。3年間で約30州（正しくは37州）以上訪れることができた。アメリカの広さと多様性に驚き、感激したことを昨日の様に思いだす。30年前にこの東京キワニスクラブを発足させ、育て発展させて来られた諸先輩のビジョンと行動力に深い敬意を表すると共に今ここに、微力ながらその一員としてクラブの未来を担って行く機会に恵まれたことに感謝しつつ、また私の人生をだぶらせつつ、次の30年を考えて行きたいと願うものである。

時代に先行していくグループを目指して

和田 洋（富士ゼロックス㈱顧問）

学生時代の英語の時間にジェネレーションとは「〇〇世代と訳されるが、これは「子が親に代わってから、またその子供に代わられるまでの個人が活動する約30年間」である」と教えられた。その時以来、私の脳裏には、一つの人生の区切りとしてこの30年という数字がことあるごとに浮かんでくる。第二の会社の創立の準備段階から数えて30年、思えば小さな、小さな苗木もあらゆる恵みとチャンスを与えられて大木になり、後輩に席を譲ることが出来た。有り難いことと思っている。

こうして培われた文化は親から子へ受け渡すことによって実を結ぶ。東京キワニスクラブも1月24日に設立30周年を迎えた。ジェネレーションチェンジの機が熟したといえよう。日本国も55年体制が大変動している今、若いメンバーの方々が育ててこられたキワニアンの精神を更に大きく発展させる為に10年先、20年先のクラブがどうあるべきか討議していただきたい。これによって時代に乗り遅れず、むしろ、時代に先行していくグループとなろうではありませんか。

日本の高速道路に日米経済の趨勢をみる

吉岡孝行（苫小牧東部開発㈱社長）

自分の30才のときのことを思い出してみた。

私は大正14年生まれであるので、満年齢は、昭和の各年に合わせて数を重ねてきた。30才になったのはまさに昭和30年である。当時大蔵省から出

向して、ワシントン大使館に在勤中であった。

いま当時と今日の日米の経済力の変化を考え、有為転変、今昔の感を深くしている。

昭和30年当時の日本の1人当り国民所得は、米国のおよそ10分の1程度であった。私の大使館での仕事も、世界銀行やワシントン輸出入銀行からの借款にかかわることが多かった。日本の最初の高速道路は名神高速道路であるが、その計画にも世銀融資を申し込み、その基礎調査のため調査団を招へいすることとなり、私も関係した。ワトキンス調査団といわれるものである。当時の日本の道路事情を調査して、「日本には道路予定地はあるが、道路というものはない」と痛烈に批判したのは有名である。このようにして始った、日本の高速道路も、今日では総延長およそ6000kmに達しさらに建設が着々と進んでいる。そして日本はいまや世界一の債権国の発展し、米国は世界一の債務国に変わっている。

良識集団として

平山 健

東京キワニスクラブ誕生30年。この間、諸先輩が創り上げた雰囲気あるいは伝統ともいべきものは、貴重な財産と思います。

キワニスは、アメリカ・インディアン語で、その意味は、gather togetherと聞いています。彼等集団の掟ともいべきものも、この集会で段々と練り上げられて出来上がったものでしょう。人種の垣塙、アメリカは、異なる人種、宗教が、寄り集まって合衆国を創り上げましたが、その実生活体験から試行錯誤を重ねて、自然発生的に行動規範が整って行くという伝統を作り上げました、当クラブの会員は、人生経験、社会経験はそれぞれですが、基本的には、高レベルの良識集団です。この30年間、仮りに社会通念に反するようなことでもあれば、当然のように良識がこれを修正自浄して発展を遂げて参りました。

最近、当クラブの活性化が議論されていますが多かれ少なかれ、政治経済動向、企業マインドなどを反映して、波があるものかなとも思います。然し乍ら、良識集団として、絶えず質的向上に努めてゆけば、益々魅力あるクラブとなること確信

しているものであります。

我が30才の回想

井山 八郎 (シーアイ化成㈱相談役)

はや40数年の歳月がたったが、我が30才は今尚鮮明な記憶の残る年である。学徒出陣し昭和21年3月帰国し、故郷の地にて、心のゆとりを取戻したのは、ふるさとの自然と肉親友人達であった。同年大学を出て当時の大建産業(伊藤忠 丸紅、呉羽紡合併会社)に就職し東京勤務となった。戦後のみじめな有様を体験し祖国再建への情熱を貿易再開の仕事に打ち込む。24年分離した伊藤忠大阪へ転じ、生ゴム取引を担当した。我が国に大きな影響を与えた朝鮮動乱のさなか、26年30才を迎えた。年半ば動乱終結し商品相場暴落し経済は大混乱となる。生ゴム相場暴落に直面し、その後始末に追われたが、なんとか処理を終えた。国の経済、貿易商社も大きな転機となる。商社マンとしてこの時あらゆる体験から<窮すれば即ち変じ変ずれば即ち通ず>との人生のモットーを持つに到った。秋には結婚し新しい人生へスタートすることにもなった<30にしてたつ>の言葉があるが、思えば我が30才は、学徒出陣と共に人生に於て忘れ得ぬ思ひ出おおい年であった。

わが30歳の一齣

堺 司 (㈱対日投資サポートサービス社長)

ノックと共に“good morning Sir”とインド人のスチュワードが、ティとビスケットを盆に捧げて入ってきた。午後6時半、黄色の煙突に純白の船体のイギリスのP&Oの大型客船ヒマラヤ号のキャビンである。この世界一周の客船は、10人のブリティッシュ・カウンシル留学生を乗せて、1961年7月26日長駆英国に向け横浜を出帆した。神戸、香港、マニラ、シンガポール、コロンボ、ボンベイ、アデンに寄港し、英・エジプト戦争終了直後久しぶりに再開したスエズ運河を通過して、ポートサイド、マルタ、ナポリを経、ドーバー海峡の白い崖を眺めながらロンドン近郊のサザンプトンに着いたのは8月30日。35日間の地球半周の船旅だった。その間、一日8回の食事(モーニングティ、朝食、ビーフティ、昼食、アフタヌンティ、ディナー、イヴニングティ、夜食)が日夜手を変え品

を変えてサーブされた。酒類も無税、昼間は、デッキテニス、卓球、水泳、甲羅干し、夜はダンス、映画、ビンゴと連日連夜の催しで、戦後絶えて久しく西欧の生活と縁のない我々には夢のような、そして今でも別世界の出来事の、わが30歳の一齣でした。

神宮のお賽銭

内田 宏（資生堂顧問）

「ショックを受けちゃってね」と友人が切り出した。正月オランダから来ている友人を明治神宮の初詣に連れて行ったところ、雨と降るお賽銭を見て「日本では海外援助には問題はないな」とつぶやいた。その理由をたずすと、オランダでも協会のみサの終り頃帽子が廻って来て、夫々何がしかの寄付をする。これは元来貧しい人々、恵まれない人々への慈善であったが、最近では、国内福祉政策が充実してきたので、今やこれらは全て後進国の貧しい人々、恵まれない人々のために贈られている。日本もあれだけのお賽銭が捧げられているのは素晴らしいことだと言うのである。この話を聞いた私の方がショックを受けた。神宮やお寺でのお賽銭は、「一家安全、商賈繁盛」と言うことになっているが、オランダ人の言うことも短絡的ではあるが又まことに尤もなことでもある。矢張り我々日本人の心の底に「自分だけ良ければ良い」と言う気持があるのかなーと考えさせられた。それだけに我々キワニスクラブの活動は欧米のそれとは又違った大きな社会的意味があると思われる。

あるキワニアンとの出逢い

山口衛一（日本航空機開発協会副理事長）

昭和三十一年は、経済白書によれば、「もはや戦後ではない」年であったが、対外経常収支の大巾な赤字が常に重くのしかかっていた。「私の30」は、当時通産省から日本貿易振興会の総務課長に出向して、月余にわたる初めての海外出張であるキワニアンによって米国人の気質、ものの考え方を生活を通して体験させられたことである。桑港の有力な貿易商であり、又同地のキワニスクラブの会長であった彼は、その後の長い交遊から公私にわたり深い感銘を与えてくれた畏友であった。

私が出張目的は、シアトル国際見本市の日本代

表団の事務局長として、今の岡松通産審議官の父君の岡松成太郎団長の補佐役で、市当局との交渉、業務総括であった。見本市での成功は、外貨予算の少ない日本側に対して、競争相手である彼が、米側を説得して、メインの場所をすべて譲ってくれたことであった。シアトル滞在中我々全員は、彼のボランティアの仕事である「日系人収容補償」の資料収集のため、夕刻七時以降関係市民の個別訪問をして、一ヶ月間献身したことは、彼との出逢いの第一歩として貴重な体験であった。

生涯の公私に亘る大変化の年に

三輪良雄（弁護士）

私が満30になったのは昭和18年で、私の生涯の公私に亘る大変化の年だった。前年5月に蒙古の26師団から還り4年半ぶりに軍服を脱いで内務省に戻った。7月に千葉県農務課長に発令、東京育ちの私は米と麦の区別が判るかとか皆から冷やかされつつ赴任した。2年余の蒙古在勤が戦地加算で7年になるそうで18年1月に勲5等瑞宝章を賜り3月には結婚するので、地元紙に両手に花の農務課長などとはやされた。

古いが広い官舎での新婚生活の3月目再度の赤紙で丁度365日目にまた軍服を取り出した。しかしその翌朝予定通り松戸に出張して東葛郡下の町村長農会長を集めた末の増産供出の会議を主催した。昨夜招集令状が来たのに課長はきてくれたと緊張気味の皆さんに、北に向かうか南に征くかは命の俵だが心に残るのは只今年の末の増産と供出だ、我々の努力で必ず達成すると皆さんのお約束をいただいて安心して勇躍出征したいと悲壮な演説をやったのだが、数日後発令されたのが何と同じ東葛の柏に新設された部付の高級主計で松戸に家を借りて通勤することになったので、当分その村長方に逢うのが気恥ずかしかったものである。

あの頃

佐藤満秋（ヘキストジャパン(株)専務取締役）

30という数は、私の今まで歩いて来た人生の半分を意味する。丁度フルブライト留学生として米国コロンビア大学に学んでいた頃のことである。私は、日240ドルの生活費をもらい、それを70ドル寮費80ドル書籍代等の小遣い90ドル即ち1日3日

ルを朝70セント、昼1ドル、夜が1ドル30セントの食費として大学のカフェテリアでたべていた。

さすがに慣れない米国寮の食事に、一ヶ月もすると食欲がなくなり、胃が受けつけなくなったがそれを無理して押し込んでいるうちに、10日も経つと食事が待ち遠しくなる程おいしくなって来た多分私の胃の消化酵素が漬物等に適したものから肉類に適したものに変わったのであろう。

ある日、アメリカのガールフレンドが日本食を食べたいというので、行ったこともない「斉藤」という日本料理屋を電話帳で探し、でかけたら天ぷら定食で二人分30ドルもとられた。翌日から9日間も絶食を強いられたことは申すまでもない。

貴腐ワインは30年戦争の置土産 愛沢尚太郎（髷メイブルクワイン取締役）

貴腐ワインはハンガリーのトカイ地方で1651年、恰も30年戦争の遺産の様に偶然出来た。永い戦乱の後で、荒廃した葡萄畑は容易には復活出来ず、栽培に十分な手が届かない時に葡萄畑は突然灰色黴菌（ボトリテスシネレア菌）に侵された葡萄の実には白い粉をふき水分は殆ど蒸散して皺だらけ。来年のワインが無くては困ると農園では祈る気持ちで思い切って、皺々の葡萄を搾って醸造することにした。その結果は天の恵みか甘度の高いまろやかな素晴らしいワインが出来た。30年戦争、からの贈り物のこのトカイの貴腐ワインは、ヨーロッパ中の王侯貴族を歓喜させた。ロシアのピョートル大帝は1個連隊の護衛をつけてトカイから取り寄せたと伝えられ、又フランスのルイ14世はこれぞ「ワインの帝王・帝王のワイン」と絶賛した。この後、各々百年前後づつ隔ててドイツのラインガウ、フランスのボルドーで、そしてラインガウからは丁度二百年目の昭和50年には、我国山梨のサントリーワイナリーに、夫々に偶然のエピソードを秘めて貴腐ワインが誕生した。

スポーツを通じて世界の平和を祈る

藤原宣夫（藤原事務所所長）

あれは30年前、私が30歳の時、アジア初の東京オリンピック大会が開催された時の事です。

東西ドイツがその時初めて統一チームとして参加したのですが、ドイツでのフィン・クラス代表

選出レースで西側がインチキをしたと東側が怒りだし、大喧嘩になったのです。オリンピック委員会では日本で東西のフィンの代表レースをすることとし、日時の指定をオリンピック委員をしていた私は伝令として先ず東側のキャンプへ書面を届けにいきました。東側は、書面の受領を拒否し止むなく書面を置いて帰り、次に西側のキャンプに行きました。西側では、如何に東側がずるいかを聴かされて帰りました。結局西側しか指定海面に現れず、統一チームの代表は西側のフィン選手と決定され、ゴールドメダルを獲得しました。そして1989年、ベルリンの壁が崩壊し、その直後私はブランデンブルグ門を訪れ、日本でのオリンピック大会の事件を思い出し感慨無量でした。

東京でパレスチナとイスラエルの卓球選手が握手をし、フェアに競技をしたのは記憶に新しいことです。スポーツを通じ世界の平和が来ることを心から念ずる今日この頃です。

鹿内さんとの出会い

高木 昇（東京工科大学学長）

昭和20年頃の後半、鹿内さんのお宅で夫人並びに親しい友人が集まってお茶の稽古を始めた。私の家内は、お茶の先生を戦前からよく知っておったので、勿論それに参加した。そしてある時家族相集って新年会を催すことになった。それには夫人ばかりでなく我々並びに子供達がお得意な芸を披露するものであった。

例えば歌あり踊りあり隠し芸ありで、本当に賑やかな1日を過ごしたものである。この様なことが数年続いたと思うが、やがていずれも忙しくなり新年会は途絶えてしまった。

次いでキワニスクラブが1964年に発足し、私は初めから入れてもらった。メンバーの入会には私の年が最大限で当時55歳以下の人のみ入会可能となった。当初は私も熱心にキワニスクラブの例会に出席し、そして2、3の講演も行った。翌年からは私が東大の宇宙航空研究所の所長となり又科学技術庁宇宙開発推進本部長を兼ね、激職の為出席がままならなくなりました。

キワニスクラブ30周年を迎えるに当たり鹿内さんとの出会いを楽しく思い出しました。



トピックス

トラトラトラ秘話
キワニスをめぐって
第7回アジア太平洋会議

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

映画“トラ・トラ・トラ”と キワニス・クラブ

(株)日本短波放送顧問

安藤 蕃

日米合作の廿世紀フォックス映画“トラ・トラ・トラ”は昭和45年9月25日封切上映されたのだが、この映画は日本の航空艦隊が真珠湾攻撃の際使用した『我、奇襲に成功せり!』という暗号電報を表題とした日米開戦当時のストーリーである。日本側は日活の梶田利雄監督の下に、山村聰、三橋達也、田村高廣、東野英治郎、千田是也等の一級スター達が、山本五十六大将以下連合艦隊の提督を演じている。ところが、“トラ・トラ・トラ”日本側制作のもう一つのラッシュ・フィルムが米国の廿世紀フォックス本社の倉庫に眠っていることは、一般に知られていない。

もともと此の映画は、昭和41年当時、廿世紀フォックス社から国際的に声価の高い黒澤明監督に話があり、同監督は一年半を費やしてシナリオを完成し、昭和43年の12月初めから約一カ月間の撮影が行われた。黒澤監督はこれを単なる軍事映画としてではなく、開戦に至るまでの日米間の交渉や経緯や真相を描き出し、『真珠湾を忘れるな!』という米国民感情や、日本の国際信義に対する世界の誤解を少しでも解消したい考えだった。そして、主要なキャストにスターを使わず、素人の社会人を充てようと考えた。『スターという存在は、スターの特別な顔があるからで、それがこの場合役柄に邪魔になる。国の危急存亡の秋に身命を賭していた人達を再現するには、日米開戦を身

をもって体験し、現在各分野で活躍している、社会生活の年齢を経て来た社会人の高い質が必要だ。』と氏は言っていた。

ロータリーやライオンズより、キワニスの構成メンバーがその構想に適合しているとして、東京クラブに協力出演の依頼があり、黒沢氏の面接の結果十数名が協力出演することになった。宇垣参謀長に三輪良雄(前防衛次官)、山口少将に北野次登(北野建設社長)、藤井政務参謀に数佐三郎(東陽印刷社長)、黒島参謀に牧田喜義(フジテレビギャラリー社長)、清水中將に岩田幸彰(東急国際ホテル常務)、伊藤軍令部次長に南出他十郎(八千代製作所社長)等の海軍武官の外、野村駐米大使に小幡康吉(長野放送専務)、来栖全権大使に片桐良雄(伊藤忠商事常務)、喜多総領事に永井邦夫(東洋エチル常務)、木戸内府に木戸孝彦(国際弁護士)、等の文官役が決定した。東郷外相は平沢和重会員が交通事故に遭ったため春日由三会員(日本音楽著作権協会理事長)に変更決定。私も第十一航空艦隊参謀長の大西滝治郎少将の役が振られた。()内は当時の役職。

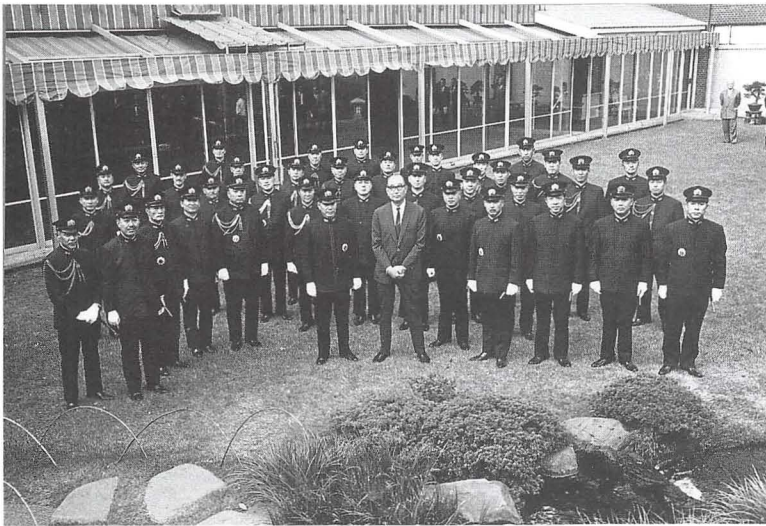
その年12月3日からの京都東映撮影所における廿日間は、私達所謂社会人にとって全く初めての経験であった。期間の大半は黒澤監督独特のムード作りに費やされた。

この様な繰り返しの廿日間であったが、撮影を視察に来た廿世紀フォックスのザナック社長は、野村来栖両大使が本国からの宣戦布告の訓令を手にする場面の撮影に立ち合い、最大限の讃辞を呈し



て帰っていった。来栖大使に扮していた片桐良雄会員の台本に、ザナックは次の言葉を書き残した。“エクセレント・スター片桐良雄君へ ザナック”。

12月24日最終の撮影スケジュールで残っていた高千穂交易の鍵谷社長（山本五十六大将）と私（大西参謀長）の所へ黒沢プロ側の青柳プロデューサーとフォックス側のプロデューサーのエルモ・ウィリアムスとがやって来て、黒澤氏が病気なので監督を替えて撮影を続行するが、引き続き出演協力して欲しい旨申し入れてきた。突然の事であり、不可解な事であったが、私達は黒澤氏が彼が心血



を注いだ脚本で彼の理想を実現するのでなければ協力する意思がない事を言明して引き揚げた。事の真相は複雑怪奇だったが、黒澤氏の質の高い人間性を著しく傷つけるものであった。

此の廿日間に撮られたラッシュ・フィルムは全部持ち去られて、フォックス本社の倉庫に門外不出として格納され、黒沢プロからの再三要求に対して絶対にこれを見せようとしな。唯、これを覗き見たいという米国の雑誌記者の言や、翌年6月、黒澤氏の誕生日を兼ねて『黒澤明よ映画を作れの会』が催したパーティの席上で、山本嘉次郎、三船敏郎、仲代達也等々の映画人を前にしての黒澤監督の次のスピーチから考えられることは、それを何割引きかすとしても、私達は黒澤氏の当初の構想を裏切っていないのだということ、黒澤

氏の今後の映画制作に役立つ何等かの資料を提供し得たのではないかということである。

『社会生活の年齢を経てきた人達の演技が、プロの俳優生活で年数を経てきた人達の演技をはるかに上回る質の高いものであった事は、かんがえなければいけないことです。“トラ・トラ・トラ”の僕の撮影したフィルムは、その意味で、みんなに是非見て貰いたいものでした。今までの僕の監督生活の中でも、びっくりする程のいいものでした。

こんなことがありました。ある社会人出演者に台本を渡したら、それを読んで彼は、“このセリフ

は私にはどうしても言えません。”と言った。そこで改めて僕が調べたら、前のセリフからそのセリフに繋がる間の部分に、実は作品が長くなり過ぎるというのでカットしたセリフがあったのです。その人は必然性として“私にはこのセリフがここでは出て来ない”ということを言ったわけです。これだけの事を、ちゃんとと言える俳優さんがいるかどうか。社会人としての経験と修練が、俳優の俳優生活の中での経験と修練を上回ったわけです。このことを、プロの俳優さん達、プロの映画人達はよく考えて欲しい。』



“Kiwanis” をめぐって

共同通信社外国通信担当役員
寺西 五郎

キワニスクラブの〈キワニス〉はアメリカ・インディアン言葉から出たという。その意味は日本語では〈自己顕示〉というようなことだそうである。

実はその辺までは、そう伝えられていることでもあるし、まだおそらくそのようなことであろうと思う。しかし、そこから先になると、事は意外にめんどろであって、そう簡単に話は進まないのである。

1914年12月、キワニスクラブの創設者Mr. Allen S. Browneが、デトロイト市の史料編集委員Mr. C. M. Burtonから提供してもらったいくつかのインディアン語の中からKiwanisという言葉を採用してクラブの新名称にしてから、すでに55年の歳月を経ている。爾来キワニス固有名詞として確立されていったことは無論のこと、もはやその起源などは雲煙のかなたに沈もうとしている。現代の権威である一辞書が“Kiwanis”のアメリカ語における地位をa made word (合成語) と規定し、インディアン語との連関を一応無視する扱いをしているのは暗示的である。

それというのも、キワニスの起源といわれるアメリカ・インディアン語は、ひと筋ナワではいかぬ言語であって、俗用はともかく、Kiwanisを言語学的に追跡する仕事はけっして容易ではない。インディアン語の中では比較的よく研究されている

北米インディアン語でも、120に近い諸語の系統別大分類でさえ現在なお明確ではないからである。

シカゴのキワニス・インターナショナル本部のフェイ・マクドナルドさんによれば、Kiwanisはオッチポウ (Otchipow) 族インディアンの言語から出たそうである。インディアンには文字がないので、その言葉は耳から聞いた発音を、アルファベットの当て字で綴るほかはない。したがって人によって書き方が色々違ってくことは避けられない。そこでこのオッチポウというのもよくわからないのだが、インディアン語の言語分類においてはオジブワ (Ojibwa) そのまたの名をチペワ (Chippewa) と呼ぶ言語と同じではないかと思う。

もしそうとすれば、この言語はSapirの言語分類によるアルゴンキン・リトワン語族のアルゴンキン語派に属する言語ということになる。この語派は北米五大湖を中心に、カナダ中東部から合衆国北カロライナまでの大西洋岸と内陸部に広く分布しており、デトロイト市の地方史編集者が、土着のインディアン語としてこの言語を選び出す可能性はきわめて強いといわねばなるまい。

史学者バートンさんがクラブの名称として提案したKiwanisの原型は……。

Nun Kee-wan-isであって、耳で聞いた語句をアルファベットに直したものにちがいない。インディアン語は日本語と同じような膠着語で各品詞の相互連結がいちじるしい。だからアルファベットでもこんなやっかいな形になる。さて オッチポウ (またはオジブワ・チペワ) 語ではその意味が、きわめて概略ではあるが……

みんないっしょに集まる。We gather together. みんなで大きな音を立てる。We make a big noise. ということであった。バートンさんがクラブの名称として提案したのは、元来このようなく集まる〉とか〈交歓する〉とかのニュアンスを持ったインディアン語であった。

このNun Kee-wan-isという原型から、Nunを落としKiwanisを取り出したわけであるが、それが〈自己顕示〉すなわちmake oneself knownとかself-expressionと英語でいわれるような意味になるとい

うことは、かならずしも明確ではない。

第一の疑問は、〈自己顕示〉といった抽象概念をインディアンが語として表現していたとするには、やや無理があろうということである。私は最初〈自己顕示〉という単一の語法があったのではなくむしろ対話的な日常語から帰納された概念かと考えた。つまり〈それは私です〉とか〈私はここにいますよ〉といった呼びかけの語法があって、それが自己顕示の概念につながるのではないかと思ったのである。アリゾナ州フェニックスのシドニー・ローゼン会員は、まれにみるpolyglotで、州の検事次長を勤め世界旅行の途中東京キワニスクラブに立ち寄った。われわれはヴァージニア州内の一地名の起源についてかなりの時間話し合ったのだが、そのさいついでにキワニスにおける〈自己顕示〉という意味の言い伝えは、どこから出たのか追求してみる価値がありそうだということで意見一致し、彼は本国での研究を約束した。しかし帰国後は公務多端とみえて、まだ結論は語学的追跡は相当困難であろうと思う。

シカゴ本部のマクドナルドさんも……一説によれば、キワニスとは自己顕示、という意味だそうです。と手紙の中で書いているにすぎないし、また、キワニス・インターナショナルのクラブ教育宣伝資料〈初期のキワニス〉には、キワニスに〈自己顕示〉の意味があるとはどこにも書いていない。同資料によると、現代のアメリカ会員の大部分は、キワニスとはクラブのモットーである“*We build*”の意味だと思っているそうである。

もし言語学的に“*Nun Kee-wan-is*”が〈自己顕示〉につながる筋道があるとすれば、私が最初想像した対話的語法でないかぎり、それはあるいは集まったり音を立てたりする宗教儀式ないし神話に由来するかもしれない。ただし、ここでかならずしも日本の〈天の岩戸〉神話などを思い出す必要はないが、ややそれに通じる所があろうか、という推定である。

考えてみれば、権威ある一辞書がキワニスを〈合成語〉とし、インディアン語起源説を無視しているの是一見識であろう。キワニスは過去半世紀に

わたって確立された言葉であって、クラブ自体がここまで発展してしまえば、そのクラブ名称が*self-expression*または*We build*を意味するとして押し通しても、もはやいっこうにさしつかえないからである。さらに*Kiwanis* や*Kiwanian*の発音も、日本人には*コワニス*または*コワニアン*と聞きとれるアメリカ語の音韻体系に完全にはいっており、*Kiwanis*の最初のIは、*rapid*におけるIと同じように、正式には日本語の〈イ〉だが、圧倒的に優勢なその慣用では〈オ〉とか〈ア〉では表せないけれども、それに近いきわめて弱小な付属音で発音される。これもキワニスが〈合成語〉ながら、それなりにアメリカ語にとけこんでしまった一証左といえる。それにしても〈自己顕示〉という漢語のひびきは少々固すぎるように思われる。クラブの創設者ブラウンさんが、インディアン語の中からキワニスを選んだときの心境は、ハイキングの〈歩こう会〉といったふうのくだけた言い方ではないにしても、なんとか親しみのある平易な名称を、と心がけて選んだのではないかと思う。

これはけっして当て推量ではなく、1914年8月、クラブが最初に出発したときの正式名称は*The Supreme Lodge Benevolent Order Brothers*といういかめしいものであった。これはまず〈済生運動同志会中央連盟本部〉とでもいいたいくなるようなひびきを持つ名称である。そこで当然のことながら、会員がふえるに従ってこの固い名称に非難が集まり、ブラウンさんはそのために改名を決意したのが真相である。

だから、キワニスクラブはもし日本語に訳して〈自己顕示倶楽部〉というようなことであれば、それはやはり固すぎるというほかはない。もっとも、この辺は日本語の特徴でもあれば漢字の魔術でもあって、すわりのよい、もっともらしい名称となるとどうしてもこういうことになりがちである。ただしわれわれのクラブにおいては、タンヤオやチートイツが〈中国文化研究会〉であるから、ここでも無論やばなことをいうには当たらないのである。

(1969年8月キワニスジャパン7号に掲載)

第7回アジア太平洋会議

東京大会



1979年の第5回アジア太平洋会議台中大会の決議で、ホスト地区ならびにホストクラブに決定以来、水島ガバナーを中心に、安藤東京会長はじめ荒井国際委員長などによって入念な準備が進められた。殊に任期中に逝去した吉見局長に代って、この大会のために特に選任された上田克郎事務局長の苦勞は大変なものであった。ホスト役は、台所方も務めなければならないので、連日、刻々変わる登録者数による予算と実状の板ばさみに、頭が痛い。

大会は1981年4月5日(日)から8日(水)、新宿・京王プラザホテルで開催された。

海外33クラブから118名、国内231名の参加者を数え、キワニスインターナショナル・エンスタッド会長夫妻、デトロフ次長なども参加、アジア太平洋地域会員の親交を深めた。



4月5日6時、開会式に先立って開かれた水島地区ガバナーならびに安藤東京会長主催の役員晩餐会には、各地区役員が招かれ、前夜祭にふさわしい雰囲気盛り上げた。

4月6日(月)10時・開会式。安藤会長の挨拶のあと、鹿内終身名誉ガバナー、水島ガバナーの英語のスピーチならびに各国代表の挨拶を兼ねた地区レポートがあった。キワニスインターナショナル・エンスタッド会長は、所用で到着が遅れたためデトロフ次長がメッセージを代読した。元キワニス会長鈴木東京都知事も、出席され、挨拶された。会期中の通訳は、荒井国際委員長が主として務めた。

4月7日(火)10時・1980-81の重点施策“TAKE TIME TO CARE”を中心に活動状況等が進められ、日本から提案の“アジア太平洋地区青少年問題について”の各国発表と討論に移った。日本からは、相羽会員(名古屋クラブ)が代表で、通訳は高木国際委員が担当した。1982-83の開催地をフィリピン・セブ市に決定し、全会議を終了、正午よりお別れパーティが、山下国際委員の司会で始まり、水島ガバナーより各国の代表者に、大会参加記念の楯を贈呈、全参加者には、安藤東京クラブ会長より認証状が手渡された。

日本地区中山次期ガバナーの挨拶の後、次期開催地マレーシアのラム代表より挨拶があった。



KIWANIS CLUB OF
Ladies
FRIDAY 1



キワニスよみ

設立30年のあゆみ

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

JAPANESE
KIWANIS CLUB

キワニスごよみ

年表

1964

(昭和39年)

- 1.24 東京キワニスクラブ発会式
東京ヒルトンホテル例会場とする
- 3.6 東京キワニスクラブチャーターパーティ
東京ヒルトンホテル海外ゲスト歓迎会ツアー他

1965

(昭和40年)

- 1.24 名古屋キワニスクラブ発起人会
- 3.26 第1回春季レディスデー①
キワニス文化賞制定
- 第1回11月授賞1966年(昭和41年)
- 11.12 第2回秋季レディスデー

1966

(昭和41年)

- 1.24 名古屋キワニスクラブ設立総会
- 1. キワニス社会公益賞制定
- 3.24 第1回キワニス社会公益賞表彰式
第3回春季レディスデー
- 4.1 特別企画「明治100年記念講演」スタート
- 6.20 会報KIWANIS TOKYO創刊号発刊
- 7.1~5 第51回国際年次総会ポートランド大会
原会長夫妻出席
- 7.26 大阪キワニスクラブ設立世話人会
- 8.26 ブーゲンビル島など戦跡石引渡式挙行始まる
- 8.30 グレンリード国際会長夫妻来日
- 9.1 名古屋キワニスクラチャーターナイト
- 9.30 宮古島災害救援金の募金開始
- 11.10 第4回秋季レディスデー
- 12.12 明治100年記念施設「清い水と母」起工



①

1967

(昭和42年)

- 2.13 大阪キワニスクラブ第1回発起人会
- 2.27 東京キワニスクラブ「社団法人」認可
- 3.23 第2回キワニス社会公益賞表彰式
第5回春季レディスデー
- 4.6 フランクマッケープ国際事務局次長来日
- 4.7 報道写真家テド・スピーゲル氏
鹿内相談役並びに当クラブ取材のため来日
- 4.18 明治100年記念施設「慰霊の泉」奉告祭除幕
献納式 直会 披露会
- 6.27 大阪キワニスクラブ設立総会
- 6.22~25 第52回国際年次総会ヒューストン大会北裏会長夫妻出席②
- 9.23 カリフォルニア・ネバダ・ハワイ地区代表(27名)来日
- 9.26 同代表歓迎懇親パーティ東京ヒルトンホテル



②

1968

(昭和43年)



③



④



⑤

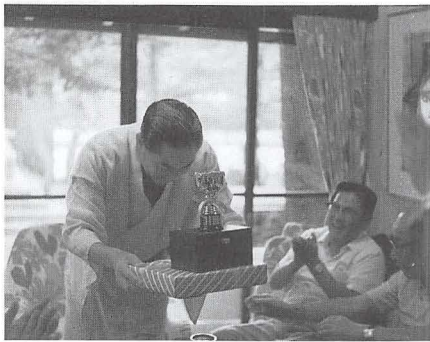
- 11.2 岡部・数佐・鈴木3会員、靖国神社「慰霊の泉」の長期清掃奉仕に対し同神社宮司より感謝状受く
- 11.8 第6回秋季レディスデー
- 11.16 ジェームズ・モラー国際会長夫妻来日
- 11.18 大阪キワニスクラブチャーターナイト
- 1.19 三輪良雄氏出版祝賀会 月光荘
- 2.20 ジャック・デルフパシフィックノースウエスト地区前ガバナー来日
- 2.29 スウエイン元国際会長夫妻来日
- 3.1 スウエイン夫妻歓迎会 帝国ホテル
- 3.14 ジャック・デルフ氏歓迎会 遊ふぎ利
- 3.15 篠島会長バージニア州プリストル市の名誉市民と市の鍵を贈らる
- 3.15 中国文化研究会 紀尾井寮③
- 3.27 第7回春季レディスデー
- 4.5 第1回家族ボーリング大会 後楽園センター④
- 4.12 第3回キワニス社会公益賞表彰式
- 4.18 靖国神社「慰霊の泉」献納2周年記念日 会員有志昇殿参拝
- 5.12 第1回ゴルフ大会 武蔵カントリー笹井コース
- 5.24 第1回囲碁大会
- 6.30-7.3 第53回国際年次総会トロント大会篠島会長夫妻出席
- 7.4 長老会議 パレスホテル富士の間
- 7.14 東京湾釣大会 サンケイ号にて
- 7.20 同好会員によるゴルフ会 軽井沢GC
- 9.20 第6回中国文化研究会 柳光亭
- 10.13 第2回ゴルフ会 300C
- 11.7 第8回秋季レディスデー
- 11.13 ハロルドハインバウ国際会長夫妻来日
- 11.15 第8回国際文化研究会 柳光亭
- 11.18 3クラブ合同大会
第4回キワニス文化賞表彰式
- 12.6 第9回中国文化研究会 柳光亭
- 12. 映画「トラ・トラ・トラ」撮影開始
- 1.1 第1回中国文化研究会 芳川
- 2.14 第3回日本文化研究会 はん居
- 3.6 フレッドインブレナー国際カウンセラー来日
- 3.13 ジャックデルフ国際理事歓迎夕食会 遊ふき利
- 3.14 第3回中国文化研究会
- 3.25 第9回春季レディスデー

1969

(昭和44年)



⑥



⑦



⑧

1971

(昭和46年)

- 4.18 靖国神社「慰霊の泉」献納3周年記念日
会員有志昇殿参拝
- 6.29~7.2 第54回国際年次総会マイアミ大会
上村会長夫妻出席
- 7.20 同好会員によるゴルフ会 軽井沢GC
- 10.24 ロバートウェーバー国際会長夫妻歓迎夕食会
フジテレビロートレックの間
- 11.18 3クラブ合同大会第5回キワニス文化賞表彰式
- 11.27 第10回秋季レディスデー
- 12.19 第2回中国文化研究会 芳川
- 1.23 第3回中国文化研究会 柳光亭
- 2.13 第1回日本文化研究会 芳川
- 2.16 ジャックデルフ国際理事歓迎夕食会
- 4.9 第11回春季レディスデー
- 4.14 靖国神社「慰霊の泉」献納4周年記念
会員有志昇殿参拝
- 5.22 第4回中国文化研究会 飛島ビル
- 6.4 広島キワニスクラブ設立総会
- 6.21~24 第55回国際年次総会デトロイト大会
田坂会長夫妻出席
- 6.26 第5回キワニス社会公益賞表彰式
- 7.19 第8回ゴルフ大会 新軽井沢GC⑦
- 7.28 神戸キワニスクラブ設立発起人会
- 8.7 テッドジョンソン国際会長夫妻来日
- 9.14 ヨーロッパケネス、P.グリーンナウエイ
国際アドミニストレーター来日
- 9.18 第6回中国文化研究会
- 10.7 全日本合同事務局会議
- 10.15 神戸キワニスクラブ設立総会
神戸オリエンタルホテル
- 11.4 第12回秋季レディスデー⑧
- 12.10 全日本合同事務局長会議 糖業会館
- 12.10 第3回全日本合同会議
第6回キワニス文化賞表彰式
- 2.3 新年会⑨
- 3.17 全日本合同事務局長会議
神戸オリエンタルホテル
第3回日本キワニス委員会
神戸キワニスクラブ「チャーターナイト」
神戸オリエンタルホテル



⑨



⑩



⑪



⑫

- 3.23 第13回春季レディスデー
- 6.2 第2回ゴルフ大会
- 6.13 真鶴釣大会 中山邸懇親会
- 6.23 仙台キワニスクラブ設立総会
グランドホテル仙台
- 6.27-30 第56回国際年次総会サンフランシスコ大会
水島会長夫妻出席
- 7.18 第3回ゴルフ大会 軽井沢GC
- 7.22 全日本合同事務局長会議 糖業会館
- 9.21 仙台キワニスクラブチャーター授与式
- 10.27 第6回キワニス社会公益賞表彰式
- 11.12 第14回秋季レディスデー
- 11.19 全日本合同大会
第7回キワニス文化賞表彰式

1972

(昭和47年)

- 1.26 新年会
- 3.27 第15回春季レディスデー
- 4.17 第5回ゴルフ大会 千葉CC
- 6.2 中国文化研究会
- 6.18-21 第57回国際年次総会アトランティックシティ大会
中山会長令嬢と共に出席
- 7.14 第7回キワニス社会公益賞表彰式
- 7.16 第6回ゴルフ大会 新軽井沢GC
- 8.17 フランクマッケーブ国際事務局次長来日歓迎
昼食会 阿家
- 9.29 横浜キワニスクラブ設立発起人会
- 10.11 第16回秋季レディスデー
- 11.10 日本キワニス委員会 名古屋国際ホテル
第5回全日本合同大会 合同事務局長会議
第8回キワニス文化賞表彰式
- 11.26 お酉さまを見る会 ゲスト神田伯治
- 12.23 第1回ファミリーボーリング大会

1973

(昭和48年)

- 1.29 新年会 般若苑
- 2.2 囲碁の会 日本棋院
- 2.23 札幌キワニスクラブ設立発起人会
- 2.28 アイランドベストマナエール災害に1,500ドルを援助
- 3.16 中国文化研究会
- 3.31 第17回春季レディスデー
- 4.7 第2回ファミリーボーリング大会
- 5.12 釣と天ぷらを楽しむ会 木更津沖
- 5.19 第7回ゴルフ大会 愛鷹CC



⑬

- 6.21 第58回国際年次総会モントリオール大会
平野会長夫妻出席
- 6.30 植木市を楽しむ会 ゲスト一竜齊貞丈
- 6.30 札幌キワニスクラブ設立総会
- 7.30 第8回ゴルフ大会 軽井沢72GC
- 8.5 熱海海上花火を楽しむ会 以後恒例行事
- 8.24 第8回キワニス社会公益賞表彰式
- 9.5-6 奥只見ダム見学旅行会
- 9.22 第18回秋季レディスデー
- 10.7 Dr.ウィリアム M.イーグルス国際会長夫妻来日歓迎夕食会
- 10.13 札幌キワニスクラブチャーターパーティー
- 11.9 日本キワニス委員会 広島国際ホテル
第6回全日本合同大会
第9回キワニス文化賞表彰式
- 11.10 キワニス親睦ゴルフ会 広島CC

1974

(昭和49年)



⑭

- 1.31 新年会 八芳苑
- 3.25 第19回春季レディスデー
- 4.19 中国文化研究会 喜久吉
- 4.20 ファミリーボーリング大会
- 5.18 ゴルフ大会 霞ヶ関CC
- 6.8 釣と天ぷらを楽しむ会 木更津沖
- 6.23-26 第59回国際年次総会デンバー大会
岩田会長夫妻出席
- 7.14 軽井沢ゴルフ大会
- 7.24-26 米カリフォルニア州リパティユニオンハイスクール
一行9人会員宅にホームステイ
- 10.1 合同事務局長会議
- 10.25 第9回キワニス社会公益賞表彰式
- 11.8 第7回全日本合同大会東京大会
第10回キワニス文化賞表彰式
- 11.9 全日本懇親ゴルフ会 300C
- 11.17-18 紅葉の京都を訪ねる旅
- 11.22 横浜キワニスクラブチャーターパーティー

1975

(昭和50年)

- 1.31 新年会 築地 治作
- 2.8-10 キワニス沖縄ツアー
- 4.2 第20回春季レディスデー
- 6.18-20 デトロフ国際事務局次長来日
- 6.22-25 第60回国際年次総会アトランタ大会
杉浦会長夫妻出席
- 8.28-30 第1回アジア太平洋会議香港大会



15



16



17



18

1976

(昭和51年)

- 鹿内日本委員会委員長の代理として山下幸雄国際委員長出席
- 8.30 高松キワニスクラブ設立総会
- 9.5 中国文化研究会
- 9. 台風5、6号による災害のため「高知県伊野町風水害義捐金」募金ここには第8回キワニス文化賞受賞者土佐典具帖紙手漉紙に従事する6名在住その復旧援助
- 9.26 第21回秋季レディスデー
- 10.2 ゴルフ大会 300C
- 11.7 第8回全日本合同大会 神戸オリエンタルホテル
- 第11回キワニス文化賞表彰式
- 11.17~18 紅葉の京都を訪ねる旅 その2
- 12.11 忠臣蔵めぐりバスツアー
- 1.9 例会場を経団連に変更する
- 1.16 第10回キワニス社会公益賞表彰式
- 3.26 第22回春季レディスデー
- 4.7 福岡キワニスクラブ発起人会
- 4.9 ジャック デルフ国際理事来日
- 4.23 米国ベイカーズフィールド市ハイランド高校コーラス歓迎昼食会
- 4.28 ゴルフ大会 300C¹⁶
- 5.17 福岡キワニスクラブ設立総会
- 6.20~23 第61回国際年次総会サンディエゴ大会
大堀会長夫妻出席
(神戸クラブの諸活動に対してマルチプルサービス賞を東京クラブの活動に対してシングルサービス賞を受ける)
- 8.13~16 テッドオズボーン国際会長夫妻来日
- 9.2~4 第2回アジア太平洋会議シンガポール大会
鹿内委員長代理滑川会員出席
- 9.10 第23回秋季レディスデー¹⁷¹⁸
- 10.22 第11回キワニス社会公益賞表彰式
- 11.5 第9回全日本合同大会 大阪ロイヤルホテル
第12回キワニス文化賞表彰式
- 12.10 忘年会 椿山荘

1977

(昭和52年)

- 1.3 新春歌舞伎観劇会
- 2.2 新年会 銀座椿山荘
- 3.24 第24回春季レディスデー
- 4.23 程ヶ谷ゴルフ大会
- 4.30 時津風部屋稽古見学
- 5.19 福岡キワニスクラブチャーターナイト



19



20



21

1978

(昭和53年)

- 5.22~23 京都旅行
- 5.28 団菊祭観劇会
- 6.3 高松キワニスクラブチャーターナイト
- 6.26~29 第62回国際年次総会ダラス大会
藤田会長夫妻出席
- 7.16 軽井沢ゴルフ大会
- 8.5 熱海花火大会
- 9.13 日本地区設立総会祝賀レセプションスタンレー E.シュナイダー国際会長夫妻メリドウ国際事務局長来日
第13回キワニス文化賞表彰式
- 9.14 第25回秋季レディスデー
- 12.2 第12回キワニス社会公益賞表彰式
- 3.3 新春懇親会 椿山荘八重洲店
- 3-6.15 青少年教育問題について専門委員による
各クラブ講演訪問実施
- 4.4 第26回春季レディスデー
- 5.20 ゴルフ大会 東京バーディC
- 5.21 真鶴釣大会とパーティ 中山邸
- 5.28-29 京都・奈良旅行
- 6.17 マイフェアレディ観劇
- 6.25~28 第63回国際年次総会マイアミビーチ大会
鹿内ガバナール夫妻 熊野会長夫妻出席
- 7.10 モーリスグラッドマン国際会長夫妻来日
歓迎夕食会 松葉屋
- 7.18 富士通沼津工場見学とゴルフコンペ
- 7.19 第4回アジア太平洋会議グアム大会
尾上会員他出席
- 7.25 熱海会場花火大会
- 7.29 ゴルフ大会 旧軽井沢GC
- 9.15 第2回日本地区年次総会札幌大会
第14回キワニス文化賞表彰式
- 9.22 第27回秋季レディスデー
- 11.5 レッズ対巨人軍観戦
- 11.12 Hi-OVIS見学会と紅葉を楽しむ会
- 11.25 熊野杯争奪ゴルフ会 霞が関CC
- 12.1 忘年会 椿山荘八重洲店
- 12.2 「屋根の上のヴァイオリン弾き」観劇1979年(昭和54年)
- 1.12 新年会 銀座椿山荘
- 1.24 創立15周年記念祝賀会 第28回春季レディスデー
- (昭和54年) 3.10 「黄金の日々」観劇会

1979

(昭和54年)



22



23



24

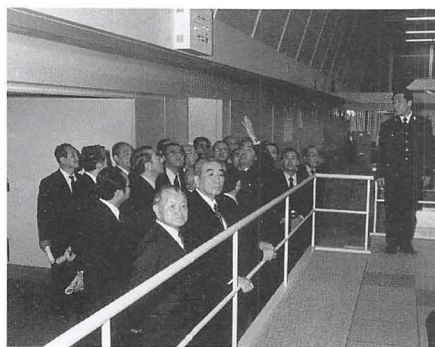
- 4.22~23 春季京都旅行と会田雄次氏のお話①⑨
 - 5.26 春季ゴルフ大会 霞が関CC
 - 7.1~4 第64回国際年次総会トロント大会
吉見事務局長夫妻出席
 - 7.15 ビルソルバーク国際会長夫妻来日
 - 7.23~26 第5回アジア太平洋会議台中大会
鹿内ガバナー夫妻他出席
 - 8.11 軽井沢ゴルフ大会
 - 9.7 キワニスインターナショナルアランダフィールド理事
来日歓迎夕食会
 - 10.5 第13回キワニス社会公益賞表彰式
 - 10.13 第29回秋季レディスデー
 - 10.16 第3回日本地区年次総会名古屋大会
第15回キワニス文化賞表彰式
 - 11.17 秋季ゴルフ会 霞が関CC
- ## 1980
- (昭和55年)
- 1.16 新年会ヴァンローゼ
 - 3.27 第30回春季レディスデー
 - 4.3~6 第6回アジア太平洋会議バンコク大会
吉見事務局長夫妻他出席
 - 4.10~13 マークスミスJr国際会長夫妻来日②①
 - 6.22~25 第65回年次総会アナハイム(カリフォルニア州)大会
北裏ガバナー夫妻 泉会長夫妻他出席
 - 7. 全日本学生キャンプに50万円寄付
 - 7.11 京都キワニスクラブ設立総会
 - 7.19 軽井沢ゴルフ大会
 - 9.6 秋季ゴルフ大会 300C
 - 9.26 歌舞伎観劇会
 - 10.9 第4回日本地区年次総会大阪大会
国際副会長サーストン夫妻来日歓迎夕食会
第16回キワニス文化賞表彰式
 - 11.7 第14回キワニス社会公益賞表彰式
 - 11.18 第31回秋季レディスデー②②
 - 12.12 忘年会
 - 12. 日本地区イタリア地震救済基金に寄付
- ## 1981
- (昭和56年)
- 1.16 新年会ヴァンローゼ
 - 4.5~8 第7回アジア太平洋会議東京大会
第32回春季レディスデー
メラルドエンスタッド国際会長夫妻デトロ
フ次長来日歓迎夕食会
 - 4.9 京都キワニスクラブチャーターナイト



25



26



27

- 6.13 キワニスヨーロッパシャトリン会長夫妻来日
歓迎昼食会
- 6.28~7.1 第66回国際年次総会ニューオールリンズ大会
水島ガバナー夫妻 安藤蕃会長夫妻出席
- 7. 全日本学生キャンプに50万円寄付
- 7.11 軽井沢ゴルフ大会
- 8.5 熱海海上花火大会
- 9.2 第5回日本地区年次総会神戸大会
第17回キワニス文化賞表彰式E.B.マックマツ
キトリック国際会長夫妻来日歓迎昼食会
- 9.18 第15回キワニス社会公益賞表彰式
- 10.17 秋季ゴルフ大会 300C
- 11.18 第33回秋季レディスデー²³
- 11.23~24 秋季京都旅行
- 12.10 忘年会 婦志多
- 12. 日本地区重点施策World Health Fundに協力寄付
- 1.12 新春観劇会 歌舞伎座
- 4. "キワニスマガジン" 日本地区取材のため
S.ペンバートン編集長来日
- 4.16 第8回アジア太平洋会議クアラルンプール大会
涛川事務総長夫妻他出席
- 4.25 春季ゴルフ会 300C
- 5.14 第34回レディスデー
- 5. キワニス本部移転寄付
- 5.19~20 大和路を訪ねる旅²⁴
- 6.27~30 第67回国際年次総会ミネアポリス大会
中山恒明日本地区会長と令嬢 上田英雄会長夫妻出席
- 7. 全日本学生キャンプに50万円寄付
- 7.2 第16回キワニス社会公益賞表彰式
- 7. 北九州災害義捐金100万円を寄付
- 8.3 火曜昼食会開始 銀座リオンドール
- 8.5 熱海海上花火大会
- 9.24 第6回日本地区年次総会広島大会
第18回キワニス文化賞表彰式
国際会長代理フランクJ.ディノート夫妻
来日歓迎昼食会
- 10.16 秋季ゴルフ会 300C
- 11. World Health Fund(ガンビアインドネシア、ボリビアの健康
不良児童救済のための募金25万円)に寄付協力
- 11.14~15 紅葉の京都を訪ねる旅

1982

(昭和57年)



46



28



29

1983

(昭和58年)

- 11.25 観劇会 新橋演舞場
- 12.9 忘年会 婦志多²⁵
- 1. スペシャルオリンピック支援寄付協力
- 1.12 第4回観劇会 歌舞伎座
- 2.4 千葉キワニスクラブ設立総会
- 3.24 第35回レディスデー
- 4.8~10 第9回アジア太平洋会議セブ大会
奥村事務総長他出席
- 5.14 第4回ゴルフ大会 300C
- 6.24 小松原庸子のフラメンコを見る会
- 7.3~6 第68回国際年次総会ウィーン大会
岩田日本地区会長夫妻 片桐会長夫妻他出席
- 7.15 第17回キワニス社会公益賞表彰式
- 7.16 軽井沢ゴルフ大会
- 8.5 熱海海上花火大会²⁶
- 9.14 サッポロビール工場でビールの会
- 9.20 千葉キワニスクラブチャーターナイト
- 9.22 第7回日本地区年次総会仙台大会
第19回キワニス文化賞表彰式
レイモンドランスフォード国際会長夫妻
来日歓迎夕食会
- 10. 日本地区重点施策に協力 寄付
- 11.11 ショウとディナーを楽しむ夕べ
- 11.22 火曜昼食会会場 7丁目ライオンに変更
- 11.24 第5回ゴルフ大会 東京GC
- 11.29 NHK見学会
- 12.14 オープレーE.アービー国際会長夫妻来日都知事訪問他
- 12.16 オープレーE.アービー国際会長来日記念講演
「キワニスの活動について」
- 12.15 忘年会 婦志多

1984

(昭和59年)

- 1.14 新春観劇会 歌舞伎座
- 1.20 東京キワニスクラブ20周年記念事業の一環
として物故会員慰霊祭
- 2.1 重点施策基金募金開始
- 2.10 有名レストランでの食事会 小川軒
- 3.2 警視庁見学会²⁷
- 3.17 「或る女」観劇会 新橋演舞場
- 3.30~4.1 第10回アジア太平洋会議ソウル大会
杉浦日本地区会長夫妻他出席
- 4.12 東京キワニスクラブ設立20周年記念式典



30



31



32

第36回レディスデー④⑥

G.H.ジルジツウェルスバーガー国際事務局長夫妻来日

- 4.18 第6回ゴルフ大会 霞が関GC②⑧
 - 6.2 「大家族」観劇会 芸術座
 - 6.24~27 第69回国際年次総会フェニックス大会
杉浦日本地区会長 上田隆介会長出席
 - 7.14 軽井沢ゴルフ大会 旧軽井沢GC②⑨
 - 7.20 第18回キワニス社会公益賞表彰式
 - 8.5 熱海海上花火大会
 - 8.31 東芝新社屋見学会
 - 9.26 第8回日本地区年次総会横浜大会
第20回日本キワニス文化賞表彰式
オーブレイE.アービー国際会長夫妻来日
 - 10.12 1000回記念特別例会 泉東京クラブ16代会長講演
 - 12.1~2 萩津和野の旅
 - 12.14 忘年会 婦志多
 - 12.26 第9を聴く会 NHKホール
- ## 1985
- (昭和60年)
- 1.12 第6回観劇会 歌舞伎座
 - 2.14 NHK高品位テレビ見学会
 - 3. 神戸クラブ 神戸ユニバシアード協賛に寄付協力
 - 4.12 第37回レディスデー
 - 4.26~28 第11回アジア太平洋会議シドニー大会
山下事務総長出席
 - 5.16 第7回ゴルフ会 東京ゴルフ倶楽部
 - 6.21 第1回東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式
 - 6.30~7.3 第70回国際年次総会トロント大会
永井邦夫会長夫妻出席
 - 7.13 軽井沢ゴルフ会 旧軽井沢GC③⑩
 - 7.19 第19回キワニス社会公益賞表彰式
 - 8.5 熱海海上花火大会
 - 9.27 第9回日本地区年次総会高松大会
第21回日本キワニス文化賞表彰式
ドナルドE.ウィリアムズ次期国際会長夫妻来日
 - 10.16 第8回ゴルフ会 300C
 - 10. メキシコ地震救援基金に協力 寄付
 - 11.11 フランス料理を楽しむ会 アピシウス③⑩
 - 11.14 コロンビア災害救援基金に協力 寄付
 - 12.5 忘年会 婦志多



33



34



47

1986

(昭和61年)

- 1.12 観劇会 歌舞伎座
- 2.27 朝日新聞社見学会
- 3. 国際キワニス基金ヒクソフェローシップ制度導入
- 4.4~5 京都旅行会 桂離宮他³²
- 4.9 第38回レディスデー
- 4.1214 第12回アジア太平洋会議台北大会
藤田日本地区会長夫妻他出席
- 4.23 第9回ゴルフ大会 程ヶ谷CC
- 4.25 警視庁にサミット等特別警戒にあたっている警察官に感謝とねぎらいのため金一封(10万円)贈呈
- 5.9 第2回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 6.5 NEC我孫子事業所見学会
- 6.22~26 第71回国際年次総会ヒューストン大会
藤田日本地区会長安部英会長夫妻出席
- 7.25 第20回キワニス社会公益賞贈呈式
- 8.5 熱海海上花火大会
- 9.9 G.R.オーバーホルト次期国際会計監事夫妻来日
来日記念講演「キワニスの求めるもの」
- 9.20 第10回日本地区年次総会福岡大会
第22回日本キワニス文化賞贈呈式
- 10.8 第10回秋季ゴルフ会 東京GC
- 11.14 国際レディスデー 椿山荘³³
ジョージア州アトランタキワニス観光団歓迎
- 11. フィリピン地区エルマーアキノ前ガバナー援助寄付に協力
- 12.12 忘年会 婦志多

1987

(昭和62年)

- 1.9 新春観劇会 歌舞伎座
- 1.21 国際キワニス基金設立を記念して世界中のキワニスで繰り広げられる募金活動「バースデーキャンペーン」に参加 以後毎年参加
- 2.10 中国宮廷料理を楽しむ夕べ ホテル三條苑³⁴
- 4.3 フランクJ.ディノート国際会長夫妻日本公式訪問 来日記念講演「TIME TO CARE」³⁵
- 4.13 第39回レディスデー⁴⁷
- 4.17 NHK見学会
- 5.27 第11回ゴルフ大会 程ヶ谷CC
- 6.4 ビヤステーション恵比寿で生ビールを楽しむ会
- 6.19 第3回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 7.5~9 第72回国際年次総会ワシントンD.C.大会
泉日本地区会長夫妻 木戸会長夫妻出席



35



48



36

泉日本地区会長が国際キワニス基金よりバースデーキャンペーン全クラブ参加の実績により表彰される
ヒクソンフェロー獲得の実績により藤田前日本地区会長 安部前会長表彰される

- 7.24 第21回キワニス社会公益賞贈呈式
- 9.25 第11回日本地区年次総会京都大会
第23回日本キワニス文化賞贈呈式
モートンO.アルパー国際理事夫妻来日
- 10.14 第12回ゴルフ大会 程ヶ谷CC
- 12.9 忘年会 婦志多
- 12.28 第9を聴く会(リハーサル見学つき)五反田ゆうぼうとホール

1988

(昭和63年)

- 1.9 新春観劇会 歌舞伎座
- 3.18 江戸懐石を楽しむ会 白紙庵
- 4.13 第40回レディステデー
- 4.15 カイザー国際会長夫妻日本公式訪問
- 4.22 「キックエイズ88」ボランティア活動に参加エイズ撲滅教育を訴えたレーフレットを東京ドームで配布
- 5.23 第13回ゴルフ会 大利根CC
- 6.17 第4回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 7.2~6 第73回国際年次総会シアトル大会
安藤蕃日本地区会長夫妻 池辺会長夫妻出席㉞
- 7.13 新宿キワニスクラブ設立発起人会
- 7.29 第22回キワニス社会公益賞贈呈式
- 7.30 隅田川の花火とフランス料理を楽しむ夕べ
- 9.1 新宿キワニスクラブ設立総会
- 9.30 第12回日本地区年次総会東京大会
第24回日本キワニス文化賞贈呈式
- 10.1 国際評議会に上田英雄会長夫妻出席
- 11. ジャマイカ緊急義捐金スペシャルオリンピック支援フェスティック神戸 '89支援寄付に協力
- 12.14 忘年会 婦志多
- 12.27 第9を聴く会 サントリーホール

1989

(昭和64年)

- 1.7 新春観劇会 歌舞伎座
- 4.13~15 第14回アジア太平洋会議グアム大会
上田英雄日本地区会長夫妻出席
- 4.13 第41回レディステデー㉞
- 4.15 新宿キワニスクラブチャーターナイト
G.R.オーバーホルト国際会長夫妻日本公式訪問
- 5.16 大日本印刷見学会㉞
- 6.16 第5回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式



37

- 6.25~29 第74回国際年次総会オーランド大会
上田地区会長夫妻 重崎会長夫妻他出席
- 7.18 宝塚観劇会
- 7.21 第23回キワニス社会公益賞贈呈式
- 7.29 隅田川の火花とフランス料理を楽しむ夕べ
- 9.7 第13回日本地区年次総会名古屋大会
第25回日本キワニス文化賞贈呈式
ウィリアムリーバー次期国際副会長夫妻来日
ローズパレード(1/1)の設立記念のフロート
支援のための募金開始
- 12.12 忘年会 婦志多
- 12.27 第9を聴く会 サントリーホール

1990

(平成2年)



38

- 1.6 新春観劇会 歌舞伎座
- 3.23 国際キワニス設立75周年記念東京キワニス
クラブボランティア活動を臨時総会にて採択
- 4.7~8 柏崎原子力発電所見学 佐渡旅行を楽しむ会
- 4.13 ルーシュ国際会長夫妻日本公式訪問³⁸
- 4.15 第42回レディスデー
- 5.30 クラブ合同ゴルフ会(非公式)
- 6.16 帝劇「終着駅」観劇会
- 6.24~28 第75回国際年次総会セントルイス大会
片桐日本地区会長夫妻 安藤良夫会長夫妻出席
- 7.3 国際キワニス設立75周年記念東京キワニス
クラブボランティア活動の一つ「慰霊の泉」
清掃活動スタート
- 7.13 第6回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 7.27 第24回キワニス社会公益賞贈呈式
- 7.30~31 国際キワニス設立75周年記念東京キワニス
クラブボランティア活動
第1回キワニスリーダーシップトレーニング
セミナーを環太平洋学生キャンプ席上開催
講師として2会員派遣
- 9.14 第14回日本地区年次総会大阪大会
第26回日本キワニス文化賞贈呈式
ジョンD.モートン次期国際会長夫妻来日
- 10.26~27 松山旅行
- 12.14 鹿内信隆終身名誉日本地区会長
(初代東京クラブ会長)追悼例会
- 12.14 忘年会 婦志多
- 12.29 第9を聴く会 サントリーホール



39



④

1991

(平成3年)

- 1.12 新春観劇会 歌舞伎座
- 1.21 東京証券取引所見学会
- 2.1 「キワニスの森」植樹記念特別例会 葛西臨海公園
- 2.4 うまいもの会 福鮎④
- 3.9 「小五さま」観劇会 新橋演舞場
- 4.11 第43回レディスデー
- 6.14 「男を金にする女」観劇会 芸術座
- 6.15 うまいもの会 桃花林
- 7.19 第25回キワニス社会公益賞
第7回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 7.29~30 第2回キワニスリーダーシップトレーニングセミナー実施
会員を講師として派遣
- 8.24 うまいもの会 福鮎
- 9.13 第15回日本地区年次総会 広島大会
第27回日本キワニス文化賞贈呈式
W.J.ブレックマン国際会長夫妻来日
- 11.1 うまいもの会 一隆
- 12.9 忘年会 婦志多
- 12.29 第9を聴く会 サントリーホール

1992

(平成4年)

- 1.11 新春観劇会 歌舞伎座
- 2.21 うまいもの会 南甫園
- 4.10 第44回ファミリーデー
- 5.23 スーパー歌舞伎「オグリ」観劇会
- 6.18 同好会キワニスワインサロン開始 隔月第3木曜日に開催
- 6.21~25 第77回国際年次総会インディアナポリス大会
安部日本地区会長出席
- 7.24 第26回キワニス社会公益賞
第8回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 8.1 サッポロビール千葉工場見学会①
- 9.4 第16回日本地区年次総会神戸大会
第28回日本キワニス文化賞贈呈式
ジョーL.グリフィス次期国際副会長夫妻来日
- 10.1~4 国際評議会 木戸日本地区会長夫妻出席
- 10.23 「ホフブロイ」ビヤパーティ②
- 12.9 忘年会 婦志多③
- 12.29 第9を聴く会 サントリーホール



④

1993

(平成5年)

- 1.9 新春観劇会 歌舞伎座
- 1.28 和歌山キワニスクラブ発起人会
- 3.4 和歌山キワニスクラブ設立総会
- 4.5 W.リーバー国際会長夫妻日本公式訪問



44



43

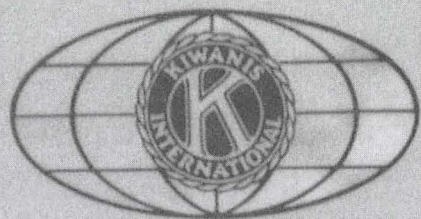


45

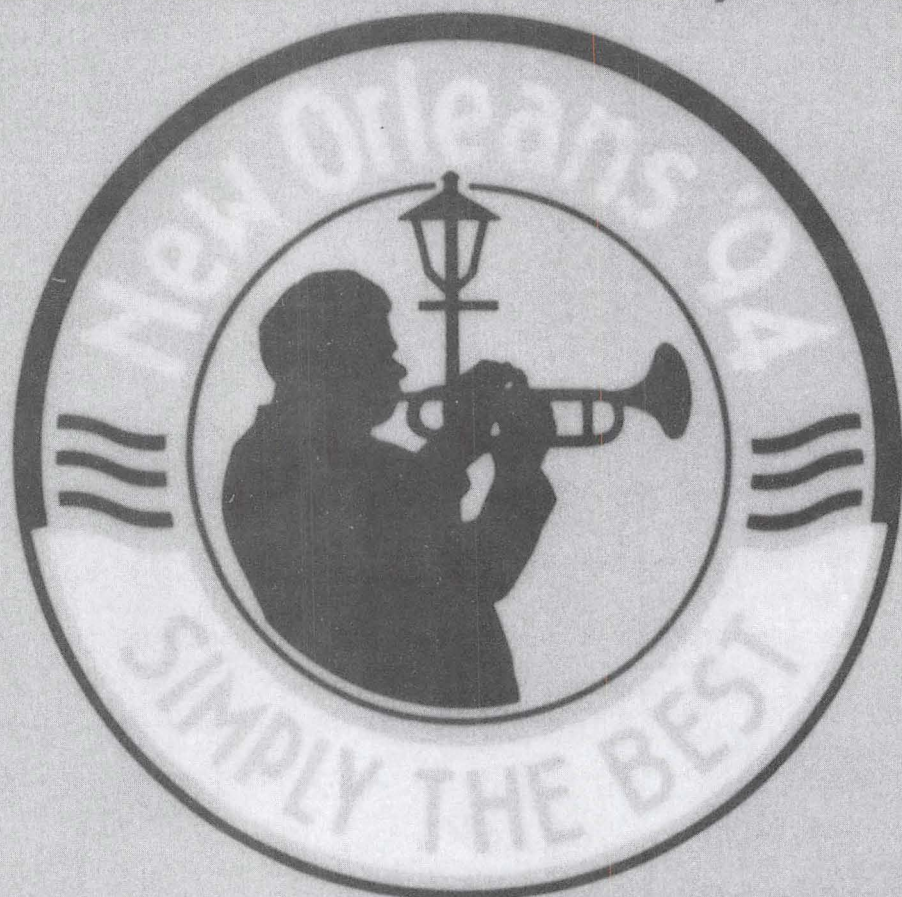
第45回ファミリーデー

- 4.6 和歌山キワニスクラブチャーターナイト
- 4.8~10 第18回アジア太平洋会議ソウル大会で
第20回大会を大阪に誘致
- 5.22 スーパー歌舞伎観劇会（新橋演舞場）
- 6.18 第9回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
- 6.26 浅草演芸を楽しむ会 浅草演芸ホール
- 6.27~7.1 第78回国際年次総会ニース大会
重崎次期日本地区会長小菅会長夫妻他出席
- 7.10 ゴルフ会 300C
- 7.14~16 北海道旅行
- 7.30 第27回キワニス社会公益賞贈呈式
- 8. 第3回キワニスリーダーシップトレーニングセミナー実施
2会員を講師として派遣
- 9.7 第17回日本地区年次総会仙台大会
第29回日本キワニス文化賞贈呈式
グレンM.バグネル国際理事夫妻来日⁴⁵
- 9.18 うまいもの会 渋谷「台所屋」
- 9. 北海道南西沖地震義捐金寄付
- 9.30~10.3 国際評議会 重崎日本地区会長夫妻出席
- 12.14 忘年会 婦志多
- 12.29 第9を聴く会 サントリーホール
- 1.8 新春観劇会 歌舞伎座
- 1. ロサンゼルス地震義捐金募金開始
- 4.4 東京キワニスクラブ設立30周年記念
第46回ファミリーデー
- 4.14~16 第19回アジア太平洋会議メルボルン大会
重崎日本地区会長 木戸前日本地区会長出席

1994
(平成6年)



Join President Art and First Lady Alice in . . .



**79th Annual Convention
Kiwaniis International
June 25-29, 1994**



KIWANIS CLUB OF
Ladies
FRIDAY 1

デジタルファイル

資料

加盟祝賀会 名古屋キワニスクラブ

JAPANESE

東京クラブ歴代会長

1964	(昭和39.1~39.12)	鹿内 信隆(物故)
1965	(昭和40.1~40.12)	〃
1966	(昭和41.1~41.12)	原 文兵衛(退会)
1967	(昭和42.1~42.12)	北裏喜一郎(物故)
1968	(昭和43.1~43.12)	篠島 秀雄(物故)
1969	(昭和44.1~44.9)	上村健太郎(物故)
1969~70	(昭和44.10~45.9)	田坂 輝敬(物故)
1970~71	(昭和45.10~46.9)	水島 広雄
1971~72	(昭和45.10~47.9)	中山 恒明(休会)
1972~73	(昭和47.10~48.9)	平野 赳(物故)
1973~74	(昭和48.10~49.9)	岩田 式夫(物故)
1974~75	(昭和49.10~50.9)	杉浦 敏介
1975~76	(昭和50.10~51.9)	大堀 弘(物故)
1976~77	(昭和51.10~52.9)	藤田 一暁(物故)
1977~78	(昭和52.10~53.9)	熊野 修一(物故)
1978~79	(昭和53.10~54.4)	鈴木 俊一(退会)
	(昭和54.5~54.9)	泉 美之松(物故)
1979~80	(昭和54.10~55.9)	〃
1980~81	(昭和55.10~56.9)	安藤 蕃
1981~82	(昭和56.10~57.9)	上田 英雄(物故)
1982~83	(昭和57.10~58.9)	片桐 良雄
1983~84	(昭和58.10~59.9)	上田 隆介
1984~85	(昭和59.10~60.9)	永井 邦夫
1985~86	(昭和60.10~61.9)	安部 英
1986~87	(昭和61.10~62.9)	木戸 孝彦
1987~88	(昭和62.10~63.9)	池辺 乾治
1988~89	(昭和63.10~平1.9)	重崎 伸矩
1989~90	(平成1.10~2.9)	安藤 良夫
1990~91	(平成2.10~3.9)	赤澤 璋一
1991~92	(平成3.10~4.9)	〃
1992~93	(平成4.10~5.9)	小菅宇三治
1993~94	(平成5.10~6.9)	〃

国際年次総会

ASPAC

第51回ポートランド	
第52回ヒューストン	
第53回トロント	
第54回マイアミ	
第55回デトロイト	
第56回サンフランシスコ	
第57回アトランティックシティ	
第58回モントリオール	
第59回デンバー	
第60回アトランタ	第1回香港
第61回サンディエゴ	第2回シンガポール
第62回ダラス	第3回マニラ
第63回マイアミビーチ	第4回グアム
第64回トロント	第5回台中
第65回アナハイム	第6回バンコク
第66回ニューオーリンズ	第7回東京
第67回ミネアポリス	第8回クアラルンプール
第68回ウィーン	第9回セブ
第69回フェニックス	第10回ソウル
第70回トロント	第11回シドニー
第71回ヒューストン	第12回台北
第72回ワシントンDC	第13回マニラ
第73回シアトル	スリランカ (中止非公式役員会香港で開催)
第74回オランダ	第14回グアム
第75回セントルイス	第15回ウエリントン
第76回アナハイム(欠席)	第16回クアラルンプール
第77回インディアナポリス(欠席)	第17回タイペイ
第78回ニース、フランス	第18回ソウル
第79回ニューオーリンズ	第19回メルボルン
第80回ラスベガス	第20回大阪

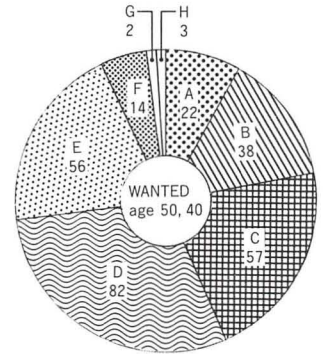
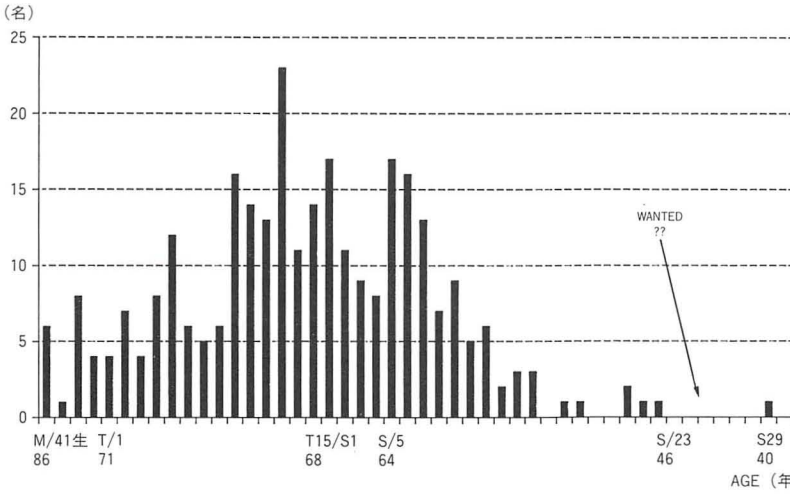
愛澤尚太郎	牛山善政	北村廣太郎	鈴木義雄	中村村	堀江鐵彌	山	茂
愛知良一	内古閑俊二	木戸孝彦	鈴木令彦	中村好明	本庄谷礼介	山中	宏
青木半治	内山尚三	木村文彦	鈴木祥博	中山恒夫	本間喜高	山本清二	信
青木久悦	内海邦雄	國宗正	藤藤幹弘	中山井邦弓	澤澤野景	山本千吉	郎
青山偉和	浦上裕通	榎澤洋	住吉欽也	永永井岡	股野卓二	湯川清弘	男
青山博之	江口秀夫	黒沢原昭三	関野直恒	長岡田琢美	松沢宮康	幸真佐	端
赤澤璋一	大島人高	小河隆章	瀬相高木	永永谷嘉寛	松宮本竜	横川英	誠
浅野明也	大場健司	小坂隆伸	相高木	長富祐一	松本三	横山吉岡	行
阿部純也	大堀太千	小島泰	高木	永山吉則	松本三	吉岡文之	助
阿部貞市	大和田棟一	小嶋宇三	高田	永濤奈	三浦三	吉田太郎	一
阿部喜彦	岡田茂弘	小長捨次郎	高橋	南学哲和	水三宮	依田智	治
天野宏昭	岡部建夫	小林忠雄	高橋	新村和昇	三宮	米澤木	敏
天野武一	小笠原謙二	小林吉彦	高竹	西藤中	宮本昭	渡辺弥	司
荒井好浩	緒方寿三郎	小松雄介	竹村	野村一	三輪良	綿引好	夫
有田陽一	奥山融	小宮英次	田代健	野部悦綱	向武村	和田晴	已
安藤太郎	尾塚敬次郎	後藤光雄	田中端	橋本信雅	村上昭	北藤英	四
安藤良亮	河西乾二	伍堂森也	田千塚	橋元川	村田森	下山佳	治
生田豊三郎	加治屋紀男	小山吉郎	塚田	長谷川	森田正	竹野清	二
池辺乾治郎	片桐山正	酒井秀樹	佃辰	長谷川	安原祥	土田正	保
石川孝男	勝藤武彦	原部三郎	角坪	林孝吉	柳幸	長浜田	元
石原昭一郎	鎌倉昌弘	笹季興	鶴東	速原野	矢部	藤川千	秋
磯村尚德	上茂剛	澤田雄次	三條	阪野廣	矢部	藤井義	弘
伊藤洋宏	茅野健弘	三條明	鹿重	樋口野	山岡	船野昭	彦
伊藤善夫	川田嘉一郎	内宏伸	重品	平山瀨	山口	前野俊	光
井山隆生	川畑正	川壽夫	芝島	福富禮治	山崎	馬宮崎	進
入江英雄	河村敏	田徹晴	杉浦	藤山正	山下	湯脇敬	之
岩田清登	菊岡平八郎	下杉敏	杉山克己	藤原宣	山路	脇田和	理
岩本龍人	菊地清	杉山克己	北野	藤岡正	山路	和	理
岩田克隆	北島義次	鈴木道	北原	古邊星	山田	山田	正
上田清志	北原	鈴木					
植村晋							

平成5年までの皆勤タブ保持者

27年皆勤	松本 竜二				
26年皆勤	安部 英	岩田幸彰			
25年皆勤	山田 勲				
24年皆勤	安藤 蕃	飛島 齊	三輪良雄		
23年皆勤	重崎伸矩	中村広忠	山本千吉郎		
22年皆勤	上田隆介	國宗正義	森田啓司	山下幸雄	
21年皆勤	牛山善政	濤川馨一			
20年皆勤	天野武一	池辺乾治	奥村寿三郎		
19年皆勤	上田克郎	山本清二郎			
17年皆勤	須藤博忠	長戸寛美	野中 庸		
16年皆勤	愛知良一	安藤良夫	井上善夫	大島秀夫	
15年皆勤	芝田徹男	平山 健	藤山正男		
14年皆勤	愛澤尚太郎	橋本信夫			
13年皆勤	阿部純也	木戸孝彦	國島文彦	関野直輔	
	高橋弘篤	坪内嘉雄	奈良哲夫		
12年皆勤	片桐良雄	三条 明			
11年皆勤	小島章伸	田端吉生	戸田信也	長谷川滋彦	
10年皆勤	赤澤璋一	茅野 健	永井邦夫		
9年皆勤	市田 洋	牧田義喜	和田 洋		
8年皆勤	尾関雅則	関口欽也	辻辰三郎	阪野正明	
	星埜一彦	山口衛一			
7年皆勤	高木 昇	永井弓彦	吉村 明		
6年皆勤	岩崎英雄	高木 勇	箭内祥周	山中 茂	
5年皆勤	安田和義	矢橋幸一			
4年皆勤	岩本龍人	大和田棟一	小笠原建夫	菊岡平八郎	
	子安英次	堺 司	中山恒明	中山迪夫	
	宮田文一	横川 端			
3年皆勤	浅野開作	内海 倫	北原 卓	小菅宇三治	
	小林忠雄	鶴田日夫	永谷宗次	水島広雄	
2年皆勤	北村廣太郎	鈴木義夫	田中 敬	塚崎誠一	
	角田達俊	三橋信一			
1年皆勤	荒井好民	入江隆生	岩田清登	大堀太千男	
	片山 豊	川田嘉一郎	北野次登	酒井吉郎	
	佐藤満秋	杉浦敏介	須藤幹雄	竹内道雄	
	戸田守二	中田一男	長谷川正名	村上七郎	
	矢部茂夫	山田正男	依田智治	寄木正敏	

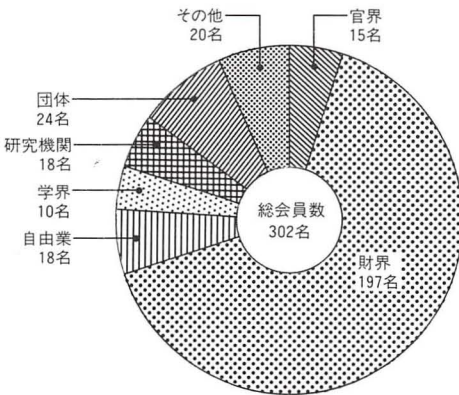
(平成6年3月10日現在)

会員の年齢分布

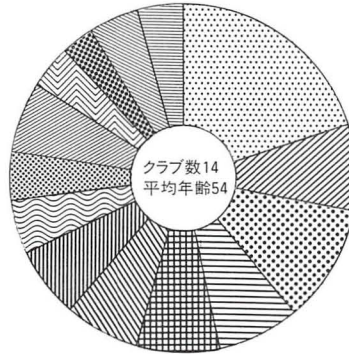


A	M41/M45	8.0%	E	S4/S9	20.4%
B	T2/T6	13.9%	F	S10/S15	5.1%
C	T7/T11	20.8%	G	S16/S21	0.7%
D	T12/S3	29.9%	H	S22/S29	1.1%

東京キワニスクラブ
会員職業別分類

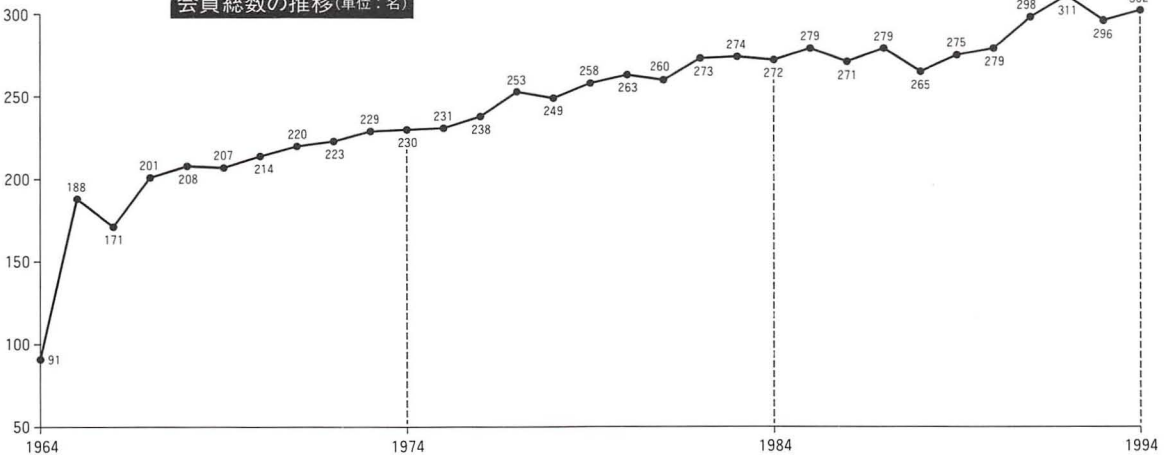


日本地区会員年齢構成比
(平均年齢)



東京	67	19.8%
名古屋	64	8.5%
大阪	65	11.0%
広島	60	7.5%
神戸	50	7.6%
仙台	57	7.0%
札幌	61	6.6%
横浜	55	5.0%
高松	59	4.5%
福岡	49	6.6%
京都	55	3.8%
千葉	55	3.2%
新宿	56	4.7%
和歌山	55	4.3%

会員総数の推移 (単位: 名)



- 1390 1/ 8 新年互礼会
 1391 1/22 日本貿易振興会展示部 竹田一平 セビリア万国博覧会と日本の参加
 1392 1/29 日商岩井会長(会員) 速水 優 新年雑感
 1393 2/ 5 国際経済交流財団会長(会員) 赤澤璋一 政治の衰弱と政治改革
 1394 2/12 富士福祉事業顧問 日本モンゴル文化交流協会会長(会員) 阿部純也
 モンゴル素描
 1395 2/19 占星学研究者 鼓 悠 天宮図に見えてくる日本 一占星学入門一
 1396 2/26 商船三井客船(株)顧問 元海外鉄道技術協力協会(会員) 須藤幹雄 鉄道ODA
 1397 3/ 5 日本交通公社取締役(会員) 岩本龍人
 国際キワニス ニース コンベンション プロモーション
 ーアッジ フィレンツェ ベネチエ 美の回廊を訪ねて一
 1398 3/12 ヘキストジャパン専務取締役(会員) 佐藤満秋
 クリントン後の米事情とニューヨーク キワニスの例会に出席して
 1399 3/19 日本輸出入銀行理事(会員) 伊藤信徳 旧ソ連の現状と金融支援
 1400 3/26 日本不動産研究所会長(会員) 小林忠雄 地価バブルを顧みる
 1401 4/ 2 日本総合研究所副理事長(会員) 山崎高司 クリントン政権の経済政策
 1402 4/ 5 第45回ファミリーデー(京王プラザホテル エミネンスホール)
 1403 4/ 9 お花見例会 葛西臨海公園 第1回キワニスの森寄贈地
 1404 4/16 靖国神社「慰霊の泉」献納記念特別例会
 1405 4/23 前宮内庁長官(会員) 富田朝彦 忘れ難い幾つかの思い出
 1406 5/ 7 狂言研究家 パーティコンサルタント ガイ・フィリップ 男の料理
 1407 5/14 セントラル警備保障社友(会員) 野中 庸 浅間山荘の思い出
 1408 5/21 ダイキン工業副社長(新宿クラブ副会長) 徳永洋一 フロン雑感
 1409 5/28 日本道路公団総裁(会員) 鈴木道雄 高速道路の当面する問題
 1410 6/ 4 東京銀行顧問 元エネルギー庁長官(会員) 緒方謙二郎
 石油はいつまでもつか
 1411 6/11 中央学院大学講師(会員) 須藤博忠 民族問題に思う
 1412 6/18 第9回東京キワニスクラブ青少年教育賞贈呈式
 1413 6/25 資生堂顧問 元フランス大使(会員) 内田 宏
 現下の国際情勢と東京サミット
 1414 7/ 2 産経新聞社会部長 稲田幸男 最近の社会部事情
 1415 7/ 9 シバソク会長(92-93 日本地区次期会長) 重崎伸矩 第78回キワニス
 インターナショナル年次総会に出席して フランス ニースに於いて
 1416 7/16 東京中国歌舞団歌手 陽 二蓮 私にとっての現代中国
 1417 7/23 アジア刑政財団理事長 長島 敦 米国の刑事陪審裁判
 1418 7/30 第27回キワニス社会公益賞贈呈式
 1419 8/ 6 暑気払いビヤパーティ
 1420 8/20 国際大学大学院国際関係学教授 游 仲勲
 21世紀の世界経済と中国人 中国系人 一日本人は取り残されるか
 1421 8/27 ダイニック会長(会員) 坂部三三郎
 われわれが住んでいる素晴らしい星「地球」
 1422 9/ 3 政治評論家 内田健三 新政権と秋の政局
 1423 9/10 ジャーナリスト ポール・ファーガソン 北方四島を訪ねて
 1424 9/17 地域振興整備公団副総裁(会員) 北村廣太郎 全国総合開発計画のあゆみ
 1425 9/24 社団法人東京キワニスクラブ定時総会
 1426 10/ 1 ソロモンブラザーズアジア証券(株)経済調査部ディレクター
 ロバート アラン フェルドマン 青い目から見た日本経済
 1427 10/ 8 東洋医学会会長 松田邦夫 高令化社会と漢方
 1428 10/15 日本短放送エグゼクティブプロデューサー 武藤直路 曾おぼさんの海
 1429 10/22 皆勤会員表彰式
 1430 10/29 東邦大学医学部付属佐倉病院院長兼内科教授 国際ヨード欠乏症対策委員会
 (ICCID) 日本代表(会員) 入江 實 ヨード欠乏症について
 1431 11/ 5 シバソク会長(93-94 日本地区会長) 重崎伸矩
 国際キワニス評議会に出席して
 1432 11/12 機械産業記念事業財団会長(会員) 赤澤璋一 南太平洋の国々
 1433 11/19 中山がん研究所 中山メディカルクラブ副所長(会員) 矢端正克
 エイズ最新情報と企業のエイズ対策
 1434 11/26 トリビューン・ジャパン毎日(株)会長 石井謙一
 日本の集団・縦社会とアメリカの個人主義社会の隔たりは何処まで縮まるか
 1435 12/ 3 全国暴力追放運動推進センター専務理事 保良光彦
 ダーク産業としての暴力団
 1436 12/10 囃子梅屋流 梅屋右近 囃子藝談(大鼓と小鼓)
 1437 12/17 埼玉大学教授 奥本大三郎 虫の行き方と自然のバランス
 1438 1/ 7 新年互礼会
 1439 1/14 日本銀行 理事 南原 晃 東アジアと日本経済について
 1440 1/21 日本AT&T総合政策本部長兼市場開発本部長 グレン S. フクシマ
 変わるアメリカ 変わるか日本
 1441 1/28 博報堂生活総合研究所所長代理 関沢英彦 94年の生活動向を考える
 1442 2/ 4 読売新聞編集委員 河原畑 寧 ムービーキッズ(映画少年)の冒険
 1443 2/18 貯蓄広報中央委員会副会長(会員) 木村太郎 今なぜ貯蓄か?
 1444 2/25 昭和マリン興業社長 上田宗良 内側からみたオリンピック 一主として
 オリピック・マーケティングについて一
 1445 3/ 4 西友代表取締役専務 坂本春生 変革の中の小売業
 1446 3/11 ロス・アンゼルス タイムズ東京支局長兼アジア経済担当記者
 サミュエル ジェイムソン 日米摩擦 一新しい危機は来るのか?一
 1447 3/18 桜ゴルフ代表取締役 佐川八重子 私の歩んで来た道とゴルフ会員権の展望
 1448 3/25 上之郷利昭 米と日本人と伊勢神宮





編集後記

“30年の歩み”は、キワニスの歴史と、これを支えた全会員各位の記録である。“私の30”は、松本(龍)会員にアイデアをいただき、広報委員会で発展させたコラムである。全体が、単なる史実の記録に留まることなく、“面白い読みもの”にする広報委員会の目的であった。

原稿依頼の翌日早ばやと、“私の30”をお持ち下さった小林(忠)会員に感激した。

ご多忙中、快く座談会に出席下さった、歴代会長各位、病気を押しして執筆下さった牧田三代事務局長はじめ、会員各位、チャーター以来クラブの美しい写真を撮り続けて下さった牛山会員、プロット制作に熱心な議論を戦わせた広報委員各位他、どなたにも厚い感謝と深い愛情を捧げます。

紙面の関係で、割愛せざるを得なかった多くの写真、記録などの数々に涙し、この“歩み”が、各位の愛読書となることを切に願っています。

かつての、個性的で創造的な発想が、次のキワニスを支えるキーとなることを確信、当クラブが、よりクリエイティブな組織を目指して、次の30年に向けて元気に飛び立って欲しいと念願する次第です。

東京キワニスクラブ30年の歩み

1994年3月31日発行

発行者—小菅宇三治

発 行—(株)東京キワニスクラブ

〒100 東京都千代田区大手町1-7-2

サンケイビル本館 Tel03-3242-0637

扉写真—牛山善政

